山梨県韮崎市

半縄田遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1995

韮崎市教育委員会

峡北土地改良事務所

山梨県韮崎市

半縄田遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1995

韮崎市教育委員会

峡北土地改良事務所

序　文

韮崎市では近年県営圃場整備事業等の大規模開発に伴い、数多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されています。この度発刊された本報告書は、そのような貴重な発見が相次ぐ大規模開発の一端として平成６年度県営圃場整備事業に伴い発掘調査された半縄田遺跡の報告であります。

半縄田遺跡からは縄文時代の遺物や平安時代の住居、水田が発見されました。遺跡から出土した遺物は当時の生活用品である土器・陶器が主体となっており、貴重な資料を得ることができました。これらの資料は文化遺産として、永く後世に伝えて行かなければならないものです。報告書はそれらの文化財を記録にとどめたものであり、本書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

末筆ですが、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成７年３月31日

韮崎市教育委員会

教育長　秋山利良

例　　言

1　本書は、県営圃場整備事業に伴う半縄田遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、峡北土地改良事務所負担金、文化庁・山梨県の補助金を受け、韮崎市教育委員会が実施した。

3　本報告書の作成並びに整理作業は、韮崎市教育委員会社会教育課が行った。

4　遺跡出土の炭化材等の自然科学的分析は、パリノ・サーヴェイ株式会社による。

5　凡例

① 遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。② 縮尺は各挿図ごとに示した。挿図中のドットは焼土を表す。③ 遺構断面図の水糸標高（m）は数字で示した。④ 挿図中の穴等の数字は床面及び確認面からの深さを表す。⑤ 挿図断面図の ▨ は石をあらわす。⑥ 歴史時代土器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器をあらわす。⑦ 写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。

6　発掘調査及び報告書作成に当たり、多くの方々から御指導・御協力をいただいた。一々御芳名を上げることは省略させていただくが、厚く御礼を申し上げる次第である。

7　発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調査組織

1　調査主体　韮崎市教育委員会

2　調査担当　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）

3　調査参加並びに協力者（敬称略）

高左右幹雄・越石政幸・越石孝子・真壁ふみか・山形郁子・内藤勝子・細田すみ江・内藤ゑなみ・内藤隆子・内藤喜久子・赤沢茂男・赤沢みどり・山形光江・山形久子・深沢あい子・深沢市子・深沢春子・深沢光男・深沢玉枝・高左右男止女・岡部とめじ・渡辺あき子・深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・有賀京子・三井福江・青山みち枝・清水由美子

4　事務局　韮崎市教育委員会社会教育課

教育長　秋山利良、課長　福田国夫、課長補佐　長野栄太・深沢義文

係　長　中嶋尚夫、野口文香・梅川昭代

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿　図　目　次
写 真 図 版 目 次

Ⅰ　調査に至る経緯と概要 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1

1　遺跡の立地

2　周辺の遺跡

Ⅲ　遺跡の地相概観 …… 3

Ⅳ　調査の方法 …… 3

Ⅴ　遺　　構 …… 6

Ⅵ　遺　　物 …… 16

Ⅶ　ま　と　め …… 44

写 真 図 版

附篇　半縄田遺跡自然科学分析調査報告

挿　図　目　次

第１図　半縄田遺跡①と周辺の遺跡 …… 2
第２図　半縄田遺跡位置図 …… 4
第３図　半縄田遺跡全体図 …… 5
第４図　１号堀立柱建物址平・断面図 …… 6
第５図　２号住居址平・断面図 …… 7
第６図　３号住居址遺物出土状態、カマド平・断面図 …… 8
第７図　３号住居址平・断面図 …… 9
第８図　４号住居址炭化材出土状態、カマド、４号住居址平・断面図 …… 10
第９図　５号住居址平・断面図 …… 11
第10図　６号住居址遺物出土状態、カマド、６号住居址平・断面図 …… 11
第11図　７号住居址平・断面図 …… 12
第12図　８号住居址遺物出土状態、カマド、８号住居址平・断面図 …… 13
第13図　水田跡、平・断面図 …… 14
第14図　１号溝平・断面図 …… 15
第15図　１号堀立柱建物址出土遺物 …… 27
第16図　１号堀立柱建物址出土遺物 …… 28
第17図　２号住居址出土遺物 …… 29
第18図　３号住居址出土遺物 …… 30
第19図　３号住居址出土遺物 …… 31
第20図　３号住居址出土遺物 …… 32
第21図　３号住居址出土遺物 …… 33
第22図　４号住居址出土遺物 …… 34
第23図　５号住居址出土遺物 …… 34
第24図　６号住居址出土遺物 …… 34
第25図　６号住居址出土遺物 …… 35
第26図　７号住居址出土遺物 …… 36
第27図　８号住居址出土遺物 …… 37
第28図　８号住居址出土遺物 …… 38
第29図　遺構外出土遺物 …… 39
第30図　遺構外出土遺物 …… 40
第31図　遺構外出土遺物 …… 41
第32図　遺構外出土遺物 …… 42
第33図　遺構外出土遺物 …… 43

写 真 図 版 目 次

図版１　遺跡遠景，１号堀立柱建物址，２号住居址

図版２　発掘風景，３号住居址遺物出土状態，３号住居址

図版３　遺跡近景，４号住居址炭化材出土状態，４号住居址

図版４　５号住居址，調査風景，発掘風景

図版５　６号住居址遺物出土状態，測量風景，６号住居址

図版６　７号住居址，８号住居址遺物出土状態，８号住居址

図版７　水田跡，遺跡近景

図版８　１号堀立柱建物址出土遺物，２号住居址出土遺物，３号住居址出土遺物

図版９　３号住居址出土遺物，４号住居址出土遺物，５号住居址出土遺物
　　６号住居址出土遺物

図版10　７号住居址出土遺物，８号住居址出土遺物，遺構外出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯と概要

平成６年度県営圃場整備事業実施にともない、本市教育委員会では韮崎市圃場整備室から依頼を受け、事業予定地区を平成５年度に踏査及び試掘を行い、遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、峡北土地改良事務所・山梨県教育庁文化課・市教育委員会で協議を行い、圃場整備事業に先立って面積約3,000㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、平成６年７月中旬より開始し約４カ月間おこなった。引き続き、遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成７年３月であった。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

１　遺跡の立地

半縄田遺跡は、山梨県韮崎市円野町入戸野字半縄田地内に所在し、小字名を遺跡名とした。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。

韮崎市の西部は、南アルプスの連峰が連なり、その前衛に階段状に山々が屹立している。これらの山々からは大小の渓流が流れ出しそれぞれ扇状地をつくりだしている。扇状地の末端は南東流する釜無川によって侵食され急崖となり河岸段丘を形成している。段丘上は山麓の台地と緩傾斜の平坦面に分かれ、台地上は駿信往還が通る交通の要路となっており、中世には辺境武士団武川衆の拠点でもあった。半縄田遺跡はこのような釜無川右岸河岸段丘の標高約448mの水田・畑下に発見された。

２　周辺の遺跡

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
①	半縄田遺跡		
②	二反田遺跡	弥生・奈良・平安	平成５年度　韮崎市教育委員会調査
③	北堂地遺跡	縄文・平安・中世・近世	平成２年度　韮崎市教育委員会調査
④	堂地遺跡	縄文・平安・明治	
⑤	中本田遺跡	縄文	昭和61年度　韮崎市教育委員会調査
⑥	中道遺跡	縄文・平安	昭和60年度　韮崎市教育委員会調査
⑦	下木戸遺跡	平安	

第１図　半縄田遺跡①と周辺の遺跡（１：50000）

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
⑧	伊藤窪第２遺跡	縄文・古墳・中世	平成２年度　韮崎市教育委員会調査
⑨	宿　尻　遺　跡	縄文	平成３年度　山梨県埋蔵文化財センター調査
⑩	能　　見　　城	中世城郭	
⑪	新　府　城　跡	中世城郭	国指定史跡
⑫	大豆生田遺跡	縄文・弥生・平安	昭和49年度　山梨県教育委員会調査
⑬	大小久保遺跡	平安	昭和57年度　須玉町教育委員会調査
⑭	湯　沢　遺　跡	平安	昭和58年度　高根町教育委員会調査
⑮	宮 間 田 遺 跡	平安	昭和60･61年度　武川村教育委員会調査
⑯	大豆生田砦遺跡	中世	
⑰	宇波円井遺跡	縄文	
⑱	向　原　遺　跡	縄文・弥生・平安	昭和59年度　武川村教育委員会調査
⑲	長坂上条遺跡	縄文	大山柏・他　「山梨県日野春村長坂上条発掘調査報告」『史前学雑誌』13－3　1941年
⑳	上 本 田 遺 跡	縄文・奈良・平安	平成３年度　韮崎市教育委員会調査

III　遺跡の地相概観

半縄田遺跡は、入戸野集落の北側段丘上に位置する。西から東に向かって傾斜をもった半円形に張り出した台地で、東側は徳島堰が南流し畑・水田が形成されている。周囲は水田が広がり、比較的眺望のよい場所である。調査区域南端において土層を観察すると、水田床土下には暗褐色系土～暗灰褐色土層が形成され、それを取り除くと小礫を含んだ暗黄褐色土となる。遺構は暗褐色土～暗灰褐色土中に掘りこまれていた。

Ⅳ　調査の方法

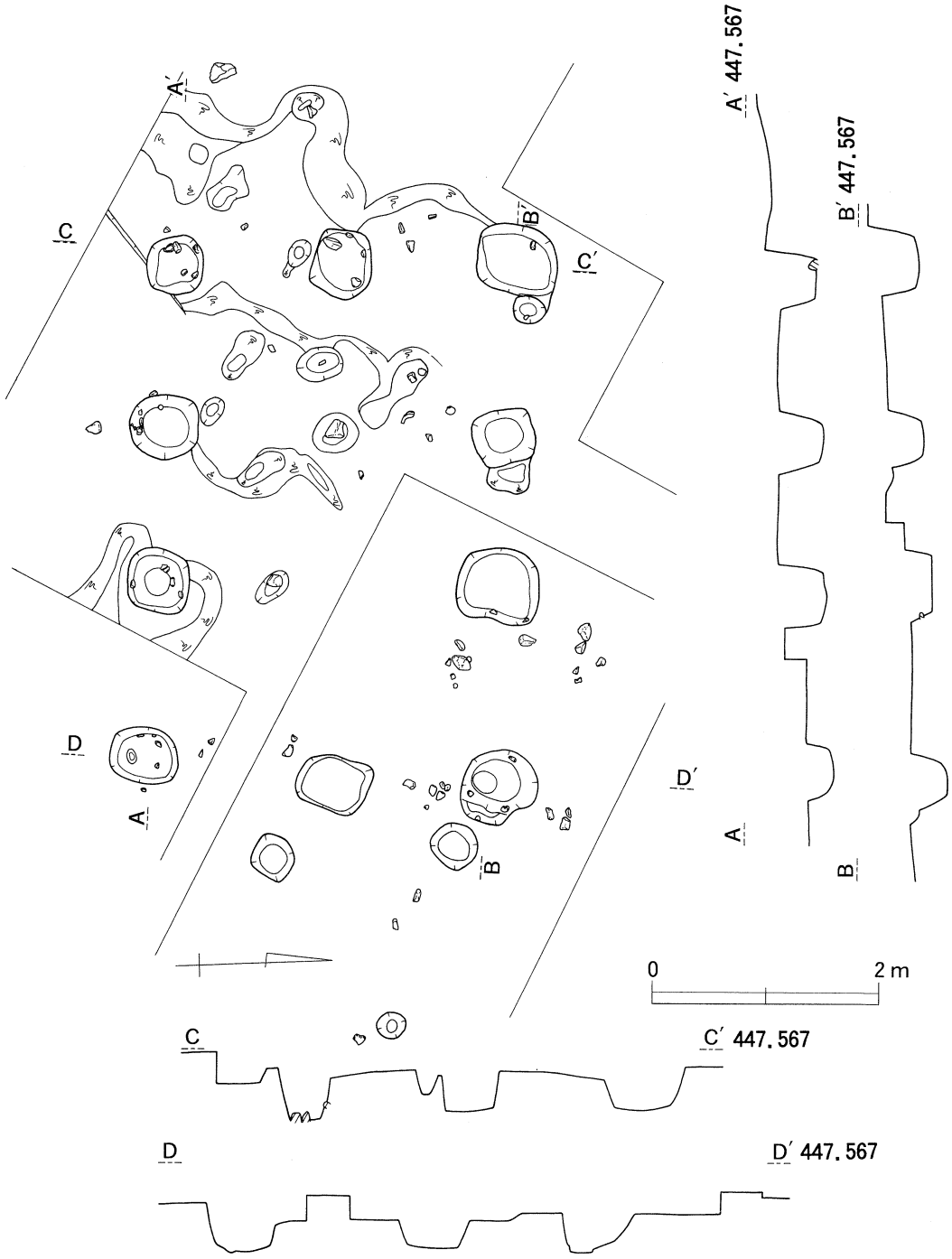
地形を考慮し任意に５m方眼を設定し調査を行った。耕作土・表土を排除した後、鋤簾等により精査を行い、遺構確認の後、掘り下げを行った。遺物は出るが遺構の確認困難な箇所はグリットの掘り下げを行い、また随時補助的試掘用小溝を設定し調査を実施した。

第２図　半縄田遺跡位置図（１：6000）

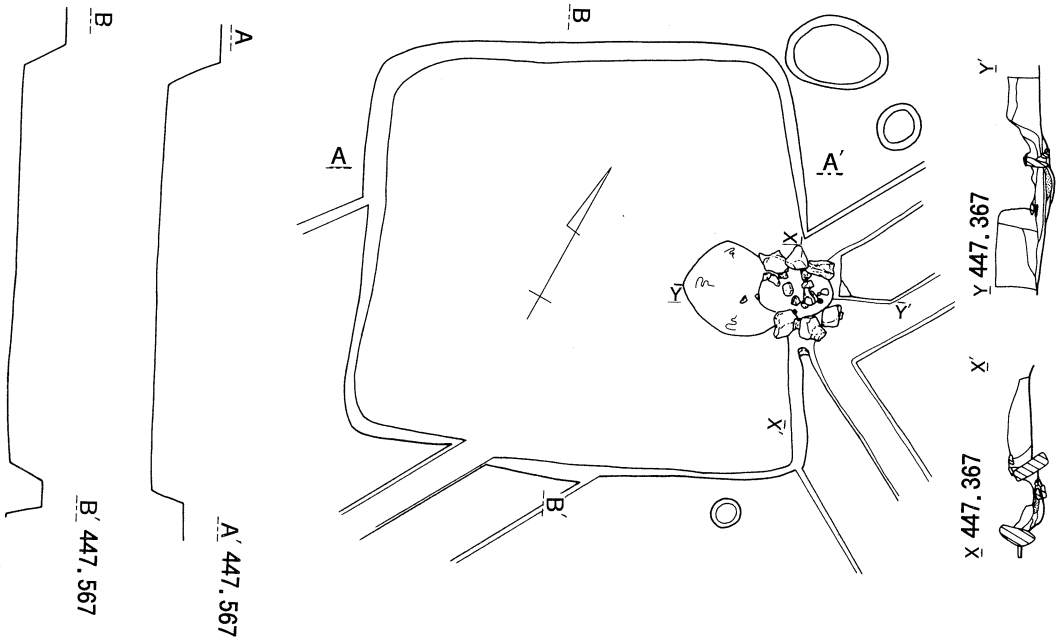
第３図　半縄田遺跡全体図（１：750）

V 遺　　構

調査の結果発見された遺構は、堀立柱建物址１棟、竪穴住居址７軒のほかに溝状遺構・水田跡が発見された。以下現場で付けた番号順にみていこう。



第４図　１号堀立柱建物址平・断面図（１：60）



第５図　２号住居址平・断面図（１：60）

＜１号堀立柱建物址＞（第４図）

調査区域のほぼ中央に位置する。長方形の二間×三間の側柱建物址。柱間は約1.5m。確認面からの深さは30cm前後となっている。長軸はほぼ東西方向となっている。本遺構は当初黒褐色土の落ち込みで竪穴住居を想定したが、掘り進むなか住居址床面は確認されず穴が並ぶことが判明し１号堀立柱建物址とした。

＜２号住居址＞（第５図）

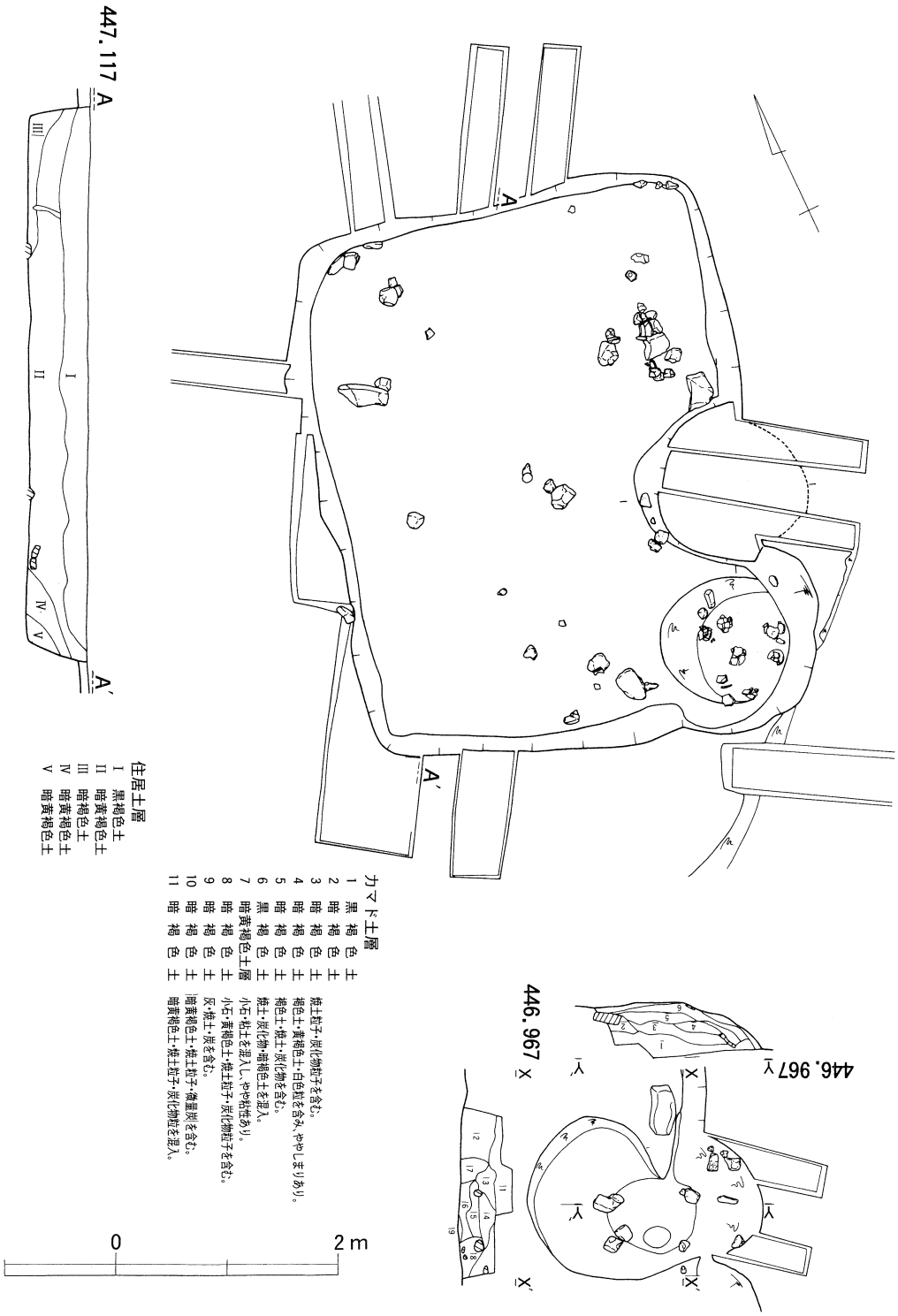
調査区域北東側に位置する。平面形は隅円長方形を呈する。東西約3.5m、南北約3.5mの大きさをもつ。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは25～40cm前後である。床面はほぼ平坦。柱穴・周溝はない。カマドは東側に石組で構築され、東西1.3m、南北80cmの大きさをもつ。

＜３号住居址＞（第６・７図）

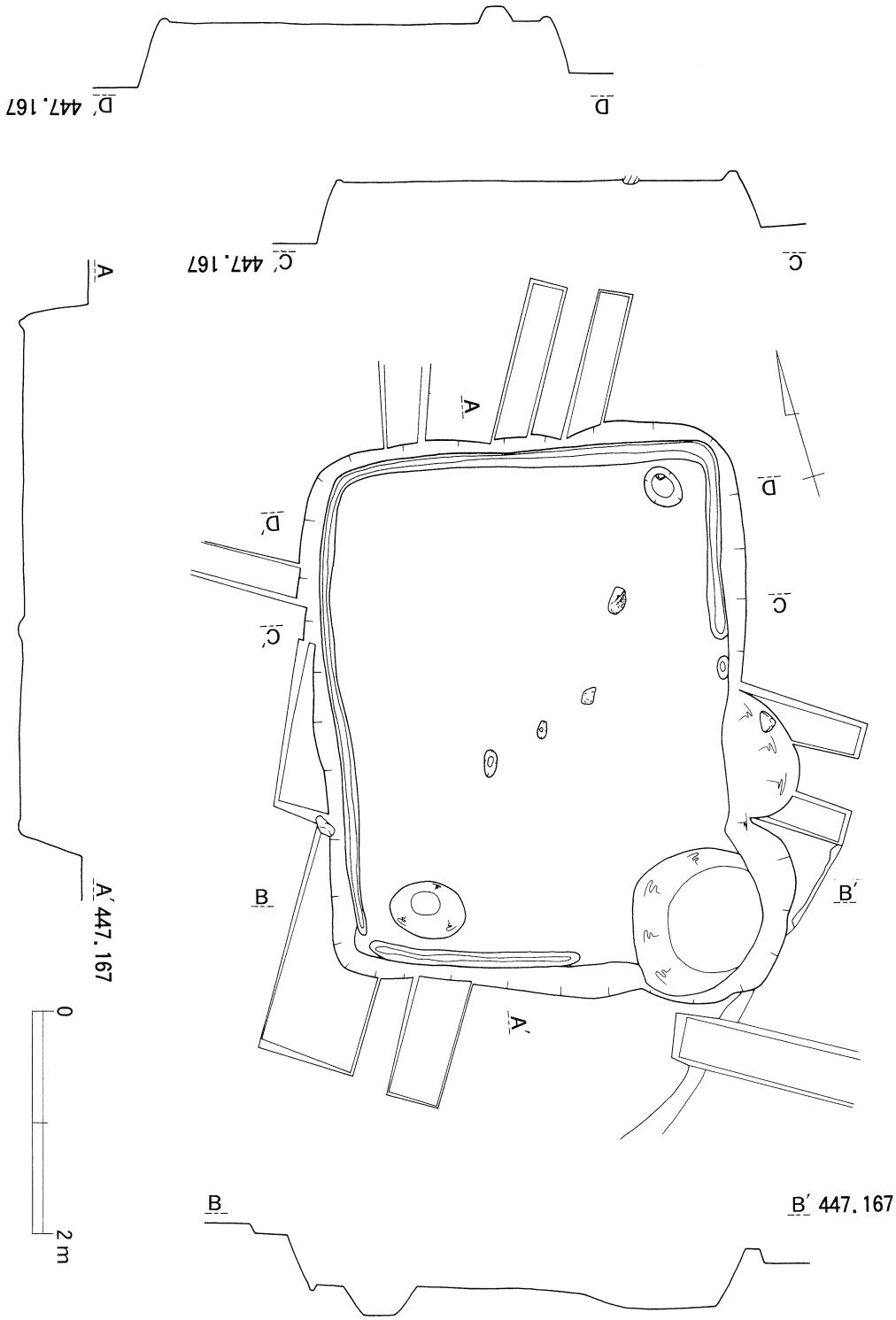
調査区域北東端に位置する。平面形は隅円長方形を呈する。東西約４m、南北約５m程の広さをもつ。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは50cm前後で、比較的深い竪穴となっている。床面は平坦で周溝がめぐる。カマドは東壁に構築される。カマド北側には火熱を受け脆くなった長さ25cm幅15cmの平な面を上にした石があり、その石の東側には石がまとまっており、鞴の羽口や鉄滓が出土していることから何らかの鍛冶遺構と想像できる。

＜４号住居址＞（第８図）

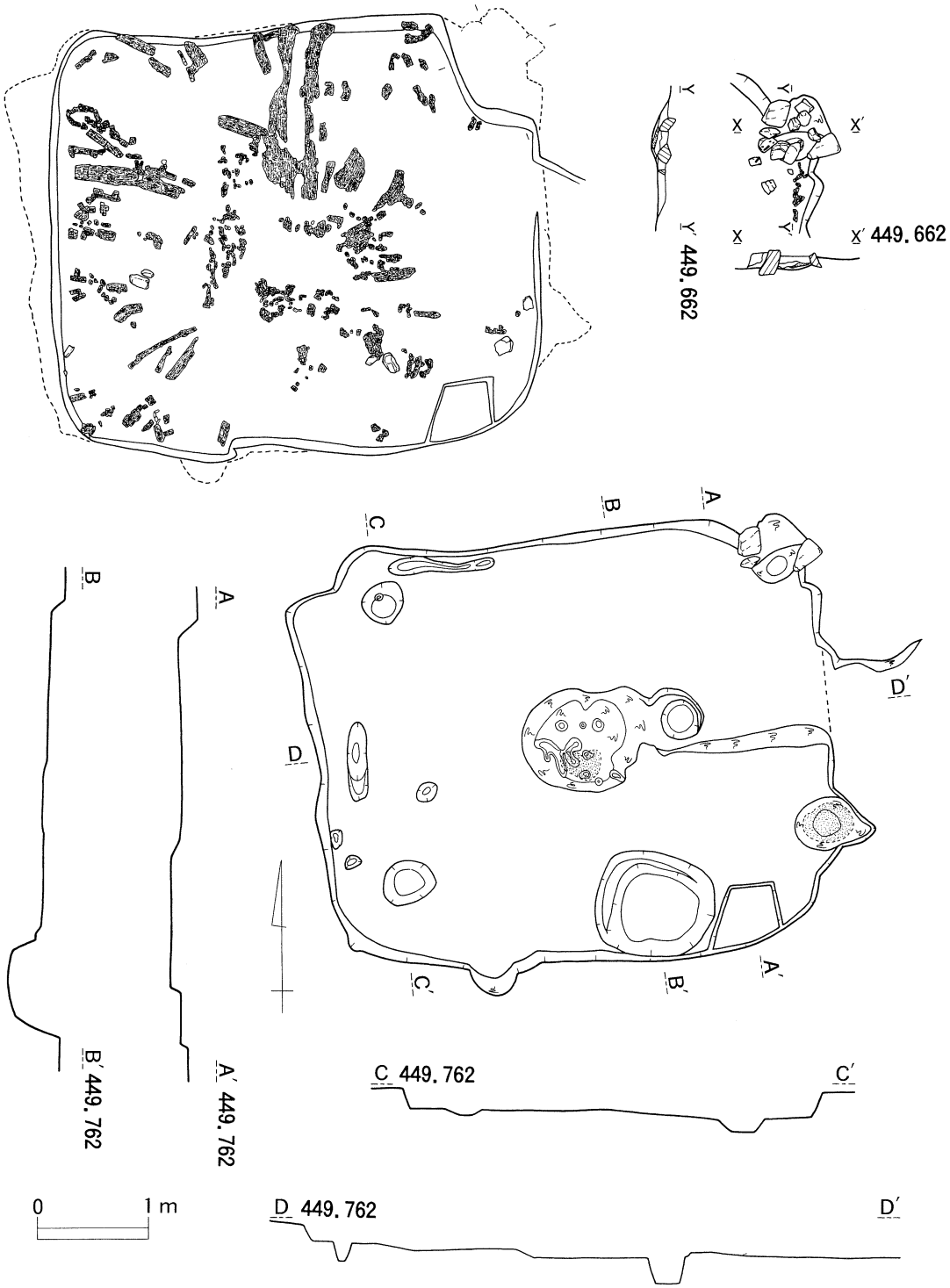
調査区域北半分西端に位置する。焼失家屋であろうか、炭化材が竪穴の四方から中心に向かって検出された。規模は東西4.7m、南北3.9mで、平面形は隅円長方形を呈する。カマドは北東角に石を用いて構築され、80cm前後の大きさをもつ。別に東壁南側に焼土があり、どうもカマドに使用された



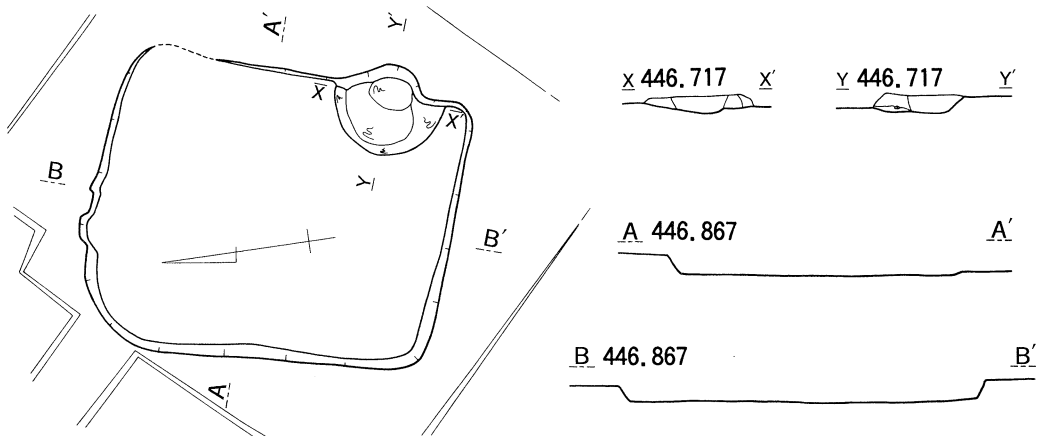
第６図　３号住居址遺物出土状態、カマド平・断面図（１：60）



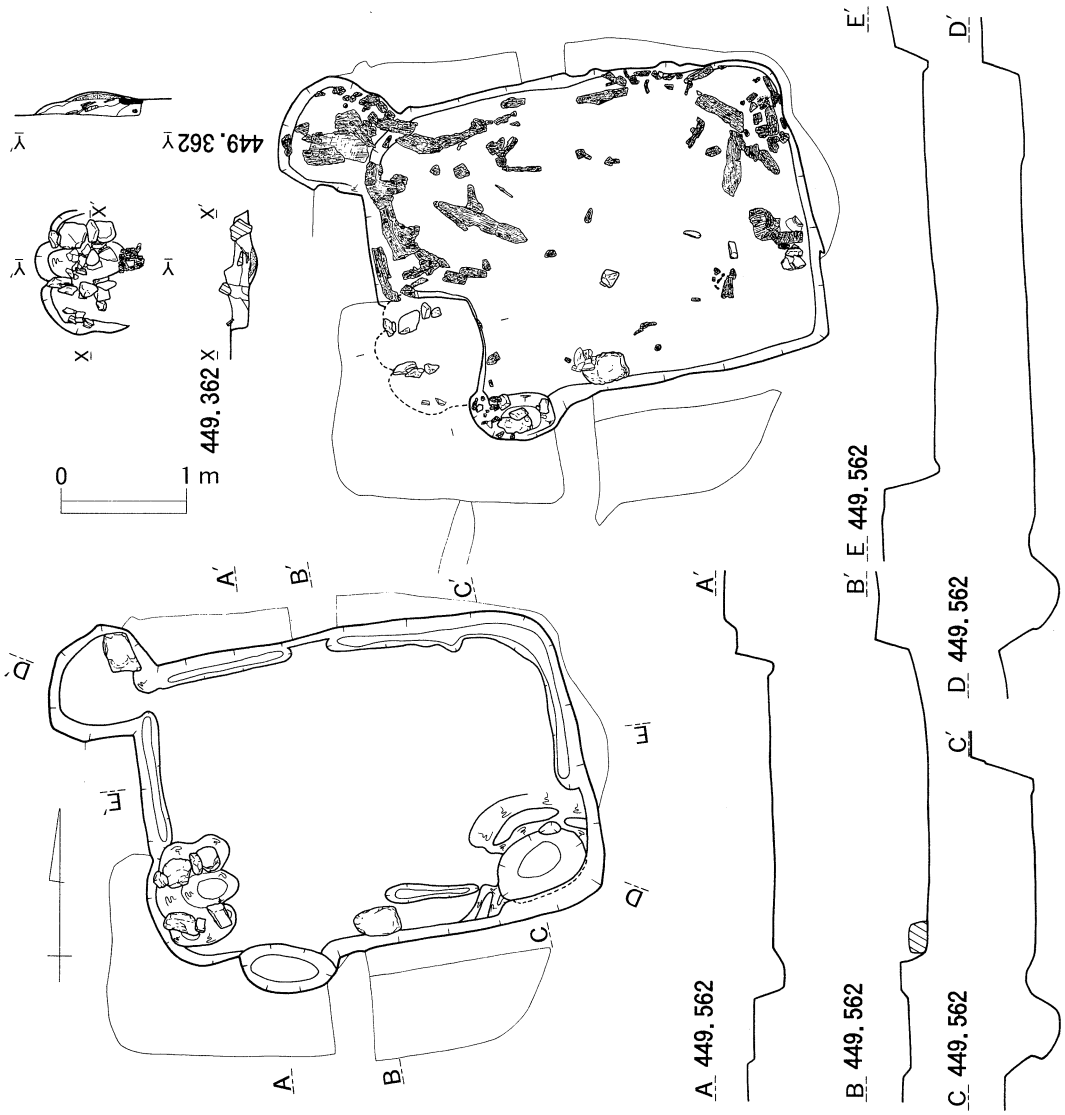
第７図　３号住居址平・断面図（１：60）



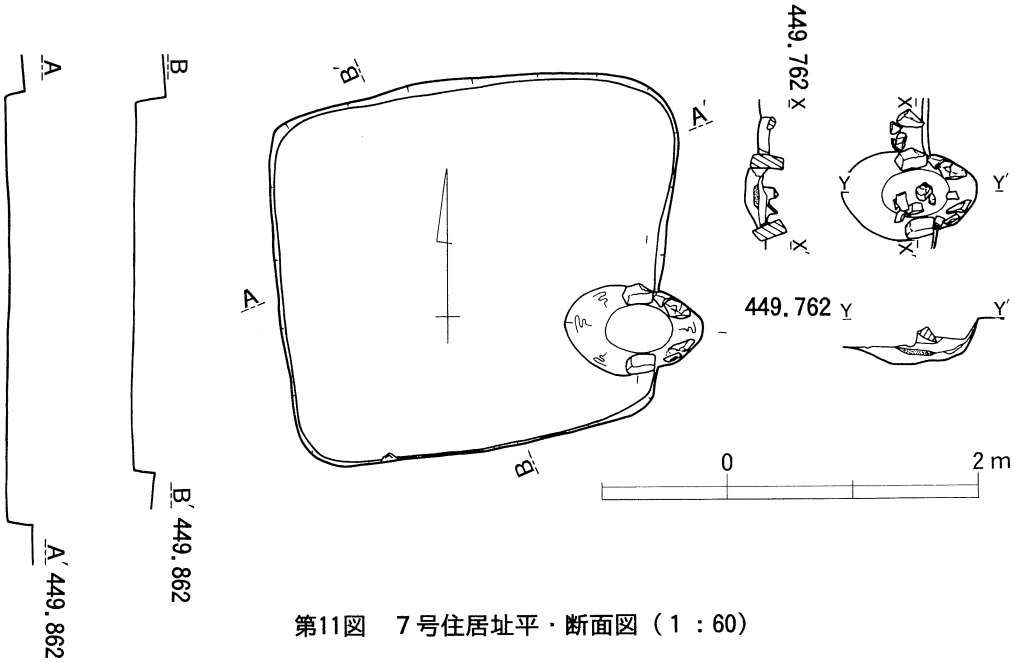
第８図　４号住居址炭化材出土状態、カマド、４号住居址平・断面図（１：60）



第９図　５号住居址平・断面図（１：60）



第10図　６号住居址遺物出土状態、カマド、６号住居址平・断面図（１：60）



第11図　７号住居址平・断面図（１：60）

痕跡と思われる。本住居ではカマドがつくり変えられたのであろう。床面は西から東へやや傾斜し、中央部分が径１m前後で凹み堅い焼土がみられた。柱穴ではないと思われるが、穴が三箇所に発見された。周溝はない。西側に細長い穴があった。南側壁東寄りのところから凸堤状の高まりが張り出し、その西側に約1.1m×90cm、深さ約30cmの楕円形の土坑がある。壁は外傾しながら立ち上がり、高さは遺存部分で10～20cm前後となっている。南壁西寄りの部分は外側へ張り出している。

＜５号住居址＞（第９図）

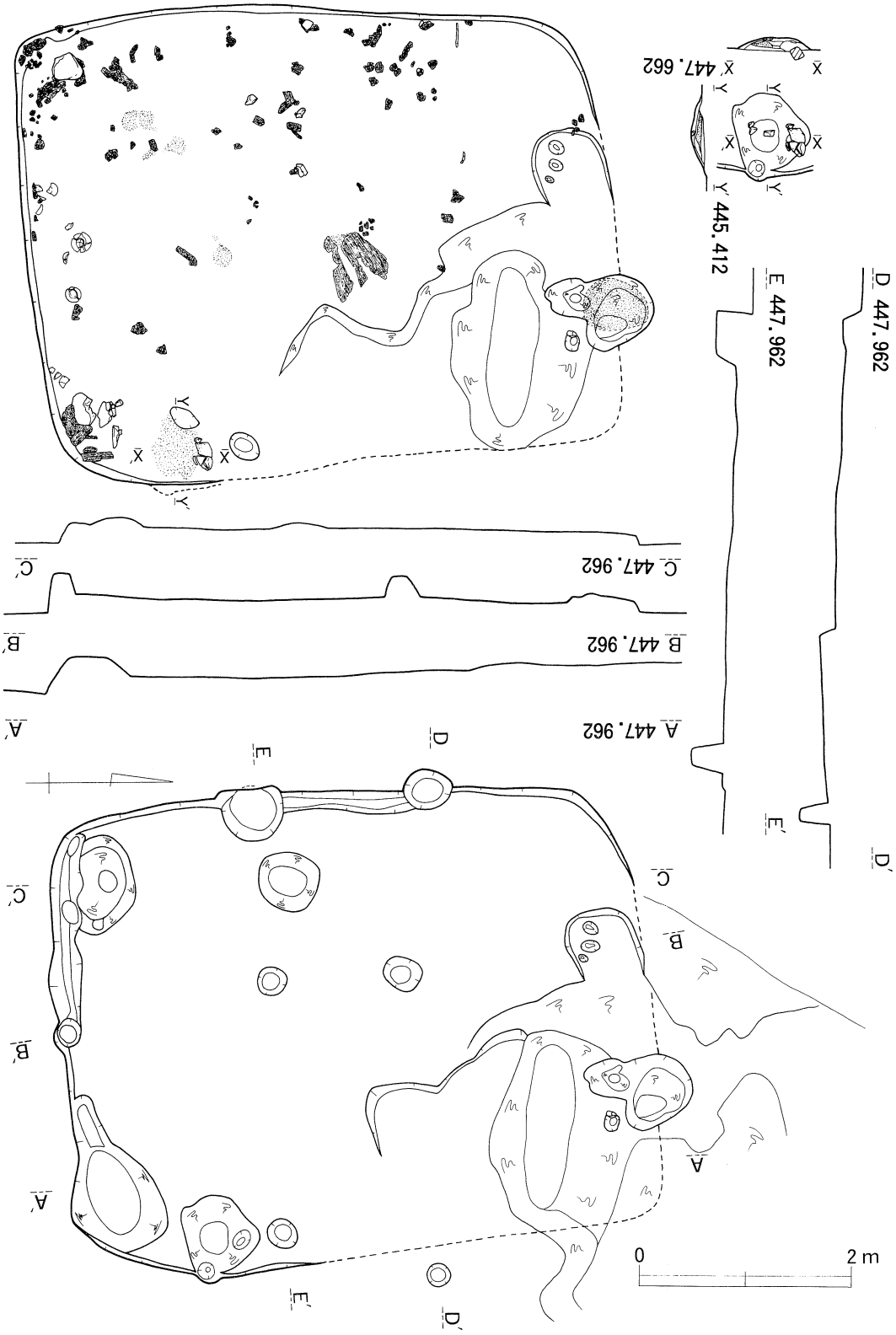
調査区域東端に位置する。東西2.4m、南北2.8mの大きさで、隅円長方形の平面形を呈する。壁高は５～15cm前後で、外傾した壁となっている。カマドは東壁に構築され、90×80cmの大きさとなっている。周溝・柱穴はない。

＜６号住居址＞（第10図）

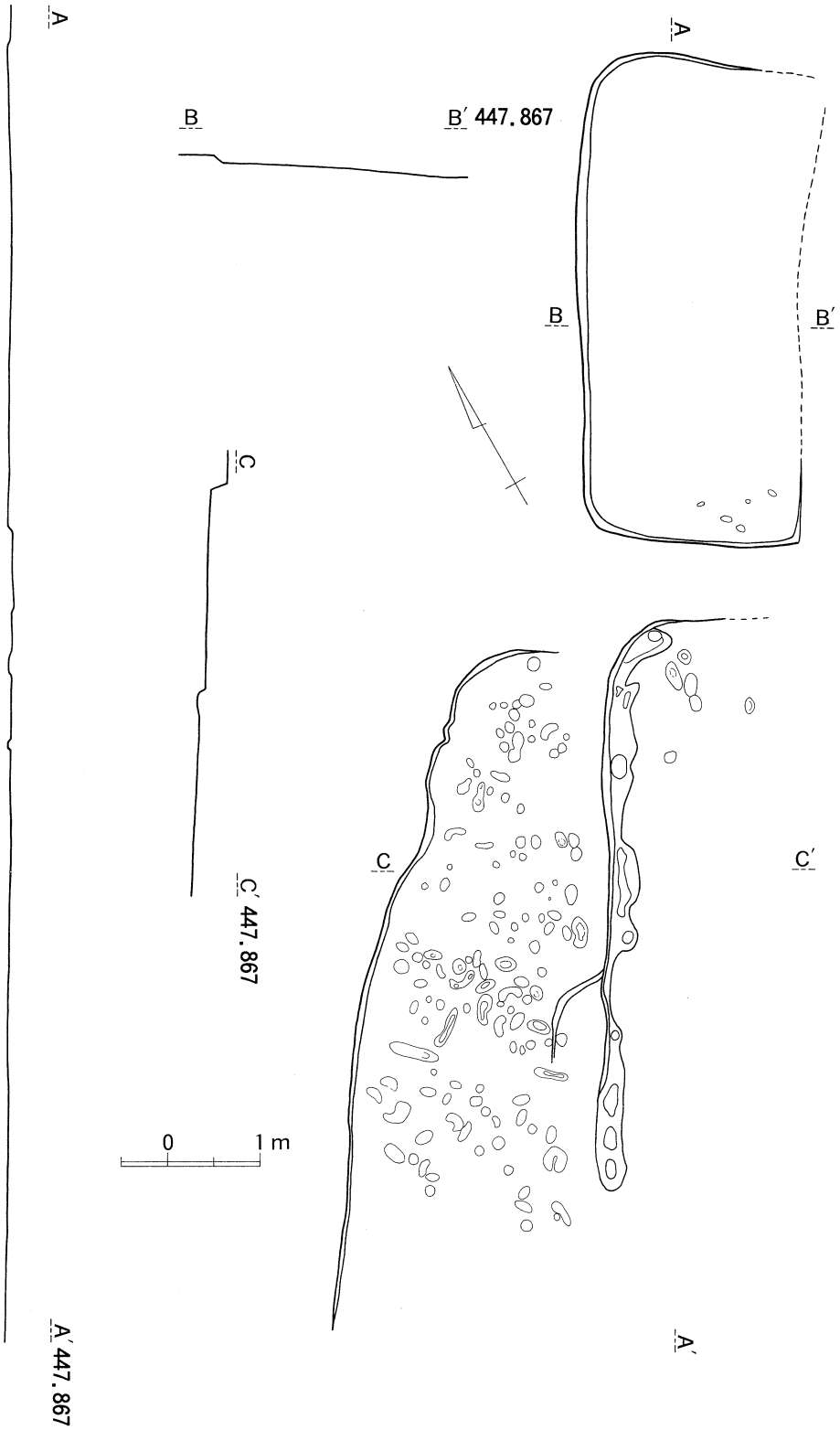
調査区域北半分、４号住居址東側に位置する。焼失家屋であろう、炭化材が多く検出された。規模は東西3.5m、南北2.5mで、平面形は基本的に長方形を呈する。カマドは南西隅に石を用いて構築され、長さ90cm、幅70cm程の大きさをもつ。壁は外傾して立ち上がり、深さ25～50cm前後となっている。床面はやや中央部分が凹む。柱穴はない。周溝は東・北・西にある。南側壁中央には壁に接して15×20×35cm程の石があった。南東隅には部分的に土手状の高まりがめぐる径75×50cm程の楕円形の土坑がある。カマド脇南側には径75×40cm程の長楕円形の土坑が張り出している。また北西角からは１m×80cmの不整形に飛び出し部分がつくられ、20×30cm程の石が置かれていた。

＜７号住居址＞（第11図）

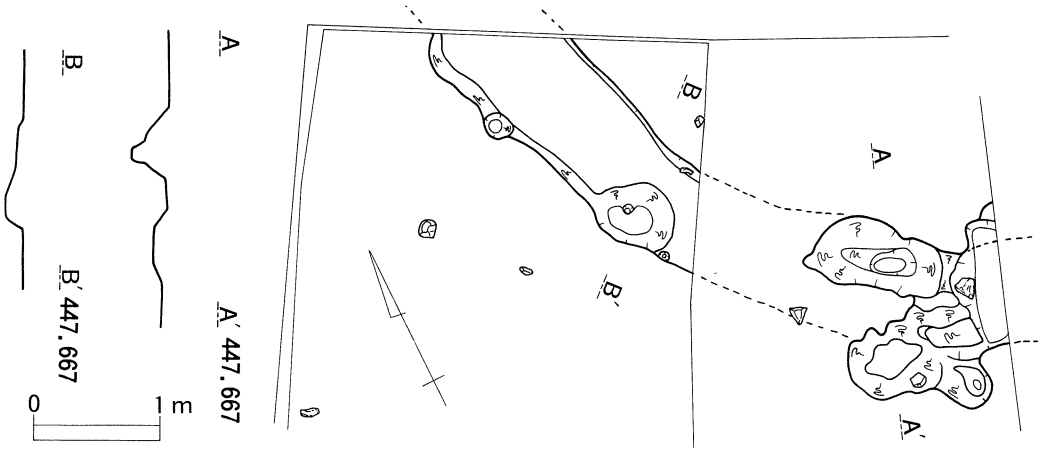
調査区域北端に位置する。平面形は不整の隅円方形で、一辺約３mの大きさ。カマドは東壁南側に石を用いて構築され、長さ1.1m、幅75cm程。柱穴・周溝はない。



第12図　８号住居址遺物出土状態、カマド、８号住居址平・断面図（１：60）



第13図　水田跡、平・断面図（1：75）



第14図　１号溝平・断面図（１：60）

＜８号住居址＞（第12図）

調査区域中央北側に位置する。東西4.5m、南北5.5mの比較的大きな竪穴であるが、北東側半分程を排土作業に際して削平してしまった。平面形は隅円長方形を呈する。火災にあったものか、炭化材が散乱していた。壁は遺存部分のよいところで20cmほどである。カマドは、北側に焼土が丸く検出された箇所と、東壁南側近くに焼土が集中していた所の二箇所と思われ、つくり変えが行なわれたものであろう。床面はほぼ平坦。柱穴と思われるものはないが、いくつかの小穴が検出された。周溝は南側と西側に部分的にある。南東隅には１m前後の不整円形の土坑がある。

＜水田跡＞（第13図）

調査区域中央西側に位置する。北側に１つ、南側に２つの３面確認されたが、北側の2.4m×5.3m程の小区画のもの以外は、大きさは不明瞭であった。西側のものは足跡が多く見られた。北側と南側区画の間には80cmほどの幅があり、畦道であったと思われる。

＜１号溝＞（第14図）

調査区域北東端に位置する。北西から南東に流れをもつ溝。削平が著しい。

Ⅵ 遺　　物

本遺跡から出土した遺物は、各住居址に伴うものが主体で、水田跡からは、遺構の時代を特定出来る遺物は出土しなかった。

＜1号堀立柱建物址出土遺物＞（第15･16図）

遺構を覆っていた黒褐色土中よりの出土がほとんどであり、柱穴からは土師器坏２点の出土が目立った。他に特殊なものとして漆紙破片、瓦塔破片１点が出土している。漆紙には墨書痕は見られなかった。

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	高台付坏	——, ——, 6.8	白・赤色粒子を含む	灰赤色 赤灰色	底部－回転糸切り後、削り出し高台 1/4残
2	須恵器	凸帯付四耳壷	——, ——, ——	白色粒子を含む	褐灰色	内面－横撫で 外面－肩部に断面三角形の凸帯が横走し、四ヶ所に縦に貫通した穴をもつ耳が付いている。胴部は縦方向の縄目の叩き目がみられるが磨滅によりやや不鮮明 頸部～胴上半部破片
3	土師器	蓋	——, 16.0, ——	白・黒色粒子を含む	黄灰色 にぶい橙色	外面－回転ヘラ削り 1/8残
4	土師器	坏	3.6, 10.6, 5.2	赤・白色粒子を含む	橙　色	内面－暗文 外面－ヘラ削り 底部－ヘラ削り 1/2残
5	土師器	坏	4.1, 10.6, 5.6	白・赤色粒子を含む	黄橙色～橙色 橙　色	内面－暗文 外面－ヘラ削り 底部－回転糸切り後、ヘラ削り ほぼ完形
6	土師器	坏	4.2, 10.4, 4.2	赤・白色粒子を含む	橙　色	内面－暗文があるが磨滅により不鮮明 外面－ヘラ削り 底部－回転糸切り痕 2/3残
7	土師器	坏	4.1, 11.4, 5.4	白・赤色粒子を含む	橙　色 黄橙色	口縁部－一部煤付着 外面－ヘラ削りがみられるが磨滅により不鮮明 1/4残
8	土師器	高台付坏	6.7, 14.0, 7.6	白色粒子を含む	灰褐色	内・外面－ロクロ成形、黒色土器 底部－回転糸切り痕があるが不鮮明　付高台 1/3残
9	灰釉陶器	高台付坏	——, 17.6, 7.6	白・赤色粒子を含む	灰白色 淡黄色	内面－施釉があるが磨滅により不鮮明　付高台 1/4残
10	土師器	高　坏	——, ——, ——	赤・白色粒子を含む	橙　色 にぶい橙色	内面－横撫でによる凹凸がみられる 外面－ロクロによる撫での後、脚部上部から下部にかけて丁寧な削りにより８角形を形整している 脚部破片
11	土師器	高　坏	——, ——, ——	白・赤・黒色粒子を含む	橙　色 にぶい橙色	内面－横撫でによる凹凸がみられる 横刷毛目あり 外面－丁寧な削りによる10角形を形整している 脚部破片
12	土師器	高　坏	——, ——, ——	白・赤色粒子を含む	橙　色	内面－横撫でによる凹凸がみられる 外面－ロクロによる撫での後、脚部上部から下部にかけて丁寧な削りにより９角形を形整している 脚部破片
13	土師器	高　坏	——, ——, ——	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色	内面－横撫でによる凹凸がみられる 外面－ロクロによる撫での後、脚部上部から下部にかけて丁寧な削りにより８角形を形整している 脚部破片
14	土師器	小型甕	——, 14.8, ——	白・黒色粒子 金雲母を含む	橙　色 にぶい橙色	内面－口縁部～胴部に横刷毛目 外面－縦刷毛目があるが磨滅により不鮮明 口縁部～胴部の破片
15	土師器	羽　釜	——, 22.0, ——	白・赤・黒色粒子、金雲母を含む	橙　色 橙色一部黒変	外面－口縁部から鍔部に横撫で 口縁部～鍔部破片

（単位　cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
16	土師器	甕	＿＿, 33.4, ＿＿	白・赤色粒子、金雲母を含む	にぶい橙色 橙　色	内面－横刷毛目だが磨滅により不鮮明 外面－横刷毛目 1/3残
17	土師器	土　錘	長さ ＿＿, 幅 1.0, 孔径 0.3	白・赤色粒子を含む	橙　色	外面－磨滅により不鮮明 両端欠損
18	灰釉陶器	甕	＿＿, ＿＿, 12.0	白・黒色粒子を含む	灰黄色 褐灰色	内面－刷毛による施釉 外面－斜位に叩き目が施されている 刷毛による施釉 胴部～底部破片
19	陶　器		＿＿, 1.0, ＿＿	白色粒子、金雲母を含む	灰　色	外面－施釉されている 注ぎ口破片
20	石　器	碁　石	長さ 1.7, ＿＿, 厚さ 0.5	密	暗青灰色	
21	鉄　器					
22	鉄　器					
23	土師質	瓦　塔	＿＿, ＿＿, ＿＿	白・赤色粒子を含む	淡橙色	破片

＜２号住居址出土遺物＞（第17図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	5.1, 9.8, 5.4	金雲母、白・赤色粒子を含む	明赤褐色	内面－暗文があるが、磨滅により不鮮明 外面－胴下半部にヘラ削り 底部－回転糸切り後ヘラ削り　1/3残
2	土師器	甕	＿＿, ＿＿, 9.2	白色粒子を含む	浅黄橙色 橙　色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目 体部～底部破片
3	土師器	甕	＿＿, 22.5, ＿＿	白・赤色粒子を含む	にぶい橙色 橙　色	外面－縦刷目がみられるが磨滅により不鮮明 口縁部～胴部破片
4	土師器	甕	＿＿, 21.6, ＿＿	白・赤色粒子を含む	明褐灰色 にぶい橙色	外面－横撫で 口縁部～胴部破片
5	土師器	甕	＿＿, 22.0, ＿＿	白・赤色粒子を含む	橙　色 にぶい橙色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目 1/3残

＜３号住居址出土遺物＞（第18･19･20･21図）

床面上からの出土品が多かった。緑釉陶器は注目される。南東隅に張り出した径1.4mの土坑的施設からはまとまって土師器・灰釉陶器が出土した。遺物のところでも記したが、鞴の羽口や鉄滓が出土しており、本遺構は村の鍛冶屋さんであろうか。

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	甕	＿＿, ＿＿, ＿＿	白色粒子を含む	灰　色	外面－波状文がみられる 口縁部破片
2	須恵器	甕	＿＿, ＿＿, 20.0	黒色粒子を含む	灰　色	内面－輪積み痕がみられる 外面－叩き目がみられる 底部破片

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
3	須恵器	甕	——, ——, 21.0	赤・白色粒子を含む	灰色 黄褐色	内面－横刷毛目 外面－叩き目 破片
4	土師器	坏	3.7, 12.7, 5.2	赤色粒子の目立つ砂粒を含む	橙色	外面－墨書と下半にヘラ削りがみられるが磨滅により不鮮明 底部回転糸切り後ヘラ削り 整形は粗　ほぼ完形
5	土師器	坏	3.9, 13.4, 5.6	金雲母少量と赤・白色粒子を含む	にぶい赤褐色 橙色	外面－体部下半ヘラ削り 墨書あり 底部－ヘラ削り　1/3残
6	土師器	坏	5.0, 15.0, 5.3	赤色粒子の目立つ砂粒を含む	橙色	外面－墨書と下部にヘラ削りがみられるが磨滅により不鮮明 底部－回転糸切り後ヘラ削り 整形は粗　5/6残
7	土師器	坏	4.6, 14.6, 5.5	赤・白色粒子を含む	橙色	外面－体部墨書がみられる 底部－回転糸切り後ヘラ削り 1/2残
8	土師器	坏	3.7, 13.2, 6.2	金雲母・雲母と白・赤色粒子を含む	橙色	外面－体部墨書、下半ヘラ削り 底部－回転糸切り痕 1/5残
9	土師器	皿	2.5, 12.5, 5.0	白・赤色粒子を含む	橙色	外面－体部墨書、下半ヘラ削り 底部－回転糸切り後ヘラ削り 4/5残
10	土師器	坏	3.9, 15.5, 6.0	赤・白色粒子を含む	橙色	外面－体部下半ヘラ削り墨書がみられる 底部－回転糸切り後ヘラ削り 1/4残
11	土師器	坏	——, ——, 5.5	赤色粒子のまじる粗い砂粒を多く含む	橙色	外面－下半ヘラ削り 墨痕がみられる 底部－回転糸切り後ヘラ削り 口縁部欠損
12	土師器	坏	3.5, 13.2, 4.0	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	外面－体部下半ヘラ削り 墨書あり 1/2残
13	土師器	坏	——, ——, ——	赤・白色粒子を含む	橙色	体部墨書 破片
14	土師器	坏	——, ——, ——	赤・白色粒子を含む	橙色	体部墨書 破片
15	土師器	坏	——, ——, ——	赤色粒子を含む	橙色	体部墨書 破片
16	土師器	皿	——, ——, ——	赤・白色粒子を含む	橙色	口縁下部に墨書 破片
17	土師器	坏	——, ——, ——	赤・白色粒子と金雲母を含む	橙色	体部下部墨書 破片
18	土師器	坏	——, ——, ——	赤・白色粒子を含む	橙色	口縁下部に墨書 破片
19	土師器	坏	——, 14.0, ——	赤色粒子のまじる粗い砂粒を多く含む	橙色	外面－下半～底部にかけヘラ削り痕と墨痕がみられる 1/5残
20	土師器	埦	4.7, 11.8, 6.4	白色粒子を含む	黒色 浅黄橙色	内黒 底部－削り出し高台 3/4残
21	土師器	坏	——, ——, 5.4	赤色粒子を少し白色粒子を多く含む	黒色 にぶい橙色～褐灰色	内黒 付高台 底部破片
22	土師器	坏	——, 12.4, ——	白色粒子を多く含む	黒色 浅黄橙色～にぶい橙色	内黒 付高台（高台は欠損） 1/3残

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
23	土師器	坏	——, ——, 7.7	赤・白色粒子を含む	黒　色 橙　色	内黒 底部を墨池として使用か 底部破片
24	土師器	坏	4.1,14.8, 6.0	赤・白色粒子を含む	橙　色	内面－刷痕あり 外面－体部下半ヘラ削り 底部－回転糸切り痕　1/3残
25	土師器	坏	3.5,13.4, 6.6	金雲母と赤・白色粒子を含む	明赤褐色 にぶい赤褐色	外面－体部下半ヘラ削り 底部－回転糸切り痕　1/4残
26	土師器	坏	4.3,13.8, 5.6	赤・白色粒子を含む	橙　色	外面－体部下半ヘラ削り 底部－回転糸切り痕　2/5残
27	土師器	坏	3.3,10.8, 5.0	赤・白色粒子を含む	褐灰色 にぶい褐色	内黒？ 底部－回転糸切り後ヘラ削り 3/4残
28	土師器	坏	——, ——, 5.7	赤・白色粒子 金雲母を含む	にぶい橙色 橙　色	底部－回転糸切り痕 底部破片
29	土師器	坏	4.7,15.2, 5.4	白・赤色粒子と金雲母がわずかにみられる	橙　色	外面－体部下半ヘラ削り 底部－回転糸切り後ヘラ削り 2/5残
30	土師器	坏	4.4,13.6, 6.2	赤・白色粒子を含む	黄橙色	底部－回転糸切り痕 1/2残
31	土師器	鉢	——,31.0,——	白・黒色粒子 金雲母を含む	赤褐色 暗赤褐色	口縁部－横刷毛目 薄口縁型の外面にもう１枚粘土紐を張りつけている 内面－横刷毛目　口縁部破片
32	土師器	鉢	——,23.6,——	白・黒色粒子を含む	黒　色 橙　色	内黒 外面－体部に沈線が横走する 口縁部～体部破片
33	土師器	鉢	——,25.4,——	赤・白色粒子を含む	にぶい橙色 にぶい褐色	内面－撫で 破片
34	土師器	鉢	——,27.6,——	赤・白色粒子を含む	浅黄橙色 褐灰色と浅黄橙色	外面－体部ヘラ削り 破片
35	土師器	鉢	——, ——, ——	金雲母、白色粒子を多量に含む	赤褐色 一部黒変	内面－横方向刷毛目 外面－頸部縦方向刷毛目 口縁部破片
36	土師器	皿	1.9,12.2, 4.7	砂粒を多く含む	橙　色 にぶい橙色	外面－下半～底部ヘラ削り 1/4残
37	土師器	皿	2.2,12.6, 4.7	粗い赤・白色粒子を含む	橙　色	外面－下半ヘラ削り 底部－回転糸切り後ヘラ削り 1/2残
38	土師器	皿	2.7,13.0, 4.0	金雲母、粗い赤・白色粒子を多く含む	橙　色 黄橙色 一部橙色	外面－下半ヘラ削り 表面磨滅によりザラついている 底部－回転糸切り後ヘラ削り 1/4残
39	土師器	皿	2.7,11.2, 2.8	赤・白色粒子を含む	橙　色	口縁部煤付着 外面－体部下半ヘラ削り 1/3残
40	土師器	皿	2.3,12.3, 4.8	砂粒を多く含む	橙　色	外面－下半～底部にかけヘラ削り 1/3残
41	土師器	皿	2.7,12.0, 3.8	赤・白色粒子を含む	褐　色 橙　色	外面－体部下半ヘラ削り 底部－回転糸切り後ヘラ削り 1/4残
42	土師器	皿	2.4,12.6, 5.0	砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 浅黄橙色 (内外共に一部橙色が残る)	表面の磨滅がはげしく底部回転糸切り痕も不鮮明 1/3残

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
43	土師器	小型甕	——, 10.0, ——	雲母、白色粒子を含む	黒褐色 赤褐色	外面－縦刷毛目 破片
44	土師器	羽釜	——, 23.2, ——	白色粒子を含む	にぶい橙色 灰褐色	内外面とも撫で 破片
45	土師器	羽釜	——, 20.5, ——	多量の白色粒子と金雲母、赤色粒子を含む	黒褐色 にぶい赤褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目 口縁部破片
46	土師質	鞴の羽口	——, ——, ——	赤色粒子を少量、白色粒子を多量に含む	橙色	先頭部直径7.2cm　通風口約2.5cm 熱火でもろくなり、先頭部は灰色に変色し、溶融物が付着している　破片
47	土師質	鞴の羽口	——, ——, ——	白・赤色粒子を含む	淡赤橙色 外面黒変	破片
48	灰釉陶器	椀	6.0, 16.8, 8.1	細かい白・黒色粒子を含む	灰白色 釉薬一部 灰オリーブ色	釉は漬け掛け、三角高台 糸切り痕は消してある 口縁部の一部を内に折り曲げた輪花を四方に施してある 口縁部一部欠損
49	灰釉陶器	椀	——, ——, 9.7	細かい白色粒子を含む	灰白色	付高台 底部破片
50	灰釉陶器	皿	2.9, 13.2, 6.5	細かい白・黒色粒子を少量含む	灰白色 釉薬の一部 オリーブ色がかっている	釉は漬け掛け、三角高台が付けてある 底部の糸切り痕は消されて墨が付着している 成形は割合雑で底部には割れ口があり一部貫通している　口縁部1/2欠損
51	灰釉陶器	椀	——, 16.2, ——	細かい白色粒子を含む	灰白色	内外面ともうすく釉がかっている 口縁部～体部破片
52	灰釉陶器	壺	——, 11.0, ——	細かい白・黒色粒子を含む	灰オリーブ色 （外面一部灰白色）	ロクロ撫で？ 口縁部破片
53	緑釉陶器	高台付椀	4.4, 14.0, 6.4	密	うぐいす色	内外面とも全体に釉がかっている 口縁部の一部に輪花を施してある 1/3残
54	緑釉陶器	高台付皿	2, 6, 13.1, 6.0	白色粒子を含む	うぐいす色	口縁部の一部に内側に押えた輪花がある 1/3残
55	土製品	土錘	長さ　幅　孔径 4.2, 1.9, 4.0	雲母、白・黒色粒子を含む	灰色	完形
56	土製品	土錘	長さ　幅　孔径 2.9, 1.8, 4.0	赤・白色粒子を含む	灰黄褐色 一部灰色	完形
57	土製品	土錘	長さ　幅　孔径 3.5, 2.0, 4.0	白色粒子を多量、黒色粒子を少量含む	橙色	完形
58	土製品	土錘	長さ　幅　孔径 3.4, 1.7, 4.0	赤・黒・粗い白色粒子を含む	橙色	完形
59	石器	撫で石				
60	鉄器	刀子				
61	鉄器	鉄のかたまり				
62	鉄器	鉄のかたまり				

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
63	鉄器	刀子				
64	鉄器					
65	鉄器					
66	鉄器					
67	鉄器					
68	鉄器					
69	鉄器					
70	鉄器					
71	鉄器					
72	鉄器	くぎ？				
73	鉄器	くぎ？				
74	鉄器					

＜4号住居址出土遺物＞（第22図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	甕	——，——，11.8	粗い砂粒を含む	にぶい橙色	内面－横撫で 外面－縦に削った後、横撫で 胴下部破片
2	灰釉陶器	埦	——，——，7.8	白・黒色粒子を含む	灰白色 （一部煤けている）	内面－みこみ部磨かれている （硯として使用か？） 外面－底部回転糸切り後付高台 体下部破片
3	鉄器	？				
4	鉄器	刀子				
5	鉄器	刀子				
6	鉄器	刀子の柄？				

＜5号住居址出土遺物＞（第23図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	——, 15.8, ——	やや粗い赤・白色粒子を含む	にぶい橙色 明赤褐色	ロクロ成形 外面－体部の稜線がはっきりしている　1/5残
2	土師器	埦	——, 15.6, 6.7	白・赤・黒色粒子を含む	黒　色 橙　色	内面－黒色土器 体部は横磨き、みこみ部には暗文がみられる 外面－付高台　口縁部・底下部破片
3	土師器	小型甕	——, 15.0, ——	粗い白色粒子と赤・黒色粒子を含む	にぶい褐色 （一部橙色）	内外面－横撫で 口縁部～胴上部破片
4	灰釉陶器	埦	5.3, 16.0, 8.4	白・黒色粒子を含む	灰白色	ロクロ成形　釉は漬け掛け 外面－底部付高台（三日月高台）ヘラ削り、撫で調整で回転糸切り痕を消している　1/2残

＜6号住居址出土遺物＞（第24･25図）

炭化材が多量に出土したが、それ以外の遺物は比較的少なかった。炭化材に混じって骨が検出された。

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	灰釉陶器	坏	——, ——, ——	密	灰白色	外面－墨書がみられる 破片
2	土師器	坏	4.0, 10.7, 5.7	細かい赤色粒子を含む	橙　色	外面－底部回転糸切り痕 1/2残
3	土師器	甕	——, ——, ——	金雲母、赤・白・黒色粒子を含む	橙　色 橙　色 （一部にぶい赤褐色）	内面－口縁部、横方向刷毛目 外面－胴部、縦方向刷毛目 口縁部破片
4	土師器	甕	——, ——, ——	白・黒色粒子を含む	灰褐色 （一部にぶい褐色）	内面－横方向刷毛目 口縁部破片
5	土師器	甕	——, 34.9, ——	金雲母、砂粒を含む	にぶい赤褐色	内面－横斜め方向刷毛目 外面－薄口縁型の外面にもう一枚粘土紐を張り付け厚口縁型とする 胴部は縦方向刷毛目 口縁部～胴部破片
6	土師器	甕	——, 27.6, ——	金雲母が目立つ砂粒を含む	橙　色 （下部にぶい赤褐色）	内外面口縁部横方向刷毛目 胴部は内面横方向に、外面縦方向に刷毛目がみられるが磨滅により不鮮明 口縁部～胴部破片
7	土師器	甕	——, 25.6, ——	やや粗い白・黒色粒子を含む	橙　色 （一部煤けている）	内面－横方向刷毛目 外面－縦斜め方向刷毛目 輪積み痕がみられるが磨滅により不鮮明　口縁部～胴部破片
8	土師器	甕	——, 30.8, ——	金雲母、砂粒を含む	にぶい赤褐色 （一部橙色）	内面－横方向刷毛目 外面－口縁部横方向刷毛目 胴部縦方向刷毛目 口縁部破片
9	鉄器	刀子				
10	鉄器	刀子				
11	灰釉陶器	埦	6.1, 16.0, 8.2	粗い白・黒色粒子を含む	灰白色	ロクロ成形、釉は漬け掛け 外面－底部付高台（三角高台）ヘラ削り撫で調整で回転糸切り痕を消している　2/5残

＜7号住居址出土遺物＞（第26図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	3.2, 11.0, 4.4	赤色粒子を含む	橙色	底部回転糸切り痕 2/5残
2	土師器	甕	——, ——, 8.2	白・黒色粒子、金雲母を含む	明褐色 灰褐色	内面－横撫で 外面－縦刷毛目 底部－木葉痕 胴部～底部破片
3	陶器	埦	——, ——, 7.6	密	緑色	内外面－ロクロ整形 磨滅により不鮮明 底部－付高台（三角高台） 回転糸切り痕 体部下半～底部破片
4	陶器	埦	——, ——, 7.2	密	緑色	内外面－ロクロ整形 磨滅により不鮮明 底部－付高台（三角高台） 体部～底部破片
5	土師器	甕	——, 31.2, ——	白・黒色粒子、金雲母を含む	明褐色 褐灰色	口縁部－粘土で肥厚してある、横刷毛目 内面－横撫で 外面－胴部刷毛目、磨滅によりザラつく 口縁部～胴部破片
6	土師器	甕	——, 39.4, ——	やや粗い白色粒子、金雲母を含む	明赤褐色 にぶい褐色	口縁部－横刷毛目 内面－横撫で 外面－胴部刷毛目 口縁部～胴部破片
7	石器	鏃				

＜8号住居址出土遺物＞（第27･28図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	甕	——, ——, 14.0	白色粒子を含む	にぶい赤褐色	外面－縄目模様の叩き目が施してある 底部破片
2	須恵器	甕	——, ——, 22.0	白色粒子を含む	灰褐色	外面－叩き目が施してある 底部破片
3	須恵器	甕	——, 30.0, ——	細かい砂粒を含む	黒褐色	ロクロによる撫で整形 口縁部破片
4	須恵器	甕	——, 40.0, ——	白色粒子と細かい砂粒を含む	灰褐色	ロクロによる撫で整形 口縁部破片
5	須恵器	甕	——, 42.0, ——	細かい砂粒を含む	灰色	ロクロによる撫で整形 口縁部破片
6	土師器	羽釜	——, 23.0, ——	白・赤色粒子、金雲母を含む	橙色	内面－横刷毛目 外面－輪積み後、横撫で 口縁部破片
7	土師器	坏	4.2, 11.8, 4.5	赤色粒子を多く含む	橙色	ロクロによる成形 内面－暗文があるが不鮮明 外面－体部下半にヘラ削りあり 1/2残
8	土師器	坏	4.0, 11.0, 5.0	赤色粒子を多く含む	橙色	ロクロによる成形 内面－暗文があるが汚れと磨滅により不鮮明 外面－体部下半ヘラ削り 底部－回転糸切り痕 1/9残
9	土師器	坏	3.8, 12.7, 5.5	粗めの砂粒を含む	にぶい橙色	ロクロによる雑な成形でゆがみが激しい 底部－回転糸切り痕 2/3残

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
10	土師器	坏	3.4,11.6, 5.0	少量の白・赤色粒子を含む	にぶい橙色	ロクロによる成形 底部－回転糸切り痕 1/3残
11	灰釉陶器	埦	3.5,12.3, 6.3	密 白色粒子を含む	灰白色	ロクロ成形 内面－みこみ部を除き施釉。刷毛塗りと思えるが釉着が悪く、はげたり磨耗している 底部－付高台後撫で調整　完形
12	灰釉陶器	埦	___,12.2,___	密	灰白色	ロクロ成形 内面－口縁部に灰釉、体部に灰釉の飛沫 外面－口縁部に灰釉 口縁部3/4残、底部欠損
13	灰釉陶器	埦	5.0,15.1, 7.7	密	灰白色	ロクロ成形 内面－口縁部灰釉を施した跡がある 外面－口縁部～体部灰釉を施した跡があるがかなり薄い 底部－付高台の後けずり調整　完形
14	灰釉陶器	段皿	2.0,12.6, 7.2	密 白色粒子を含む	明赤灰色	ロクロ成形 内面のみこみ部と外面の底部を除き施釉 漬け掛け 底部－付高台後雑な撫で調整 完形
15	灰釉陶器	皿	2.2,11.3, 6.5	密 白色粒子を少量含む	灰白色	ロクロ成形 内面・外面｝口縁部に灰釉が漬け掛けしてあるがかなり薄い 底部－回転糸切後付高台　完形
16	灰釉陶器	段皿	2.5,13.2, 7.1	粗 砂粒を含む	灰白色	ロクロ成形 内面－みこみ部を除き施釉。刷毛塗りと思えるが釉着が悪く、磨耗したりはげている。墨の付着痕あり 底部－回転糸切り後付高台、雑な撫で調整 3/4残
17	灰釉陶器	皿	2.4,12.0, 7.3	密 少量の白色粒子を含む	灰白色	ロクロ成形 内面－全面に施釉 外面－底部を除き施釉 底部－付高台後撫で調整　3/4残
18	鉄器	刀子				
19	鉄器	刀子				
20	青銅器	蓋	___,20.0,___		青黒色	縁端部破片

＜遺構外出土遺物＞（第29・30・31・32・33図）

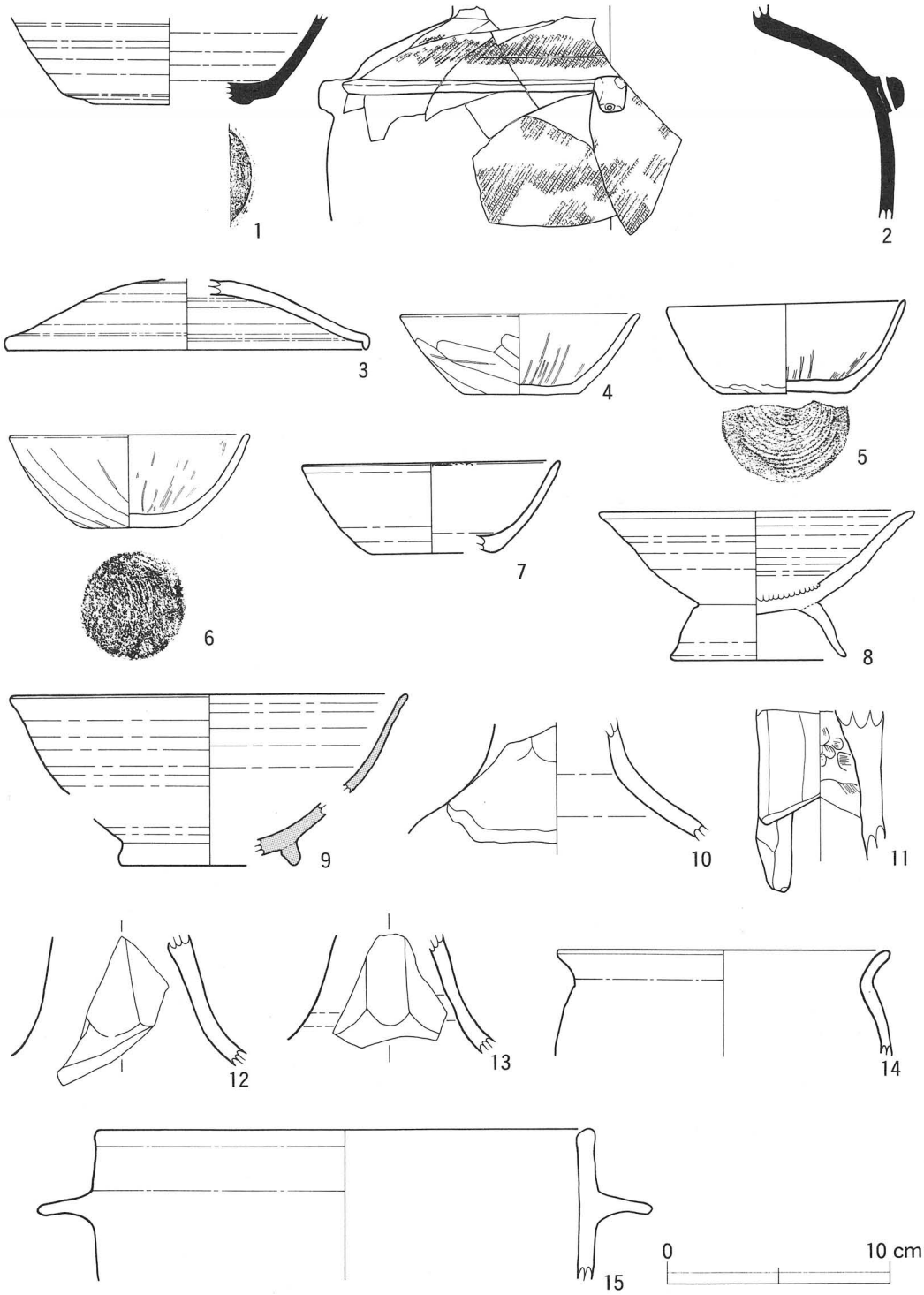
遺構に伴わない遺物も多い。平安時代以外に縄文時代のものもみられた。土錘が比較的多く出土している。

出土遺物一覧　（単位 cm）

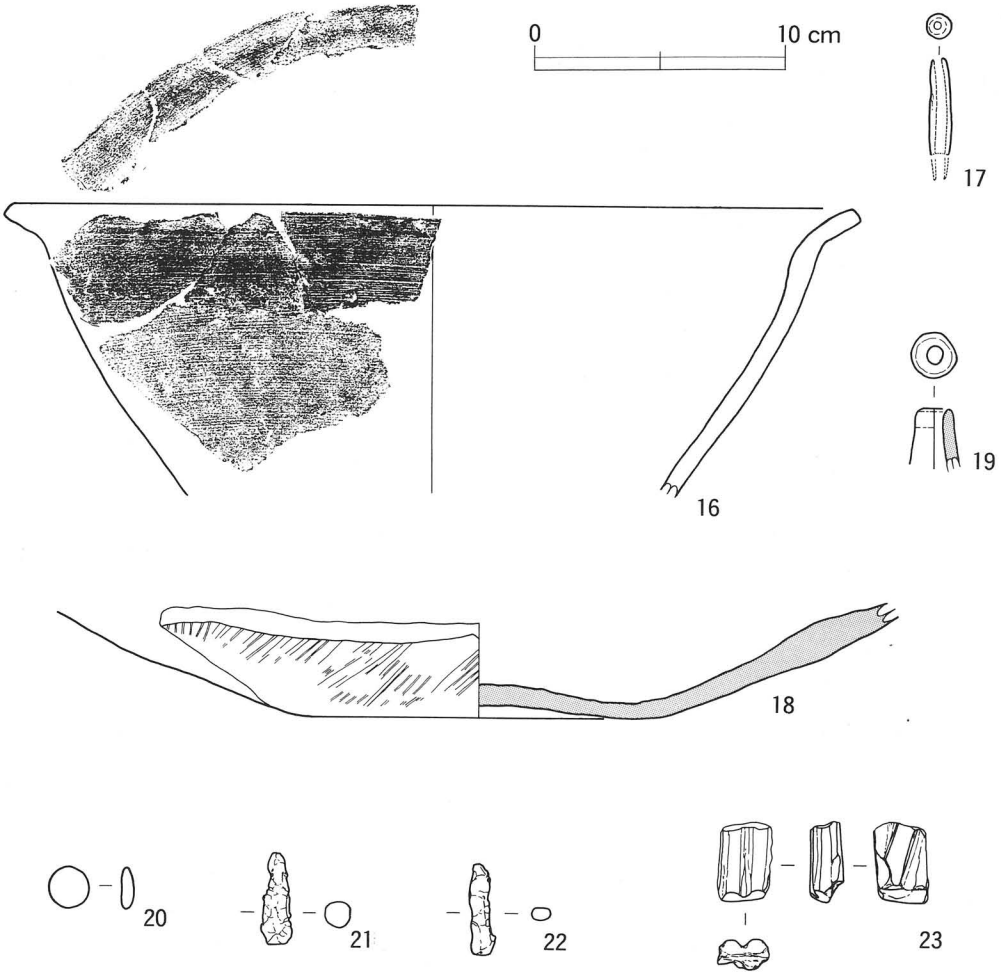
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	須恵器	坏	4.0,12.6, 8.0	白色粒子を多く含む	灰色	磨滅により器面がざらついて不鮮明　1/7残
2	須恵器	大型甕	___,___,___	白・黒・赤色粒子を含む	褐灰色	外面－胴部に縦方向の叩き締め 胴上半部破片
3	須恵器	甕	___,46.0,___	細かい白色粒子を含む	暗灰色	外面－口辺部に波状文が施してある 口縁部破片
4	須恵器	甕	___,44.0,___	やや粗め 白色粒子を多く含む	灰色	外面－口辺部に波状文が施してある 口縁部破片
5	須恵器	甕	___,___,___	白・黒色粒子を含む	灰白色	内面－横撫で 外面－頸部は横撫で 胴部は叩き目 頸部～胴上半部破片
6	須恵器	甕	___,40.0,___	砂粒を含む	褐灰色 黒色	外面－黒色に光沢がある 口縁部破片

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
7	須恵器	甕	___, 33.0, ___	砂粒を含む	褐灰色 黒褐色	ロクロによる成形 口縁部破片
8	須恵器		___, 20.6, ___	白・赤色粒子を含む	赤灰色 にぶい橙色	内外面－口縁部横撫で 内面－胴上半部に当て具痕 外面－肩部に断面三角形の凸帯が横走し胴部は縦方向の縄目の叩き目がみられる　口縁部～胴上半部破片
9	須恵器	甕	___, ___, ___	白色粒子を含む	灰　色	外面－口縁部に波状文が施してある 口縁部破片
10	須恵器	甕	___, ___, ___	白色粒子を含む	灰褐色	外面－縄目模様の叩き目が施してある 胴部破片
11	土師器	蓋	___, 16.4, ___	赤・白色粒子を含む	にぶい褐色 橙　色	外面－体部ロクロ削り 破片
12	土師器	坏	4.0, 10.8, 5.4	赤色粒子を含む	橙　色	内面－暗文がみられ、刻みらしき文様がみられる 外面－体部下半ヘラ削り 1/4残
13	土師器	坏	5.1, 13.0, 7.2	金雲母、赤・白色粒子を含む	橙　色 灰褐色	内面－暗文がみられる 外面－体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り後外周ヘラ削り　1/3残
14	土師器	坏	3.8, 10.0, 5.0	赤・白色粒子を含む	橙　色	内面－花弁状暗文 外面－体部下半ヘラ削り 底部回転糸切り後外周ヘラ削り　3/5残
15	土師器	坏	___, ___, ___	赤・白色粒子を含む	橙　色	外面－墨書がみられる 破片
16	土師器	坏	___, ___, ___	赤・白色粒子を含む	橙　色	外面－刻み目がみられる 破片
17	土師器	坏	3.8, 10.4, 5.4	赤色粒子を含む	橙　色 黄橙色	外面－体部下半ヘラ削りか？ 磨滅により不鮮明 底部回転糸切り後ヘラ削り 1/3残
18	土師器	坏	4.5, 12.0, 5.5	赤色粒子を多量に含む	橙　色 黄橙色	内面－暗文か？ 磨滅により不鮮明 1/3残
19	土師器	坏	___, ___, ___	赤・白色粒子を含む	黒　色 にぶい赤褐色	内黒 付高台とみられるが欠損している 底部破片
20	土師器	坏	___, ___, 7.4	赤・白・黒色粒子を含む	浅黄橙色	ロクロ成形か？ 磨滅により不鮮明 付高台　体下部破片
21	土師器	坏	___, ___, 6.7	白・赤・黒色粒子を含む	黒　色 橙　色	内黒 付高台 底部破片
22	土師器	高　坏	___, ___, ___	白・赤色粒子を含む	淡黄色	内面－横撫でによる凹凸がみられる 外面－ロクロによる撫での後丁寧な削りによる八角形を形整している　脚部破片
23	土師器	高　坏	___, ___, ___	赤・白色粒子を含む	黄橙色 橙　色	内面－横撫でによる凹凸がみられる 外面－ロクロによる撫での後脚部の上部から下部にかけて丁寧な削りによる八角形(?)を形整している　脚部破片
24	土師器	甕	___, ___, 8.5	赤・白・黒色粒子を含む	明褐灰色 褐　色	底部回転糸切り痕 底部破片
25	土師器	甕	___, ___, 9.0	粗い白色粒子と砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい橙色	外面－底部回転糸切り痕 底部破片
26	土師器	甕	___, 23.5, ___	金雲母、砂粒を多く含む	赤褐色～ 灰褐色	内面－横刷毛目 外面－口縁部横撫で 胴部縦刷毛目 1/4残

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
27	土師器	小型甕	——, ——, ——	金雲母、白色粒子を含む	褐灰色 黒褐色	ロクロ成形？ 内面－カキ目状の痕あり 外面－胴下部に削りがみられる 破片
28	土師器	羽釜	——, 20.5, ——	細かい砂粒を含む	明赤褐色	内外面－口縁部横撫で 口縁部（鍔を含む）破片
29	灰釉陶器	蓋	12.0, ——, ——	白色粒子を含む	灰色 灰白色	外面－灰釉が施してあるが磨耗して所々はげ落ちている 蓋縁部破片
30	灰釉陶器	蓋鈕部	——, 鈕径 2.5, ——	細かい砂粒を含む	灰白色	宝珠状鈕 外面－灰釉が施してある 鈕部破片
31	灰釉陶器	段皿	2.5, 12.5, 6.4	密	灰白色	ロクロ成形 内面－みこみ部を除き施釉してあるが磨耗している みこみ部は滑らかで、薄く墨付着 外面－口縁部施釉 底部－付高台　1/4残存
32	灰釉陶器	皿	3.6, 14.0, 8.0	白色粒子を含む	灰白色	ロクロ成形 内面－みこみ部を除き施釉、刷毛塗り？ 重ね焼き痕あり 外面－口縁部から体部にかけて施釉 底部－付高台　1/7残存、底部欠損
33	灰釉陶器	甕	——, 20.5, ——	密	灰白色	内面－施釉 外面－施釉 口縁部破片
34	灰釉陶器	甕	——, 24.0, ——	密	灰白色	内面－施釉 外面－施釉 口辺部に横走する沈線と、櫛歯状工具による刺突文が施してある 口縁部破片
35	灰釉陶器	壷	——, 4.8, ——	密	灰色	内面－施釉 外面－施釉 口縁部破片
36	灰釉陶器	壷	——, 5.5, ——	密	灰色	内面－施釉 外面－施釉 口縁部破片
37	土製品	土錘	長さ 3.3, 幅 1.7, 孔径 0.4	白・赤色粒子を含む	黒褐色 ～褐灰色	完形
38	土製品	土錘	長さ 3.2, 幅 1.5, 孔径 0.4	白色の目立つ砂粒を含む	黒褐色 ～褐灰色	完形
39	土製品	土錘	長さ 3.0, 幅 1.4, 孔径 0.4	白色の目立つ砂粒を含む	黒褐色 ～褐灰色	完形
40	土製品	土錘	長さ 3.4, 幅 1.6, 孔径 0.5	白色の目立つ砂粒を含む	黒褐色 ～褐灰色	完形
41	土製品	土錘	長さ 3.7, 幅 1.6, 孔径 0.5	砂粒を多く含む	にぶい黄橙色	完形
42	土製品	土錘	長さ 3.2, 幅 1.6, 孔径 0.4	白色の目立つ砂粒を含む	黒褐色 ～褐灰色	完形
43	土製品	土錘	長さ 3.2, 幅 1.6, 孔径 0.4	白色の目立つ砂粒を含む	黒褐色 ～褐灰色	ほぼ完形
44	土製品	土錘	長さ 4.0, 幅 2.8, 孔径 0.6	赤色粒子が目立つ	橙色	棒状の工具により整形してある ほぼ完形
45	石器	敲石				
46	石器	凹基有茎鏃		（石材） 黒曜石		側縁形＝内湾 側面観＝レンズ状 右側脚部欠損

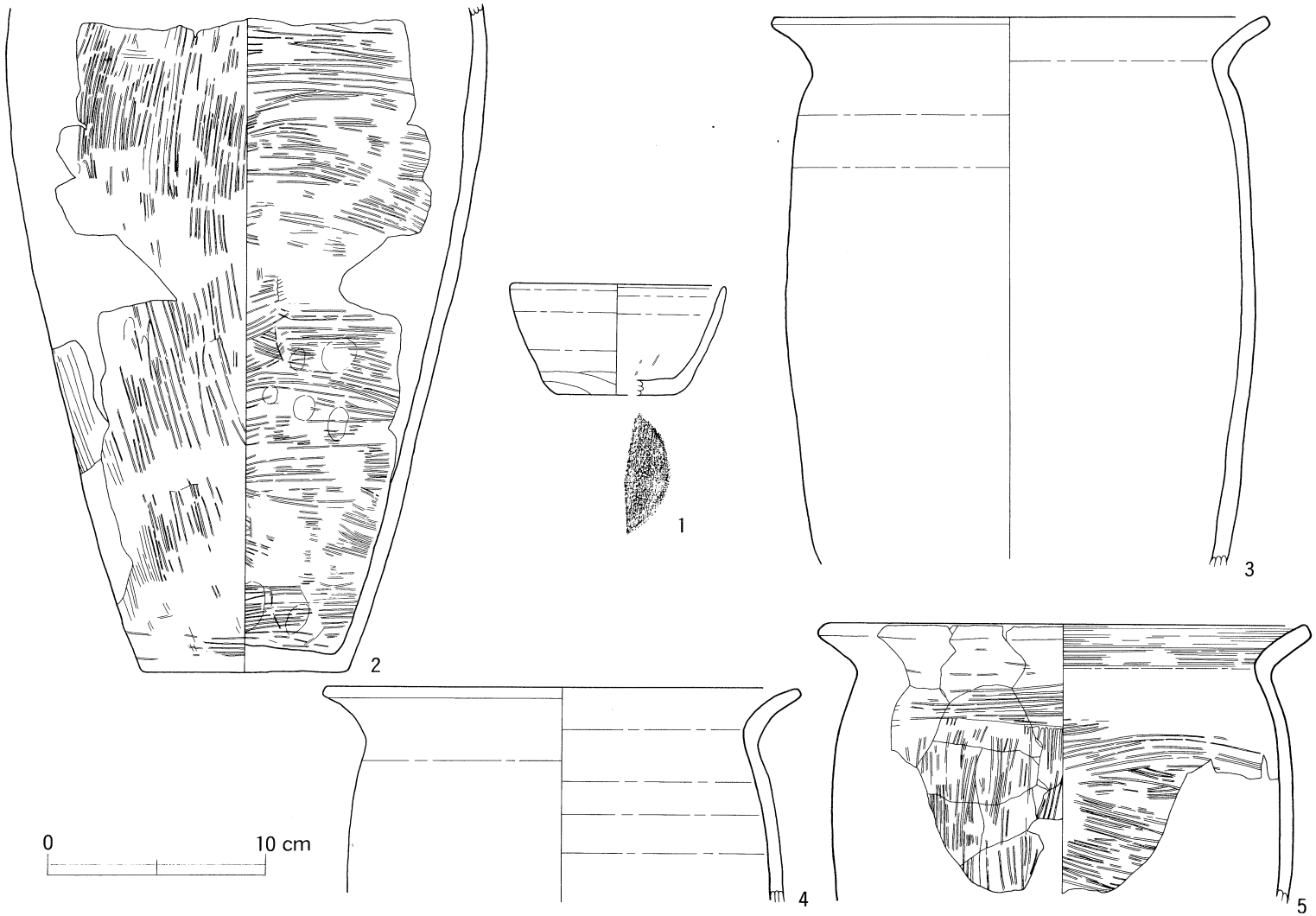


第15図　1号堀立柱建物址出土遺物（1/3）

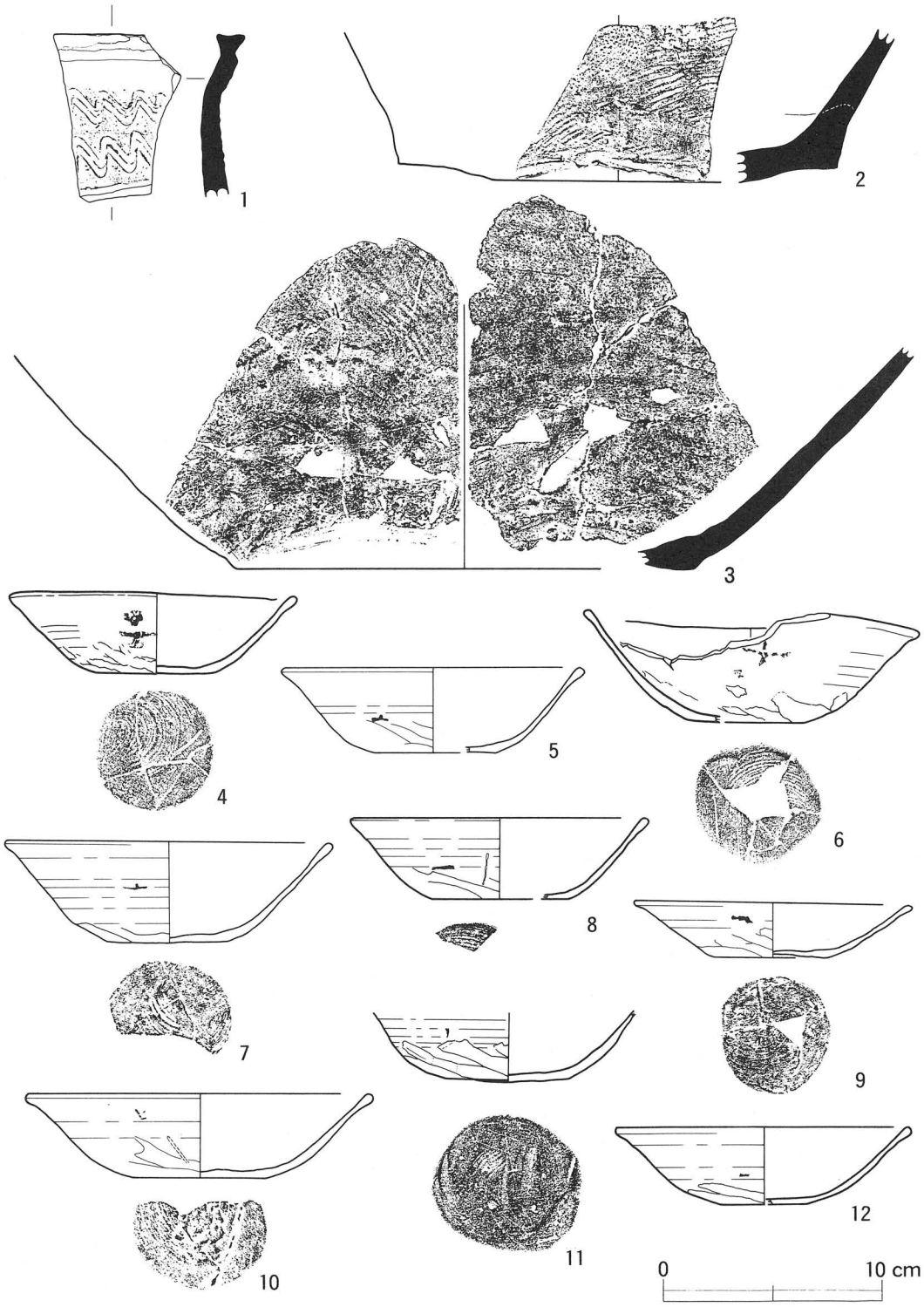


第16図　1号堀立柱建物址出土遺物（1/3）

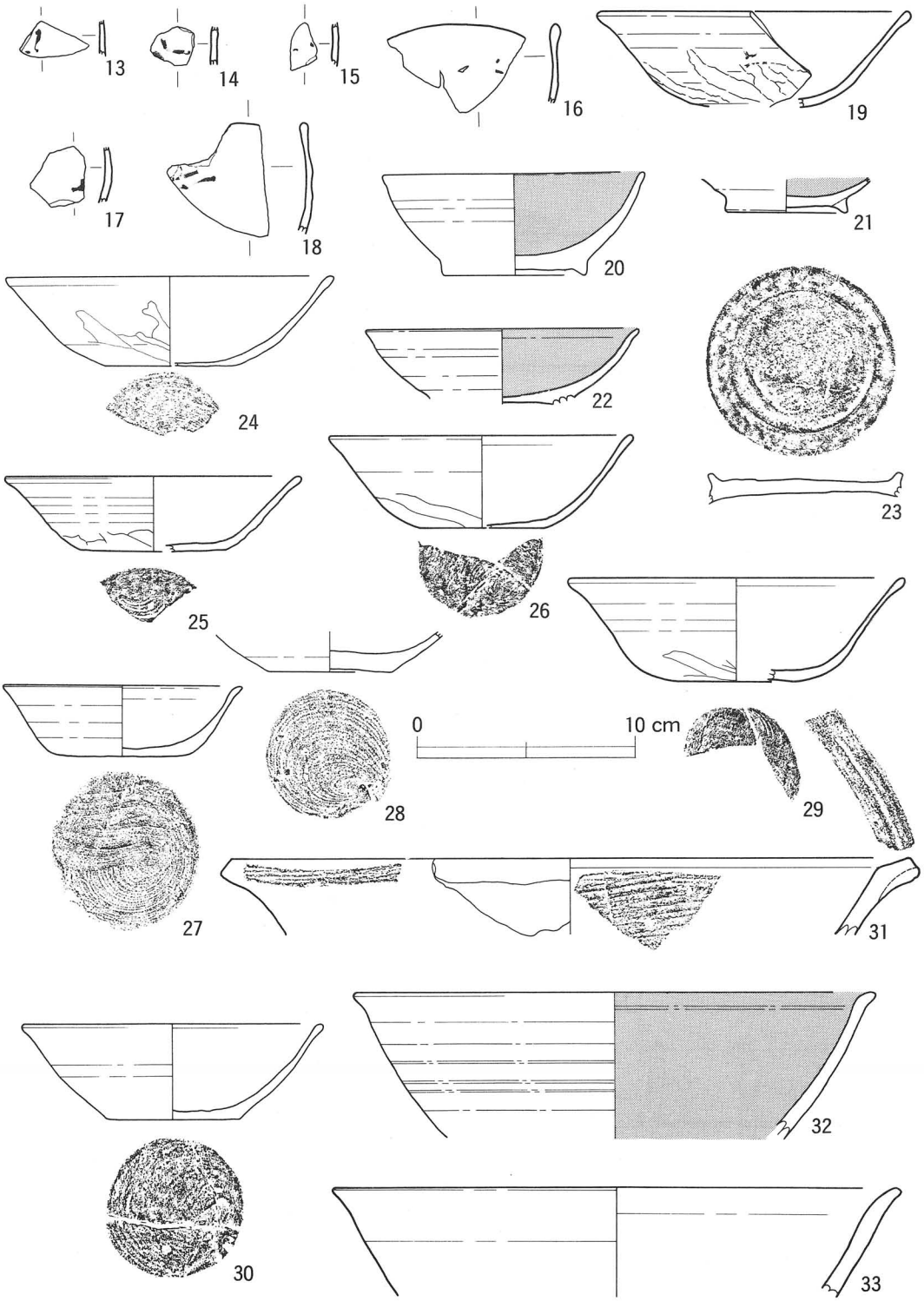
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
47	石器	凹基無茎鏃		（石材）黒曜石		側縁形＝ほぼ直線的 側面観＝レンズ状 先端部欠損
48	石器	石斧				
49	石器	石斧				
50	石器	石斧				
51	石器	石斧				
52	鉄器					



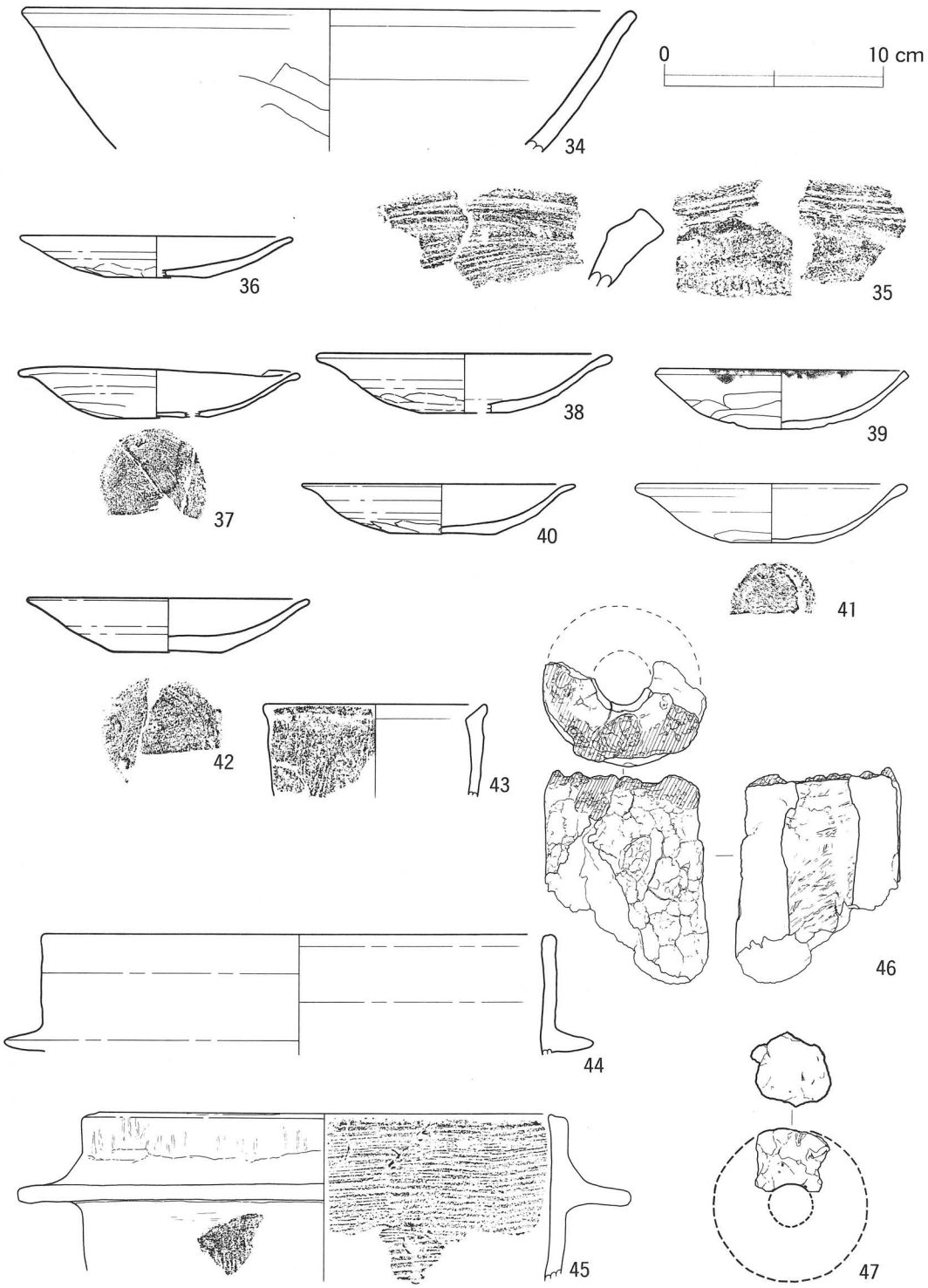
第17図　２号住居址出土遺物（1/3）



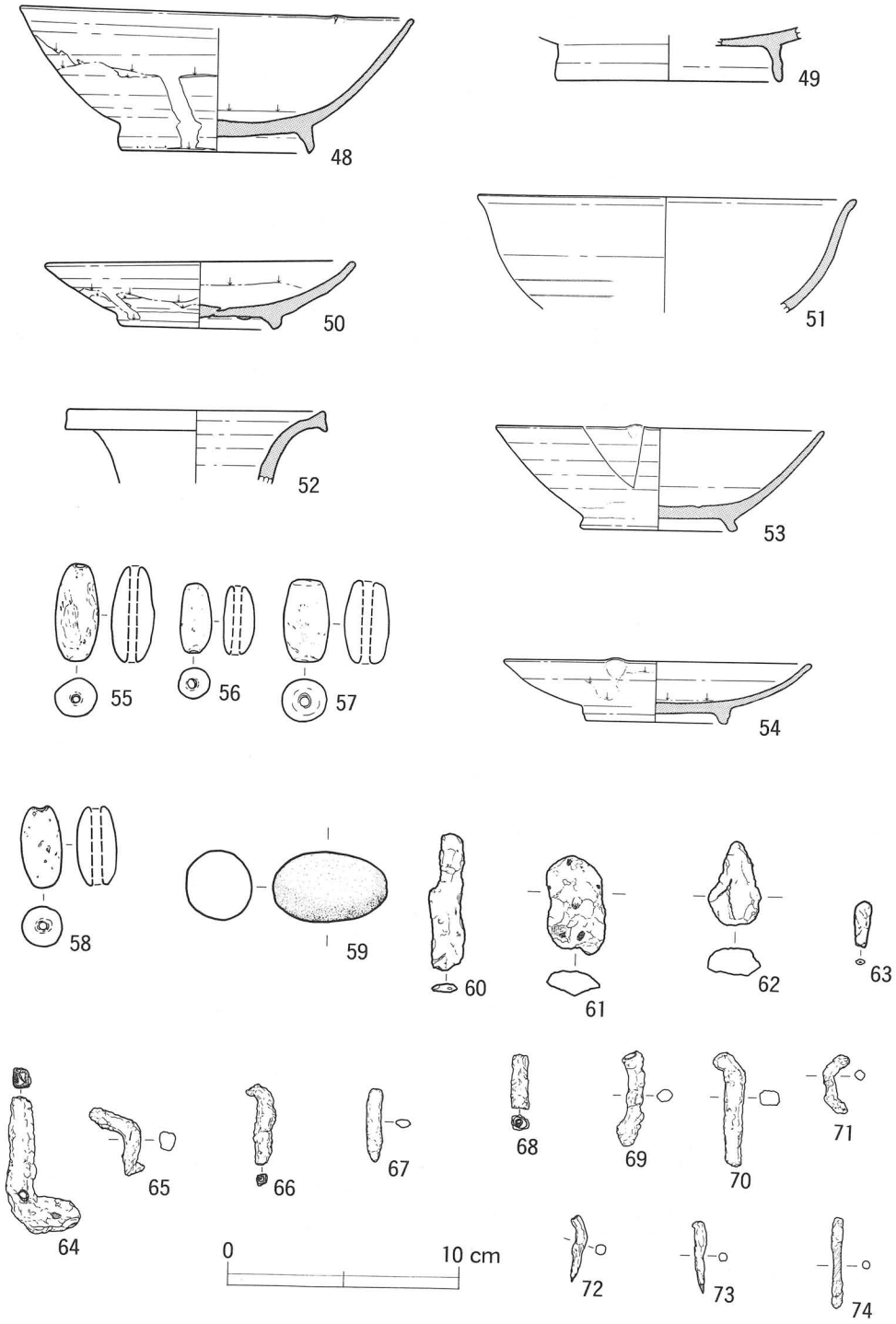
第18図　３号住居址出土遺物（1/3）



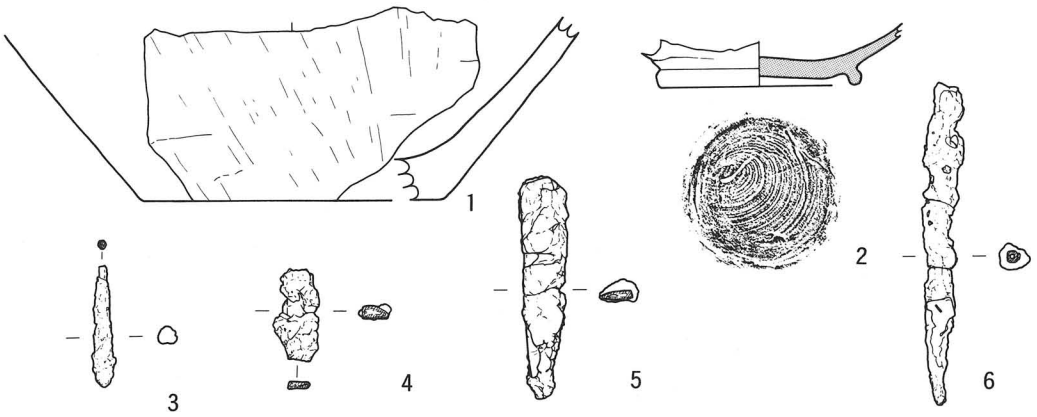
第19図　３号住居址出土遺物（1/3）



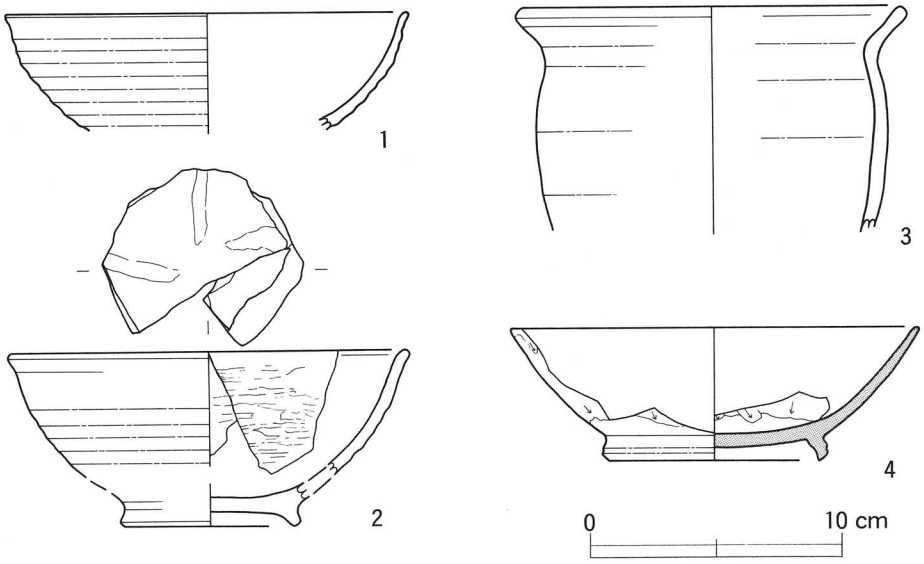
第20図　３号住居址出土遺物（1/3）



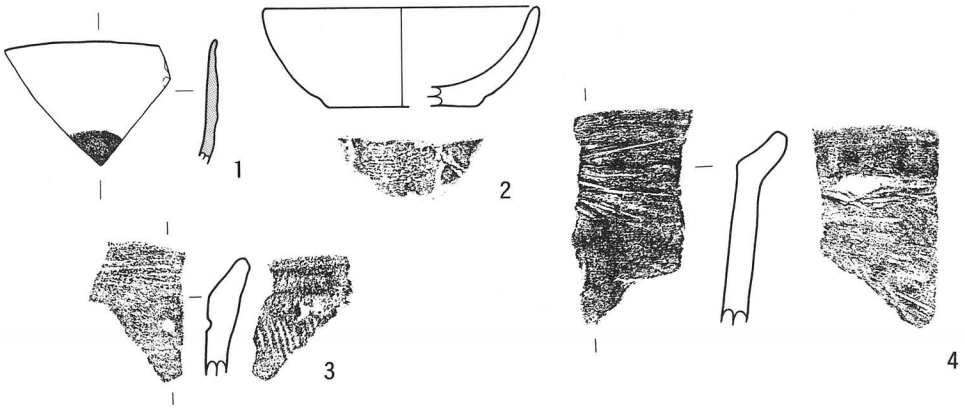
第21図　３号住居址出土遺物（1/3）



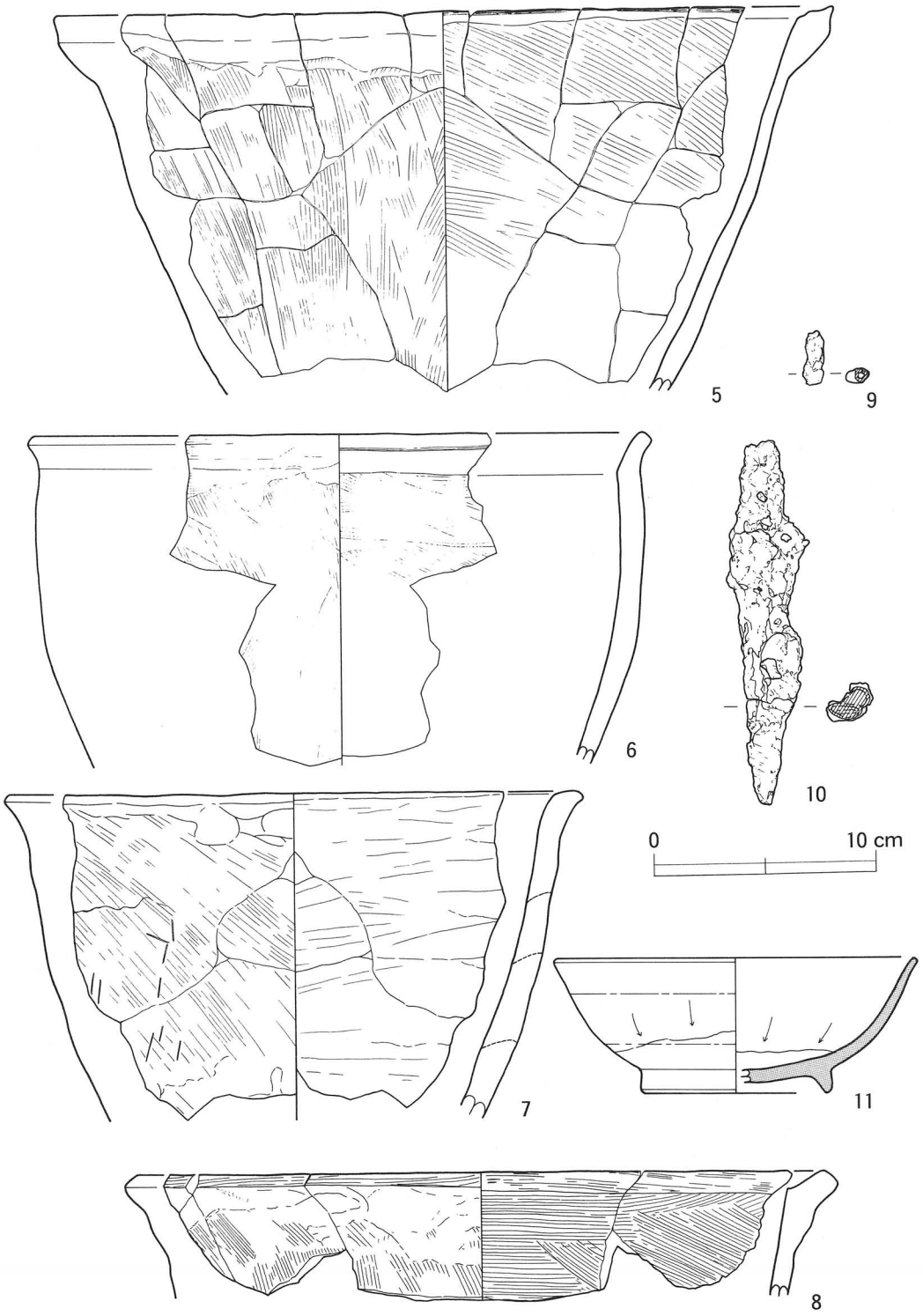
第22図　4号住居址出土遺物（1/3）



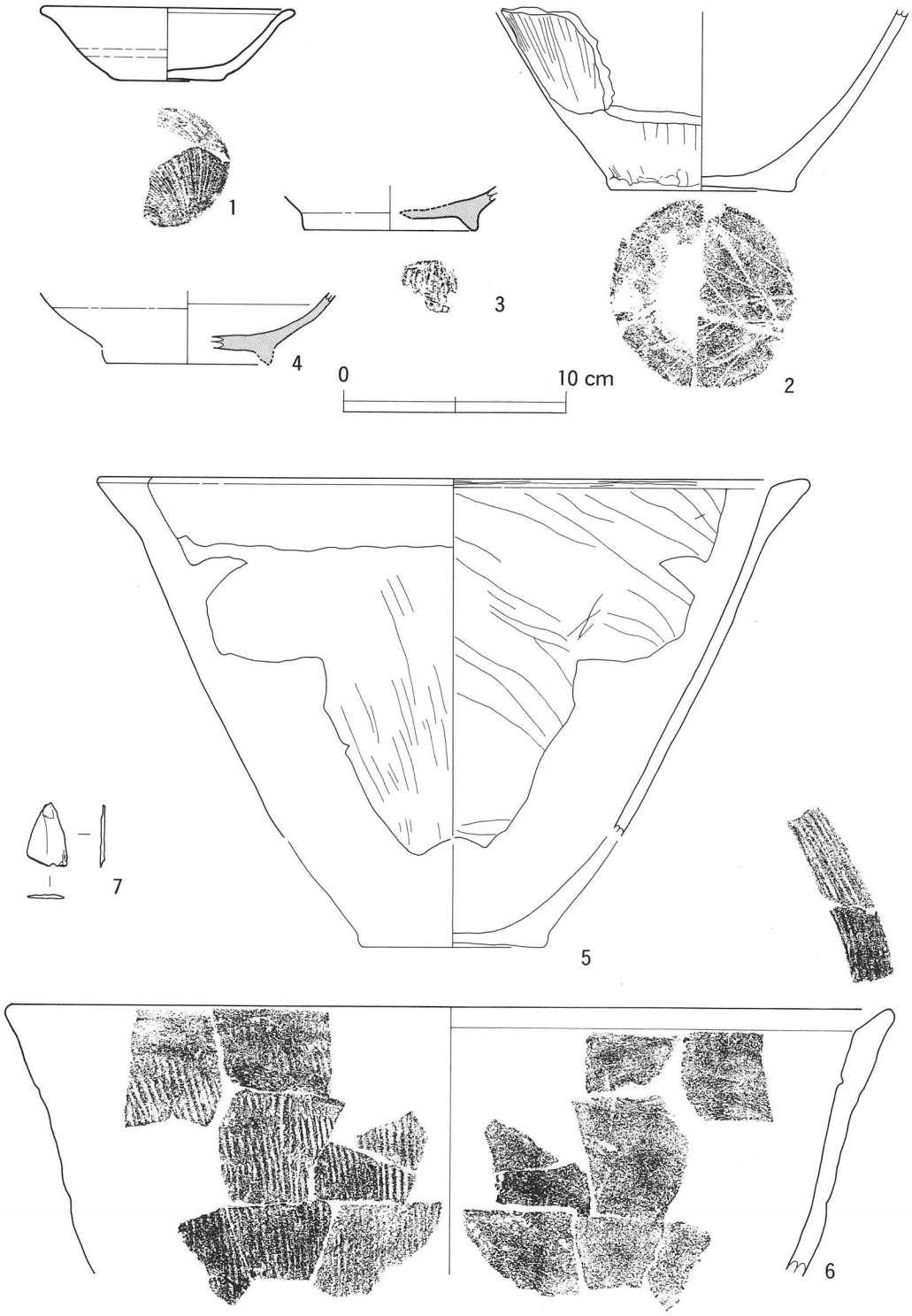
第23図　5号住居址出土遺物（1/3）



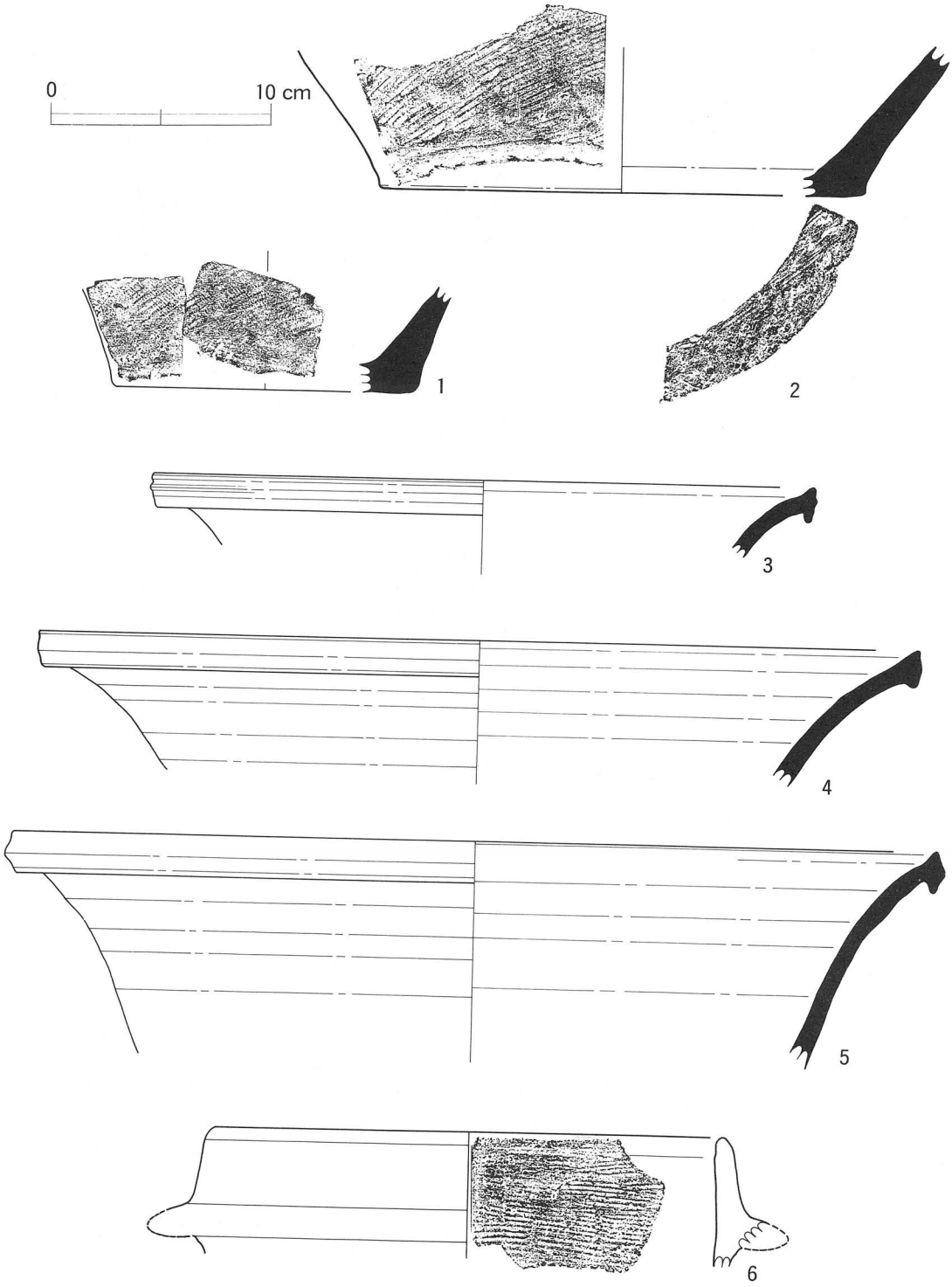
第24図　6号住居址出土遺物（1/3）



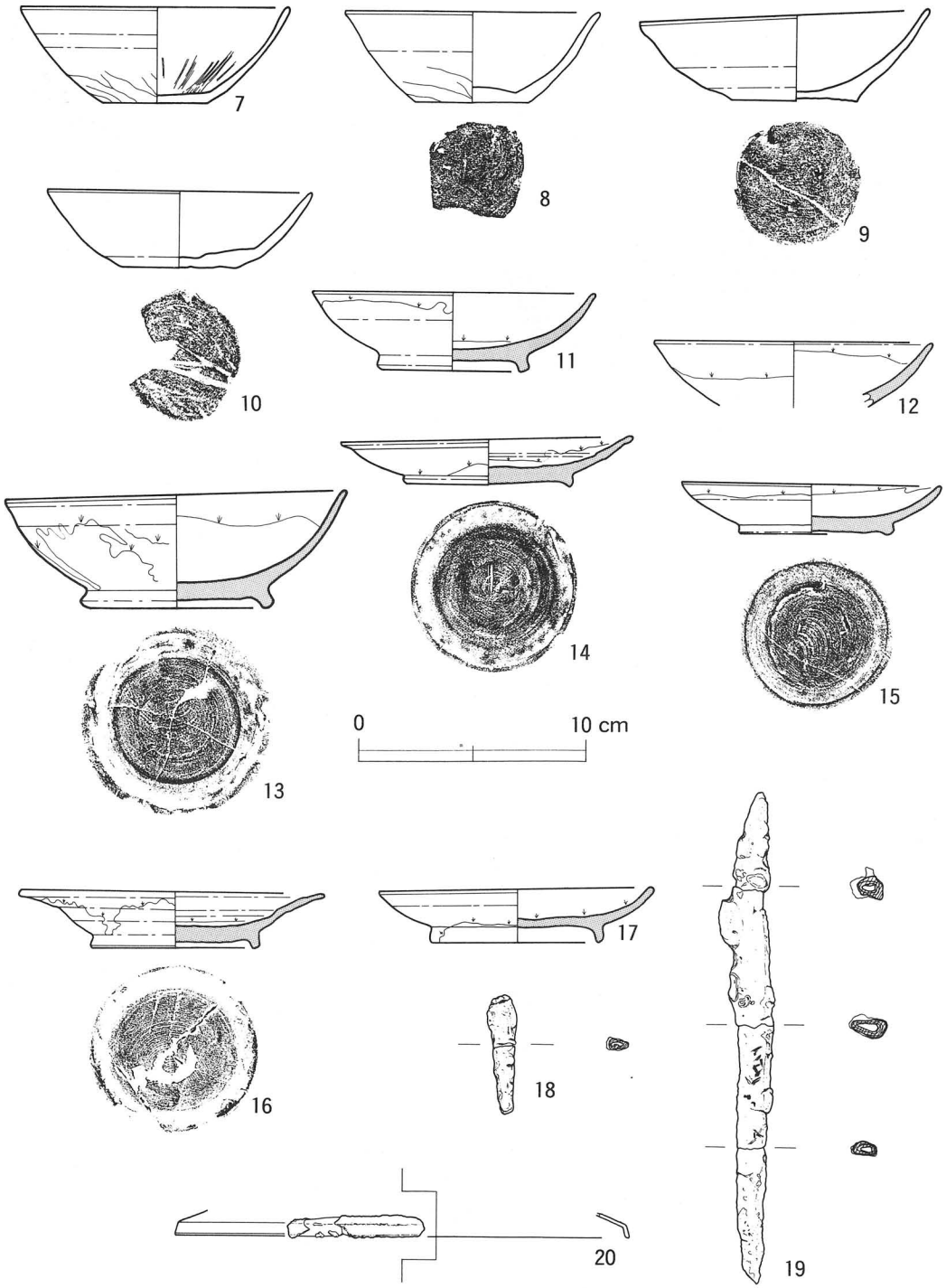
第25図　６号住居址出土遺物（1/3）



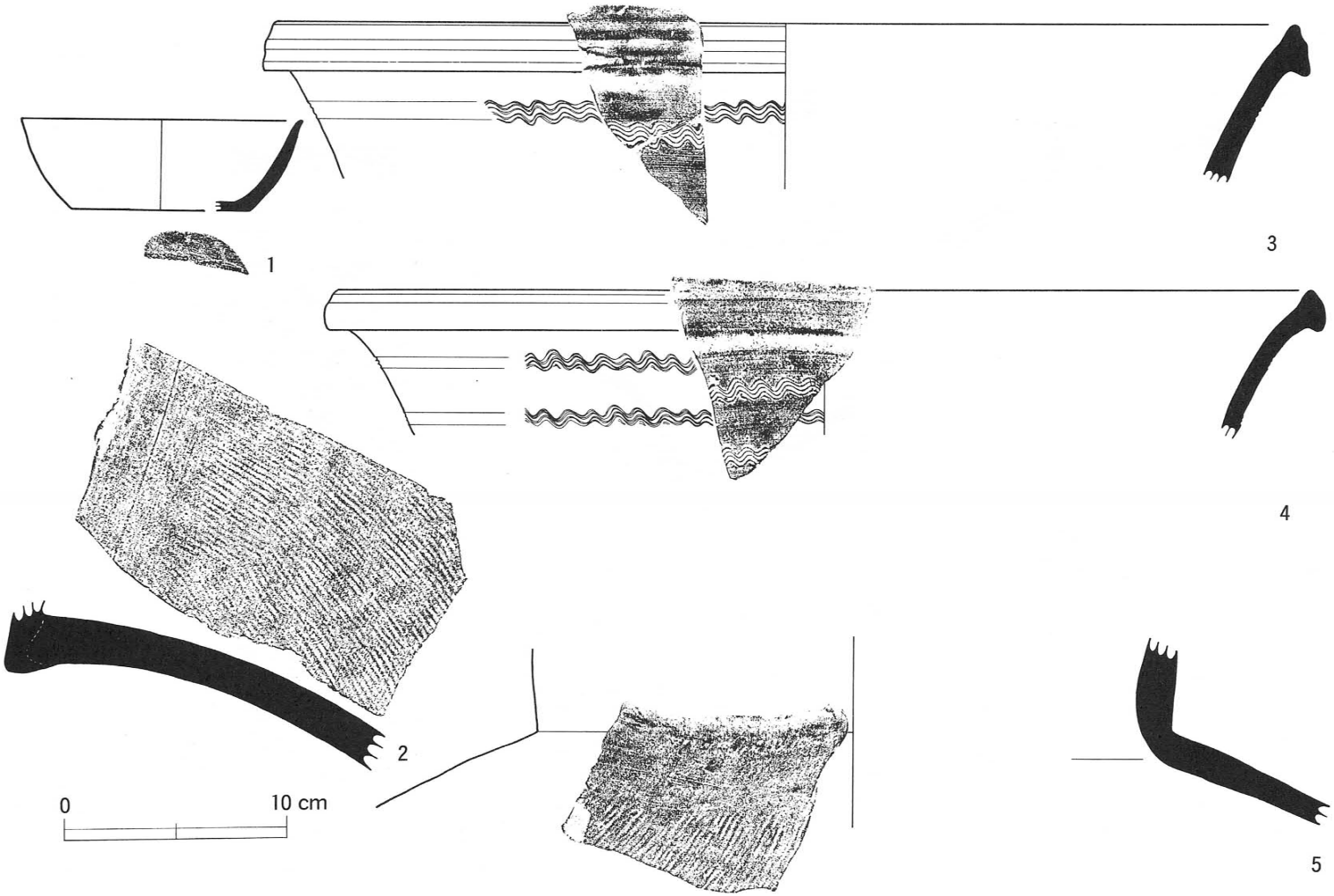
第26図　７号住居址出土遺物（1/3）



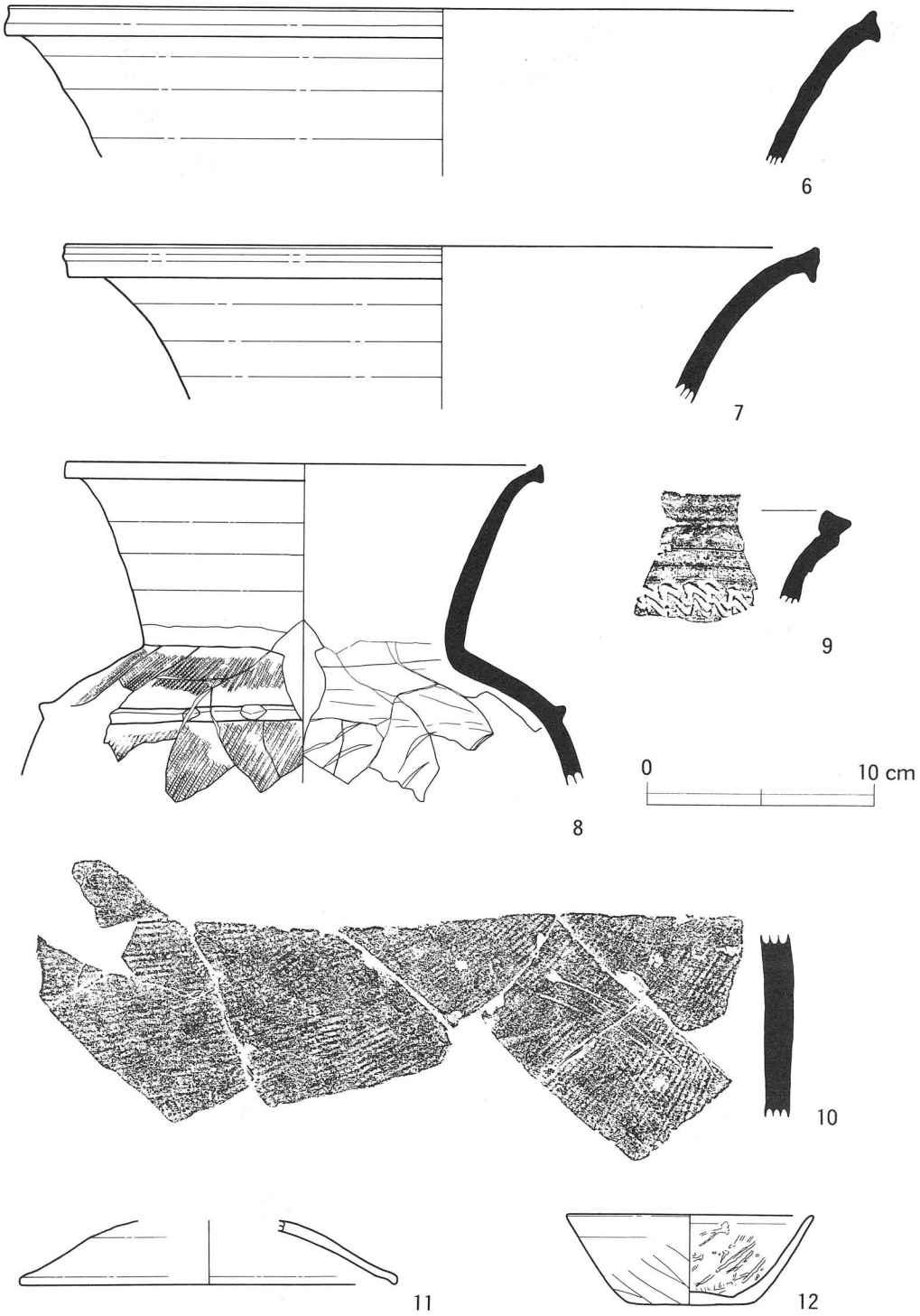
第27図　８号住居址出土遺物（1/3）



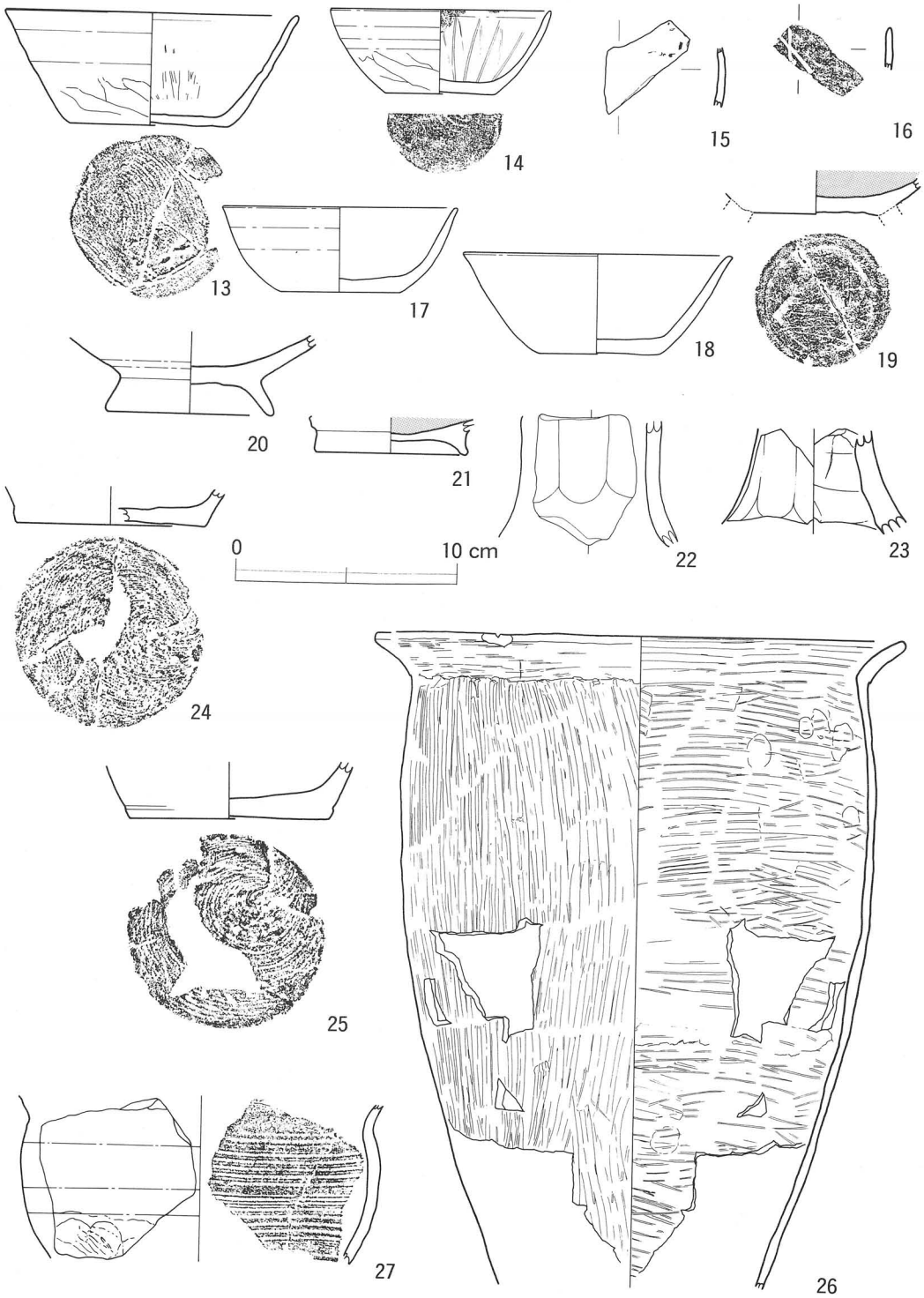
第28図　８号住居址出土遺物（1/3）



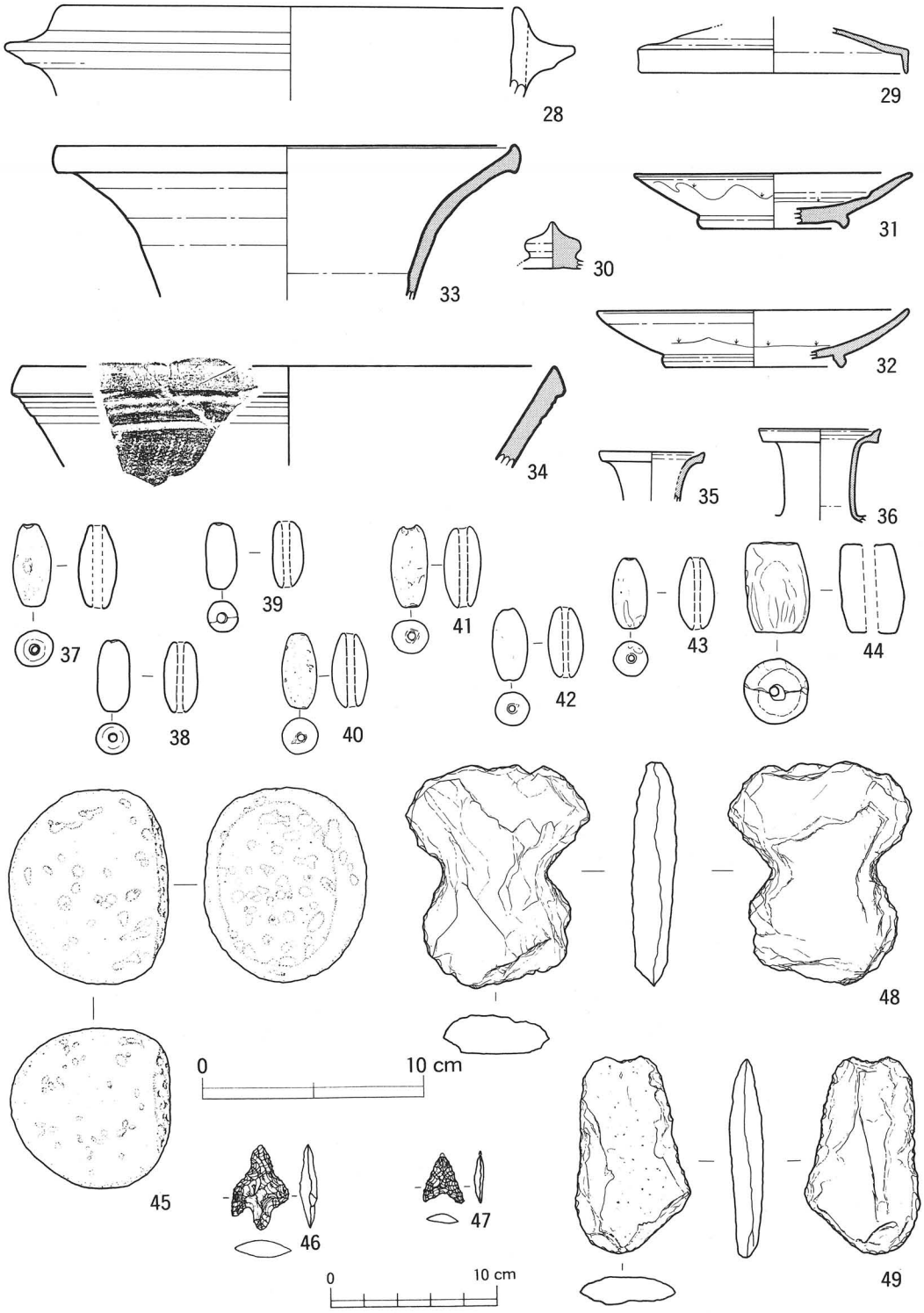
第29図　遺構外出土遺物（1/3）



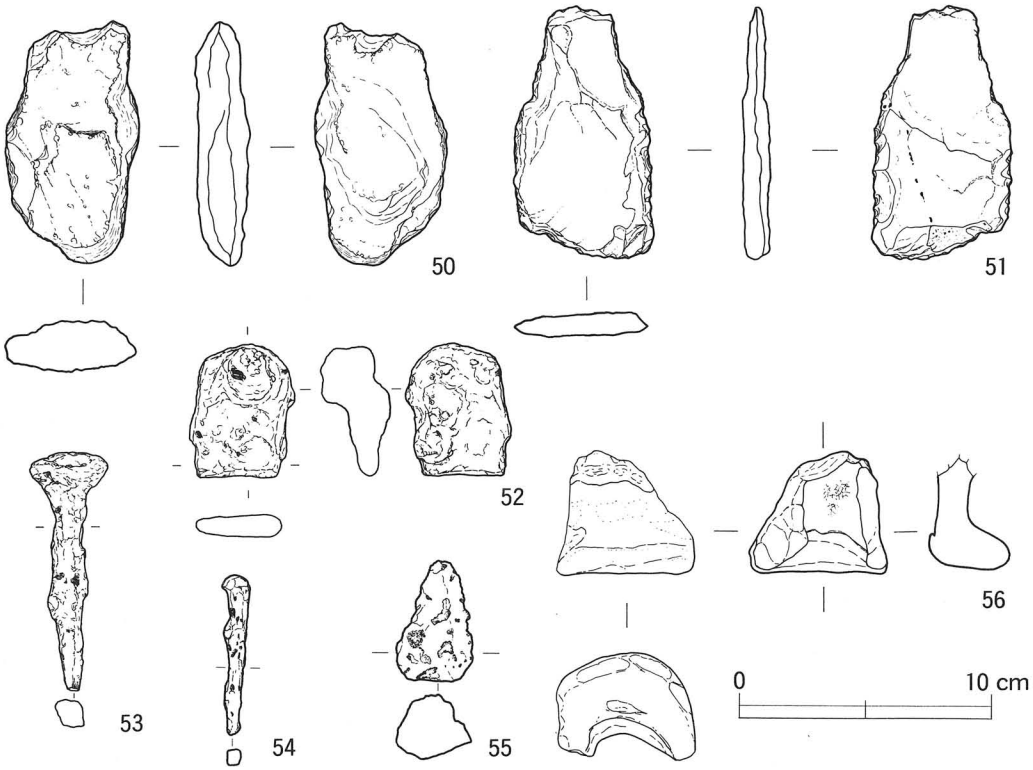
第30図　遺構外出土遺物（1/3）



第31図　遺構外出土遺物（1/3）



第32図　遺構外出土遺物（1/3）（46・47は1/2）



第33図　遺構外出土遺物（1/3）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
53	鉄器	くぎ?				
54	鉄器					
55	鉄器					
56	縄文	土偶の足	＿＿，＿＿，＿＿	白色が目立つ砂粒を含む	赤褐色	左足と思われる破片

Ⅶ まとめ

今回の調査では、前章まで見て来たように、時期不明であるが水田跡、平安時代の堀立柱建物址と住居跡が検出された。

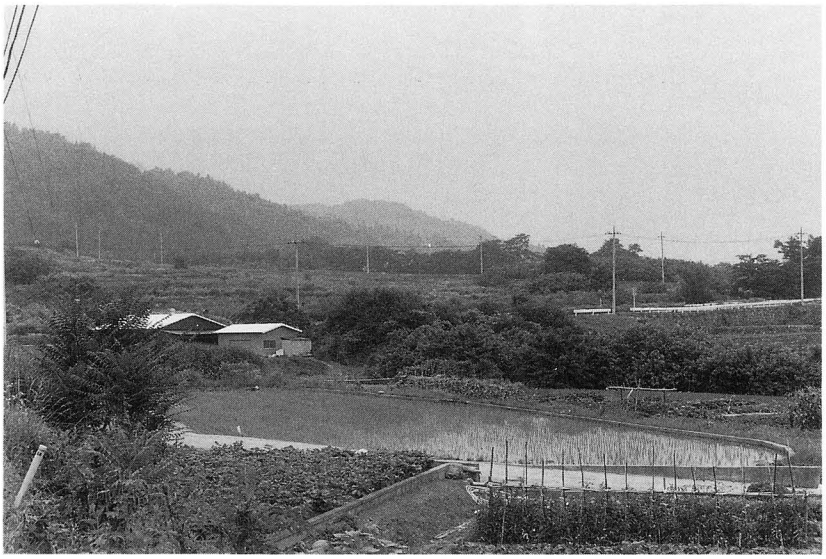
水田跡は小区画で３面程確認されたが、遺物が出土しておらず時期などの特定は困難である。住居跡は竪穴でカマドをもつ点では一般的な構造であるが、３号住居址では南東隅に弧状の張り出し施設があり、６号住居址では北西角から平面形態がフラスコ状の土坑が飛び出し、カマド脇南側には長楕円形の土坑が張り出し、南東隅には部分的に土手状の高まりがめぐる楕円形の土坑があるなど、竪穴住居は方形といったイメージに変更を迫るような遺構が発見されている。また４号住居址、８号住居址はカマド跡のほかに焼土の広がるカマド痕跡がありつくりかえが行われていた。各住居址の大きさはおおむね大型・中型・小型があり、３号・８号住居址は大型、２号・４号・７号住居址は中型、５号・６号住居址は小型となる。住居ごとのまとまりは西に４号・６号・７号住居址、東に２号・３号・５号・８号住居址と１号堀立柱建物址となっている。出土遺物のなかで、特筆的なものは１号堀立柱建物址から出土した漆紙小片、瓦塔破片が上げられる。残念ではあるが漆紙には赤外線ＴＶによっても文字が見られなかった。しかし瓦塔は宮ノ前第２遺跡に次いで県内で２例目であり、仏教関連の施設がかつて当該地域にあったことが想像される。なお現在入戸野集落南側にある宝蔵寺がかつてはこの地にあったと言われている。ほかに土錘の出土が比較的目立つことも本遺跡の特色となっており、漁労にかかわるものであろうか。また炭化材の多量出土により焼失家屋と判断される住居があるが、これら炭化材を含めた種子や骨の自然科学的分析により、当時の家では構築材としてクヌギを用いていたという住生活や、人間はシカ・イノシシといった大型獣の骨付き肉を食べていたという食生活の一端がうかがえる結果が得られている。

おわりに

半縄田遺跡から発見された遺構と遺物は各時期の歴史を解明するうえで重要なものであるが、本報告は限られた作業のなかでなされたもので、遺構と比較的遺存状態の良い遺物を抽出し呈示したにすぎない。遺構・遺物の詳細な検討等がなされず不十分な点は否めないが、本書が今後の調査・研究に資することができれば望外の喜びである。

なお、本遺跡の発掘調査は夏季～秋季に行われ、地元の皆様の御理解と御協力により円滑に終了することができた。記録的な猛暑の夏にもかかわらず調査に参加していただいた方々に厚くお礼を申し上げる次第である。

写　真　図　版



遺跡遠景

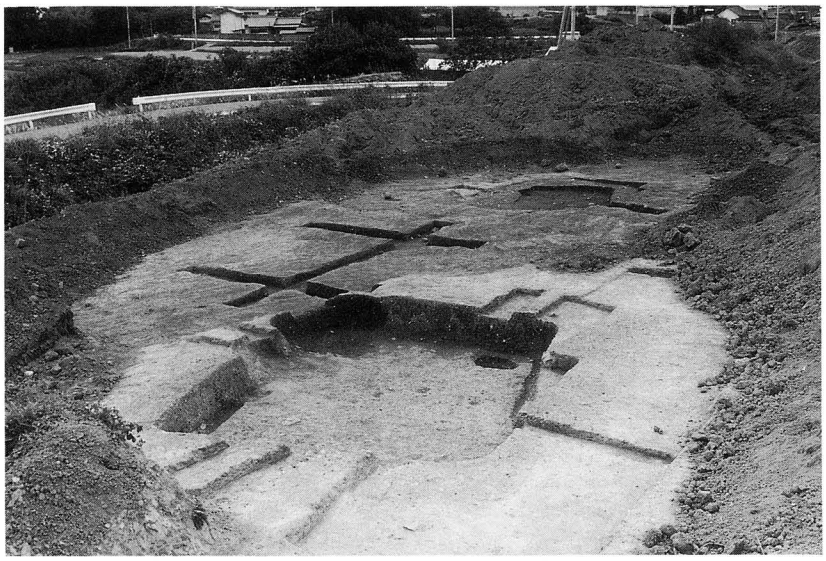
1号堀立建物址

2号住居址

発掘風景

3号住居址遺物出土状態

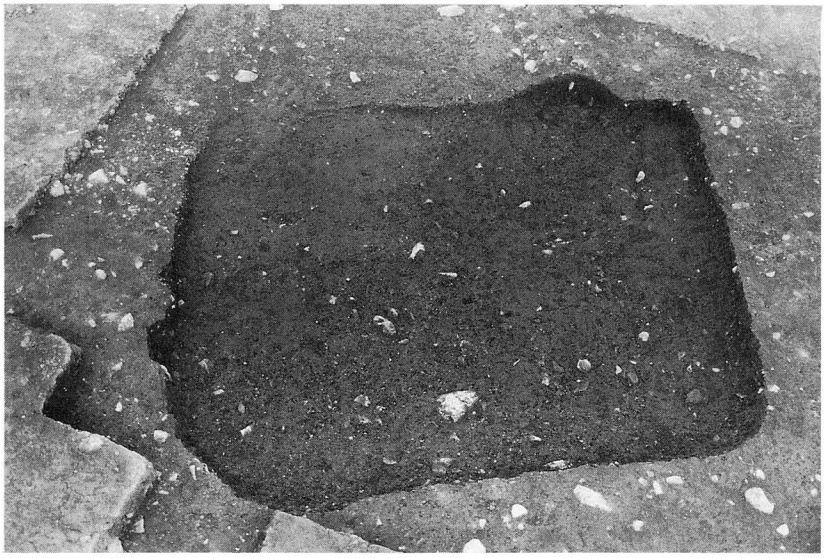
3号住居址



遺跡近景

4号住居炭化材出土状態

4号住居址



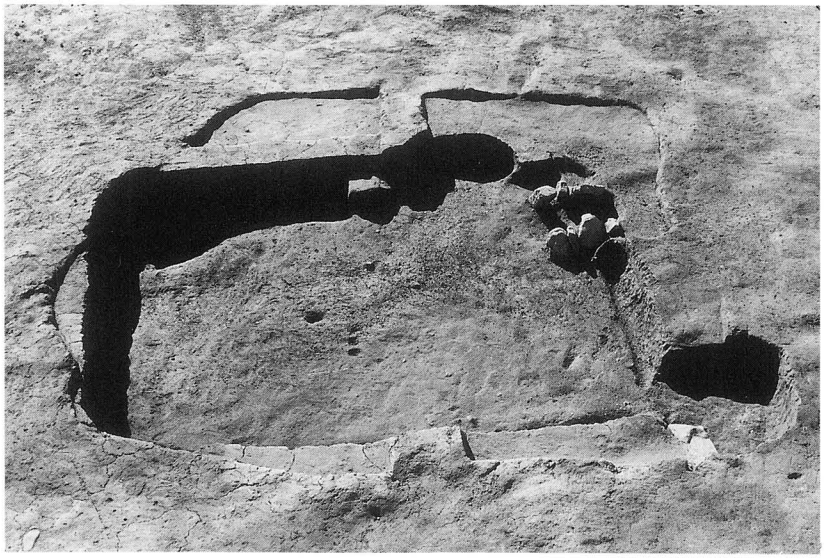
5号住居址

調査風景

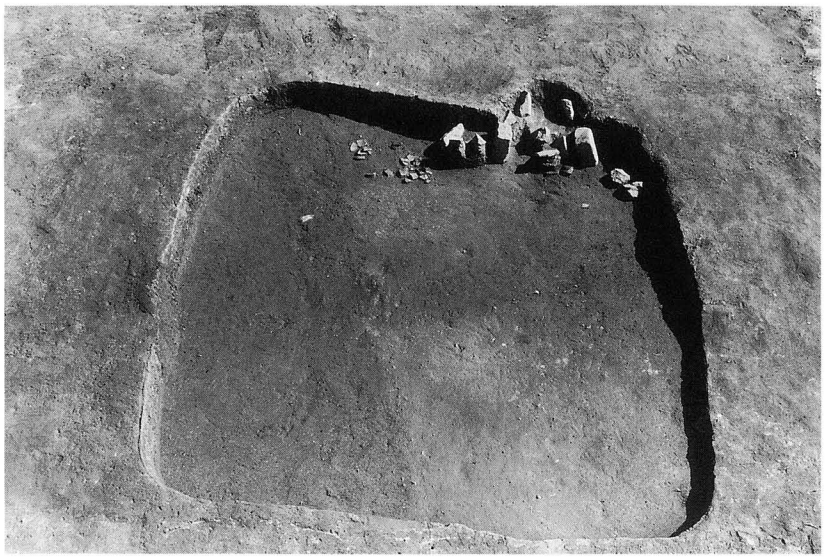
発掘風景

6号住居址遺物出土状態

測量風景

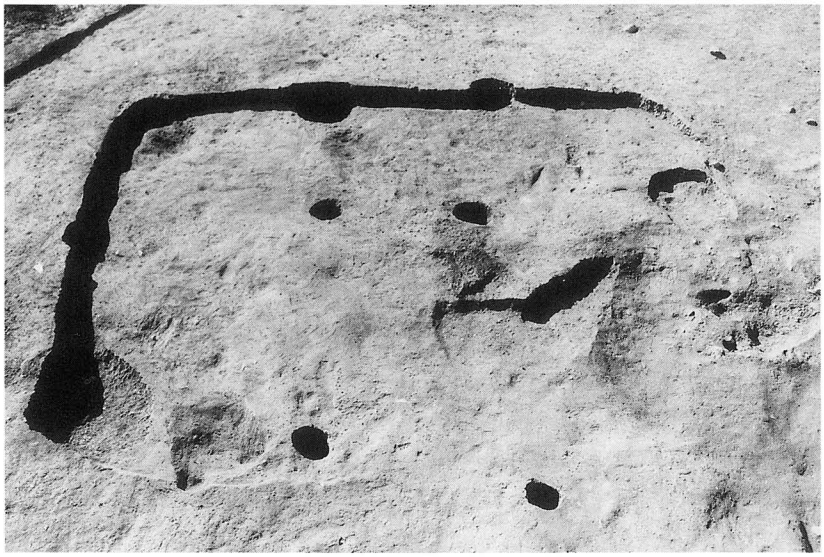


6号住居址

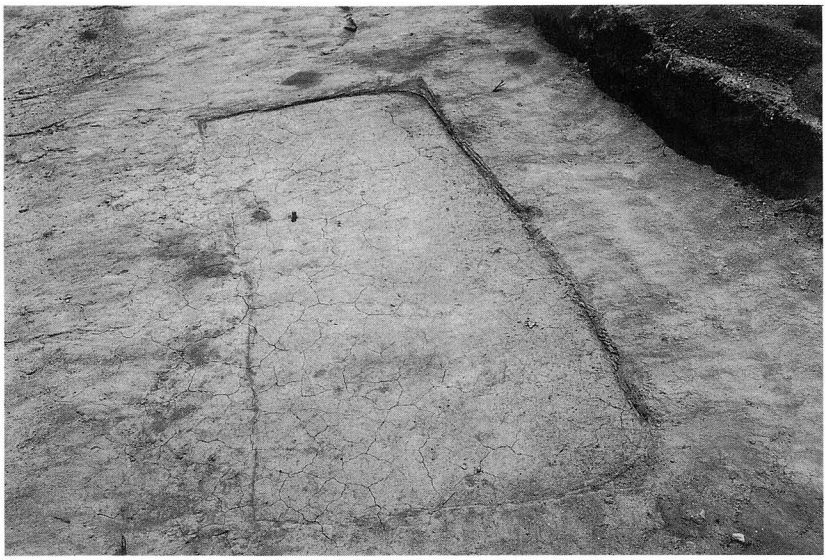


7号住居址

8号住居址遺物出土状態



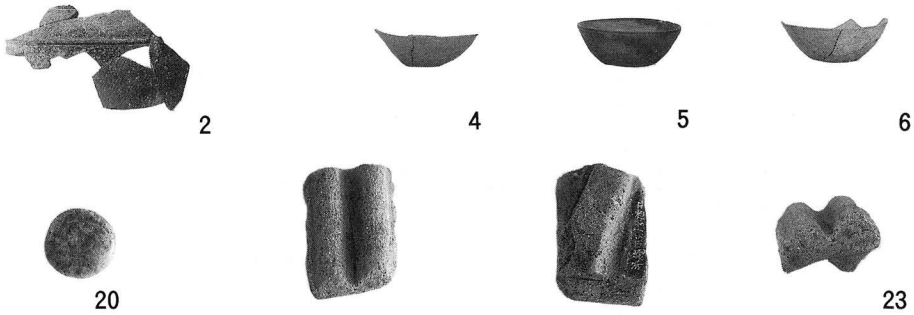
8号住居址



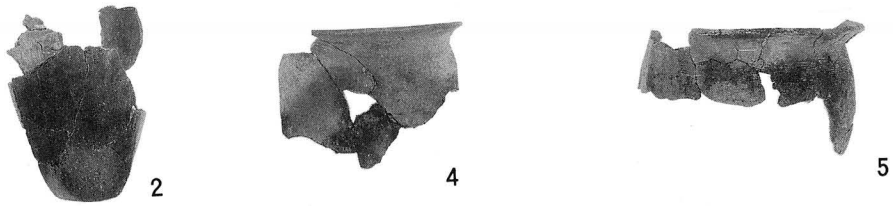
水田跡（北側）

水田跡（南側）

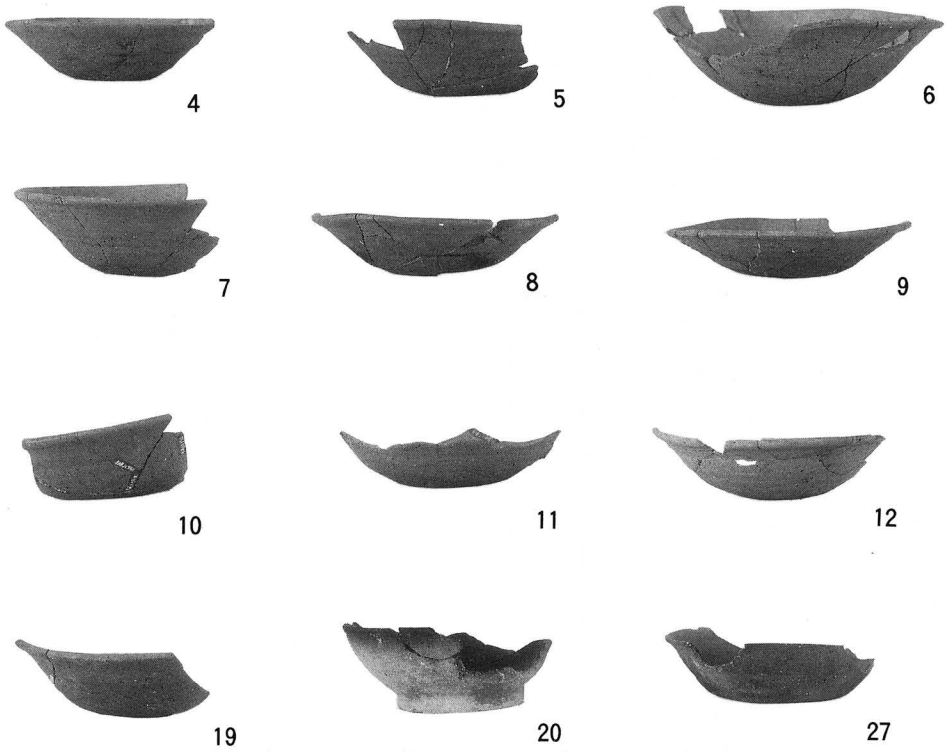
遺跡近景



1号堀立柱建物址出土遺物



2号住居址出土遺物



3号住居址出土遺物

37

39

46

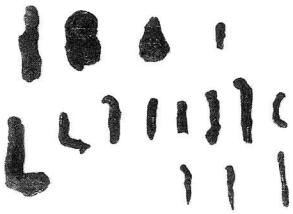
48

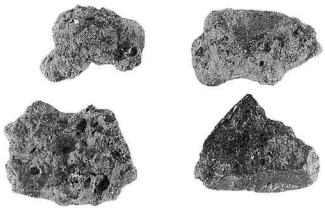
50

53

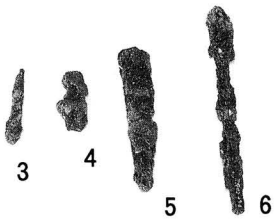
54

55 56 57 58


鉄製品


鉄　澤

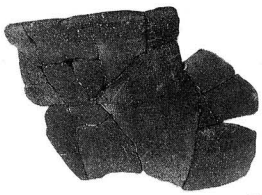
3号住居址出土遺物


3 4 5 6

4号住居址出土遺物

4

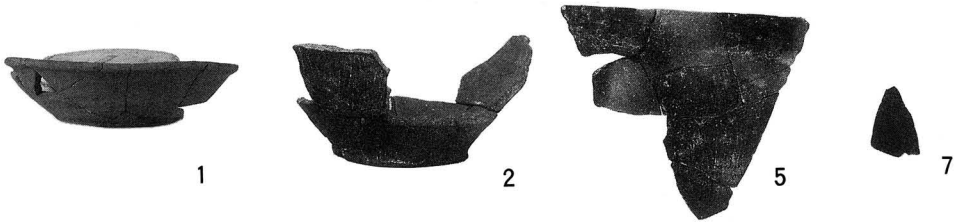
5号住居址出土遺物


5

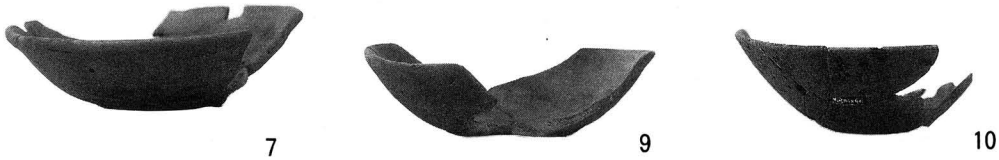
10

11

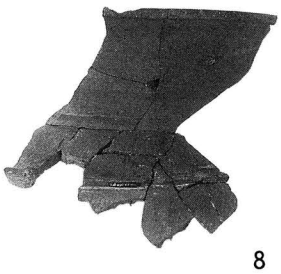
6号住居址出土遺物

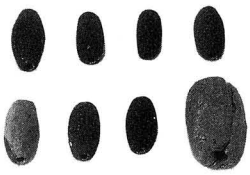


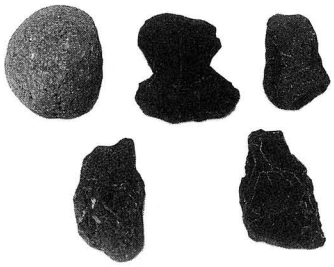
7号住居址出土遺物



8号住居址出土遺物







遺構外出土遺物

附　篇

半縄田遺跡　自然科学分析調査報告

半縄田遺跡　自然科学分析調査

〈目　的〉

はじめに …… p.1

1．木材利用の検討

(1) 試　料 …… p.1

(2) 方　法 …… p.1

(3) 結　果 …… p.1～9

(4) 考　察 …… p.10

2．種実の種類

(1) 試　料 …… p.10

(2) 方　法 …… p.10

(3) 結　果 …… p.10～11

(4) 考　察 …… p.11

3．カマドの燃料材に関する検討

(1) 試　料 …… p.11

(2) 方　法 …… p.11

(3) 結　果 …… p.11

(4) 考　察 …… p.13

4．骨の種類

(1) 試　料 …… p.13

(2) 方　法 …… p.13

(3) 結　果 …… p.13～14

(4) 考　察 …… p.14

引用文献 …… p.14

〈図表一覧〉

図１　各遺構の組織片の産状と植物珪酸体組成
図２　４号・６号・８号住居址炭化材出土位置

表１　樹種同定結果（１）～（６）
表２　各遺構の植物珪酸体分析結果

図版１　炭化材（１）
図版２　炭化材（２）
図版３　炭化材（３）
図版４　炭化材（４）
図版５　炭化材（５）
図版６　炭化材（６）・種実
図版７　組織片・植物珪酸体

半縄田遺跡　自然科学分析調査

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

半縄田遺跡は、釜無川右岸の河岸段丘上に位置し、平安時代の遺構・遺物が検出されている。このうち、住居址からは住居構築材や燃料材と考えられる炭化材が検出されている。特に４号・６号・８号住居址では、床面上に構築材と考えられる炭化材が良好な状態で確認されている。同様の例は、市内でこれまでにも確認されている。そのうち、堂の前遺跡では弥生時代後期後半の住居から検出された炭化材の樹種同定も行われ、コナラ属コナラ亜属クヌギ節が多い結果が得られている。しかし、平安時代の住居構築材の用材選択に関する資料は知られていない。

本報告では、半縄田遺跡の各住居から検出された、構築材や燃料材と考えられる炭化材の樹種同定、検出された種実の同定、カマド内土壌の植物珪酸体分析をそれぞれ行い、当該期の植物利用に関する資料を得る。また、カマド等から検出された骨についても、その種類を明らかにする。骨類同定については、早稲田大学 金子浩昌先生の協力を得た。

１．木材利用の検討

（１）試　料

試料は、１号掘立柱建物址から８号住居址までの各住居址と、遺構外、Ａ－9グリッド、Ａ－10グリッド、Ｂ－9グリッド、Ｃ－7グリッドから検出された炭化材247点である。この中には、同一名の試料が複数あるものも認められた。それらの試料については、試料名にハイフォン（－）で枝番号を付した。
なお、各試料の詳細については、樹種同定結果とともに表１に示した。

（２）方　法

試料の木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の割断面を作成し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡（無蒸着・反射電子検出型）を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

（３）結　果

種同定結果を表１に示す。炭化材の中には、保存状態が良好でないために樹種の同定に至らないものもあった。それらの試料については、観察できた範囲で木材組織の形態などを記し、組織の観察が全くできなかった試料は不明とした。また、試料中に複数の試料が認められるものもあり、その場合には確認できた全種類を表記した。同定された樹種は、針葉樹２種類（マツ属複維管束亜属・ヒノキ属）、広葉樹14種類（ヤナギ属・アサダ・クマシデ属・コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・クリ・ニレ属・ヤマグワ・サクラ属・ヌルデ・カエデ属・キブシ・アワブキ属・トネリコ属）とイネ科タケ亜科であった。各種類の解剖学的特徴などを以下に記す。

表１　樹種同定結果（１）

検出遺構	時代・時期	用途など	試　料　名	樹　種　名
１号掘立柱建物址	平安時代	住居構築材	炭－１	ヒノキ属
			炭－２	サクラ属
			炭－３	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
				イネ科タケ亜科
			炭－４	ヒノキ属
				アサダ
				ヤマグワ
			炭－５	広葉樹(つる性)
			炭－６	ニレ属
２号住居址	平安時代	用途不明	炭　はつみ穴	クマシデ属
		燃料材？	カマド	ニレ属
３号住居址	平安時代	住居構築材	炭－１	クリ
				ヒノキ属
			炭－２	コナラ属コナラ亜属コナラ節
				サクラ属
				ヒノキ属
				ニレ属
			炭－３	不明
			炭－４	ヒノキ属
				コナラ属コナラ亜属クヌギ節
				アワブキ属
				広葉樹(散孔材)
			炭－５	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭－６	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭－７	ヤナギ属
				トネリコ属
			炭－８	マツ属複維管束亜属
				広葉樹(散孔材)
				コナラ属コナラ亜属コナラ節
				アワブキ属
		用途不明	フイゴのハグチ	不明
４号住居址	平安時代	用途不明	南東落ち込み	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		住居構築材	炭N0．１	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0．２	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0．３	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0．４	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0．５	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0．６	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0．７	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
				コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0．８	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
				コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0．９	不明
			炭N0.10	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.11	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.12	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.13	コナラ属コナラ亜属クヌギ節

表１　樹種同定結果（２）

検出遺構	時代・時期	用途など	試　料　名	樹　種　名
４号住居址	平安時代	住居構築材	炭N0.14	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.15	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.16	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.17	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.18	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.19	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.20	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.21	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.22	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.23－1	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.23－2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.23－3	不明
			炭N0.24	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.25－1	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.25－2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.26	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.27	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.28	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.29	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.30	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.31	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.32	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.33	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.34	不明
			炭N0.35	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.36	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.37	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.38	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.39	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.40	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.41	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.42	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.43	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.44	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.45	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.46	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.47	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.48	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.49	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.50	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.51	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.52	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.53	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.54	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.55	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.56	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.57	コナラ属コナラ亜属クヌギ節

表１　樹種同定結果（３）

検出遺構	時代・時期	用途など	試　料　名	樹　種　名
４号住居址	平安時代	住居構築材	炭N0.58	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.59	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.60	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.61	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		用途不明	土坑炭N0.1－1	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			土坑炭N0.1－2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			土坑炭N0. 2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			土坑炭N0. 3	広葉樹(散孔材)
			土坑炭N0. 4	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			土坑炭N0. 5	広葉樹
			土坑炭N0. 6	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			土坑炭N0. 7	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			土坑炭N0. 8	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			土坑炭N0. 9	不明
			土坑炭N0.10	キブシ
			土坑炭N0.11	イネ科タケ亜科
		燃料材？	カマド炭	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
		住居構築材	炭－１	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭－２	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭－３	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭－４	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭－５	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
５号住居址	平安時代	用途不明	炭	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
６号住居址	平安時代	住居構築材	炭N0. 1	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0. 2	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0. 3	ニレ属
			炭N0. 4	イネ科タケ亜科
			炭N0. 5	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0. 6	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0. 7	不明
			炭N0. 8	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0. 9	ヒノキ属
			炭N0.10	ヒノキ属
			炭N0.11	ヤナギ属
			炭N0.12	ヌルデ
			炭N0.13	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.14	ヌルデ
			炭N0.15	ヌルデ
			炭N0.16	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.17	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.18	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.19	広葉樹(散孔材)
			炭N0.20	ヒノキ属
			炭N0.21	クリ
			炭N0.22	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.23	ヌルデ
			炭N0.24	ヒノキ属

表１　樹種同定結果（４）

検出遺構	時代・時期	用途など	試　料　名	樹　種　名
６号住居址	平安時代	住居構築材	炭N0.25	広葉樹(環孔材)
			炭N0.26	広葉樹(環孔材)
			炭N0.27	広葉樹(環孔材)
			炭N0.28	広葉樹(環孔材)
			炭N0.29	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
				ヒノキ属
			炭N0.30	ヌルデ
			炭N0.31	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.32	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.33	ヤナギ属
			炭N0.34	ヒノキ属
			炭N0.35	不明
			炭N0.36	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.37	散孔材
			炭N0.38	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.39	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.40	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.41	イネ科タケ亜科
			炭N0.42	ヒノキ属
			炭N0.43	不明
			炭N0.44	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.45	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.46	ニレ属
			炭N0.47	広葉樹(環孔材)
			炭N0.49	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.50	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.51	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.52	ニレ科
			炭N0.53	針葉樹
			炭N0.54	広葉樹(散孔材)
			炭N0.55	イネ科タケ亜科
			炭N0.56	クリ
			炭N0.57	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.58	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.59	イネ科タケ亜科
			炭N0.60	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.61	クリ
			炭N0.62	クリ
			炭N0.63	ヤナギ属
			炭N0.64	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.65	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.66	針葉樹
			炭N0.67	ヒノキ属
				コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.68	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.69	ヒノキ属
			炭N0.70	ヒノキ属

表１　樹種同定結果（５）

検出遺構	時代・時期	用途など	試　料　名	樹　種　名
６号住居址	平安時代	住居構築材	炭N0.71	ヌルデ
			炭N0.72	ヌルデ
			炭N0.73	クリ
			炭N0.74	ヌルデ
			炭N0.75	ヒノキ属
			炭N0.76	ヌルデ
			炭N0.77	ヤナギ属
			炭N0.78	ヌルデ
			炭N0.79	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.80	不明
			炭N0.81	ヌルデ
		用途不明	穴の炭	ヒノキ属
				不明
		用途不明	東南穴炭	ヌルデ
７号住居址	平安時代	用途不明	炭	クリ
８号住居址	平安時代	住居構築材	炭N0.１	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.２	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.３	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.４	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.５	ヒノキ属
			炭N0.６	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.７	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.８	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.９	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.10	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.11	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.12	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.13	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.14	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.15	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.16	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.17	ヒノキ属
			炭N0.18	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.19	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.20	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.21	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.22	不明
			炭N0.23	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.24	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.25	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.26	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.27	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.28	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.29	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.30	クリ
			炭N0.31	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.32	コナラ属コナラ亜属クヌギ節

表１　樹種同定結果（６）

検出遺構	時代・時期	用途など	試　料　名	樹　種　名
８号住居址	平安時代	住居構築材	炭N0.33	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.34	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.35	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.36	ヒノキ属
			炭N0.37	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.38	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.39	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.40	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.41	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.42	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.43	不明
			炭N0.44	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.45	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.46	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.47	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.48	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.49	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.50	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭N0.51	ヒノキ属
			炭N0.52－1	ヒノキ属
			炭N0.52－2	不明
			炭－１	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭－２	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
			炭－３	ニレ属
			炭－４	広葉樹(散孔材)
遺　構　外	平安時代	用途不明	炭－１	ヒノキ属
			炭－２	ヒノキ属
			炭－３	不明
	平安時代	用途不明	A－9	ヒノキ属
				カエデ属
	平安時代	用途不明	A－10	ヒノキ属
	平安時代	用途不明	B－9	ヒノキ属
			B－9	不明
	平安時代	用途不明	C－7	広葉樹(散孔材)

・マツ属複維管束亜属(Pinus subgen. Diploxylon sp.)　**マツ科**

早材部から晩材部への移行は急～やや緩やかで、晩材部の幅は広い。垂直樹脂道および水平樹脂道が認められる。放射柔細胞の分野壁孔は窓状、放射仮道管内壁には顕著な鋸歯状の突出が認められる。放射組織は単列、１～15細胞高のものと水平樹脂道をもつ紡錘形のものがある。

・ヒノキ属(Chamaecyparis sp.)　**ヒノキ科**

早材部から晩材部への移行は緩やか～やや急で、晩材部の幅は狭い。樹脂細胞は晩材部に限って認められる。放射組織は柔細胞のみで構成され、柔細胞壁は滑らか、分野壁孔はヒノキ型で１～４個。放射組織は単列、１～15細胞高。

・**ヤナギ属** (Salix sp.)　　**ヤナギ科**

散孔材で、道管は年輪全体にほぼ一様に分布するが年輪界付近でやや管径を減少させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は異性、単列、１～15細胞高。

・**アサダ** (Ostrya japonica Sarg.)　　**カバノキ科アサダ属**

散孔材で、管孔は単独または放射方向に２～４個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にらせん肥厚が認められる。放射組織は同性～異性Ⅲ型、１～４細胞幅、１～30（50）細胞高。

・**クマシデ属** (Carpinus sp.)　　**カバノキ科**

散孔材で、管孔は放射方向に２～４(時に10以上)個が複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列状～交互状に配列する。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、１～３細胞幅、１～40細胞高のものと集合放射組織とがある。

・**コナラ属コナラ亜属クヌギ節** (Quercus subgen. Lepidobalanus sect. Cerris sp.)**ブナ科**

環孔材で孔圏部は１～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・**コナラ属コナラ亜属コナラ節** (Quercus subgen. Lepidobalauns sect. Prinus sp.)**ブナ科**

環孔材で孔圏部は１～２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・**クリ** (Castanea crenata Sieb. et Zucc.)　　**ブナ科クリ属**

環孔材で孔圏部は１～４列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、１～15細胞高。

・**ニレ属** (Ulmus sp.)　　**ニレ科**

環孔材で孔圏部は１～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合し接線・斜方向の紋様をなす。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～６細胞幅、１～40細胞高。

・**ヤマグワ** (Morus australis Poiret)　　**クワ科クワ属**

環孔材で孔圏部は１～５列、晩材部へ向かって管径を漸減させ、のち塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は密に交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅱ～Ⅲ型、１～６細胞幅、１～50細胞高。

・**サクラ属**（Prunus sp.）　　**バラ科**

散孔材で管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または２～８個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ型、１～３細胞幅、１～30細胞高。

・**ヌルデ**（Rhus javanica L.）　　**ウルシ科ウルシ属**

環孔材で、孔圏部は２～６列程度と考えられるが、全ての試料が年輪界で割れているために不明。道管は、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は異性Ⅲ～Ⅱ型、１～３細胞幅、１～40細胞高であるが、時に上下に連結する。

・**カエデ属**（Acer sp.）　　**カエデ科**

散孔材で、道管は単独および２～３個が複合、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管は単穿孔を有し、壁孔は対列～交互状に配列、内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、１～８細胞幅、１～60細胞高。

・**キブシ**（Stachyurus praecox Sieb. et Zucc.）　　**キブシ科キブシ属**

散孔材で、道管は年輪界に一様に分布し、その密度は高い。道管は階段穿孔を有し、壁孔は対列～網目状に配列する。放射組織は異性Ⅱ型、１～４細胞幅、１～60細胞高で時に上下に連結する。

・**アワブキ属**（Meliosma sp.）　　**アワブキ科**

散孔材で、管孔は単独または２～６個が複合する。道管は単または階段穿孔を有し、壁孔は小型で交互状に配列する。放射組織は大型で異性Ⅱ型、１～３細胞幅、１～50細胞高。

・**トネリコ属**（Fraxinus sp.）　　**モクセイ科**

環孔材で孔圏部は２～３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち漸減する。道管は単穿孔を有し、壁孔は小型で密に交互状に配列する。放射組織は同性（～異性Ⅲ型）、１～３細胞幅、１～40細胞高。

・**広葉樹**（つる性）

環孔材で、孔圏部４～５列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減する。道管は単穿孔を有し、単独もしくは２～４個が主として放射方向に複合する。放射組織は同性、１～５細胞幅、１～100細胞高以上。これらの特徴から、ツルアジサイ（Hydrangea petiolaris Sieb. et Zucc.）の可能性があるが、特定には至らず、つる性と示すにとどめた。

・**イネ科タケ亜科**（Gramineae subfam. Bambusoideae sp.）

維管束が基本組織の中に散在する不斉中心柱をもつ。タケ亜科は、タケ・ササ類であるが解剖学的特徴では区別できない。

（4）考　察

住居構築材と考えられる炭化材には、多くの種類が確認された。このうちクヌギ節とコナラ節は、市内堂の前遺跡(弥生時代後期後半)や、北巨摩郡長坂町健康村遺跡(平安時代)の住居構築材にも多数確認されている(高橋，1987;パリノ・サーヴェイ株式会社，1994)。これらの結果から、本地域では少なくとも弥生時代後期以降、クヌギ節・コナラ節の木材が住居構築材に多用されていたことが推定される。

今回の調査では、４号、６号、８号住居址から多くの炭化材が検出されている。各住居址の樹種構成を見ると、４号および８号住居址からは検出された炭化材の多くはクヌギ節である。一方、６号住居址ではクヌギ節以外にもヒノキ属・ヌルデ等が多く見られる。また、１号掘立柱建物址と３号住居址の炭化材は、検出位置が不明ではあるが、その中に多くの種類が認められる。これらの結果から、住居によって構築材の機種構成が異なっていた可能性がある。

住居構築材については、関東地方における調査例(高橋・植木，1994)などから、遺跡周辺から木材を得ていたことが推定される。構築材の種類構成が住居によってに異なる結果は、構築材の選択が強度・径・長さ・形状などによって行われ、特に樹種による選択が無かったことが考えられる。しかし、検出された炭化材は、全て火災とその後の埋積過程を経て残存したものであるため、当時の樹種の構成を正確に反映しているとは限らない。クヌギ節やコナラ節は、堅い木材であることから、比較的燃え残り易いことも考えられ、当時の樹種構成以上に強調されている可能性もある。現時点では、住居によって樹種構成が異なる原因を特定することはできず、今後周辺地域で同時期の資料を蓄積していく必要がある。

住居構築材以外の木材については、一部燃料材と考えられるものもあるが、その用途などの詳細は明らかではない。そのため、その用材選択については不明である。しかし、住居構築材に認められた樹種が多いことから、いずれも遺跡周辺で入手し、特定の樹木が選択された結果ではないと考えられる。

２．種実の種類

（1）試　料

試料は、１号掘立柱建物址から検出された種実遺体２点(１号住　得，１号住　特)である。このうち、１点は(１号住　特)は２片に割れた破片である。

（2）方　法

双眼実体顕微鏡下で、その形態的特徴から種類を同定する。

（3）結　果

試料は、２点ともモモに同定された。以下に形態的特徴を記す。

・モモ (Prunus parsica Batsch)　　バラ科サクラ属

炭化した核(内果皮)が検出された。完形のものは、黒色で大きさ約1.7cm程度。核の形はほぼ円形でやや偏平である。一方の側面にのみ縫合線が顕著に見られ、表面は不規則な線状のくぼみがあり全体としてあらいしわ状に見える。

（4）考　察

モモは栽培の為に渡来した植物といわれている。古くから人々に利用され、花の観賞や果実・種子を食用にすることから、当時も利用されていたと考えられる。モモは、古くは縄文時代前期に検出例が知られているが(長崎県伊木力遺跡；粉川，1988)、検出例・個体数が増加するのは弥生時代以降である。遺跡から出土したモモの形態分類に関しては、金原(1993)などいくつかの研究例がある。これらの研究例によれば、時代が新しくなるにつれて、小さく丸いものより、大型で偏平のものが多く検出される傾向があるといわれている。江戸時代以前に食べられていたとされる古い形質のモモの核は、小さくて丸みがあるといわれており(堀田，1980)、今回の形態もこれに近いと思われる。

３．カマドの燃料材に関する検討

（1）試　料

３号住居カマド内および６号住居から出土した骨とともに採取された土壌各１点である。

（2）方　法

試料中の植物珪酸体は、過酸化水素水・塩酸処理、超音波処理(70W.250KHz.　１分間)、沈定法、重液分離法(ポリタングステイト，比重2.5)の順に物理・化学処理を行って分離・濃集する。これを検鏡しやすい濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥する。乾燥後、プリュウラックスで封入しプレパラートを作製する。400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部(葉身と葉鞘)の葉部短細胞に由来した植物珪酸体(以下、短細胞珪酸体と呼ぶ)および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体(以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ)を近藤・佐瀬(1986)の分類に基づいて同定・計数する。今回は、前述の理由から特にイネ科葉部短細胞列や葉身機動細胞列などの組織片に注目して分析を行った。

（3）結　果

同定結果を表２、組織片の産状および植物珪酸体組成を図１に示す。３号住居カマド試料では、ススキ属短細胞列やイネ属穎珪酸体・短細胞列が検出され、不明組織片の検出も目立つ。単体の植物珪酸体では、イネ属やウシクサ族(ススキ属)の出現率が高く、タケ亜科、キビ族、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。

６号住居では、不明組織片がわずかに認められる。単体の植物珪酸体では、タケ亜科やウシクサ族の出現率が高く、イネ属、キビ族、ヨシ属、イチゴツナギ亜科などが認められる。

表2　各遺構の植物珪酸体分析結果

種　類(Taxa)　　試料名	3号住 ｶﾏﾄﾞ内	6号住 骨周囲
イネ科葉部短細胞珪酸体		
イネ族イネ属	76	19
キビ族	9	3
タケ亜科	17	84
ヨシ属	1	2
ウシクサ族ススキ属	56	34
イチゴツナギ亜科	2	3
不明キビ型	28	27
不明ヒゲシバ型	13	25
不明ダンチク型	16	20
イネ科葉身機動細胞珪酸体		
イネ族イネ属	34	23
キビ族	2	-
タケ亜科	13	26
ヨシ属	4	2
ウシクサ族	27	38
不明	33	49
合　計		
イネ科葉部短細胞珪酸体	218	217
イネ科葉身機動細胞珪酸体	113	138
検　出　個　数	331	355
組　織　片		
イネ属穎珪酸体	7	-
イネ属短細胞列	16	-
ススキ属短細胞列	3	-
不明組織片	84	6

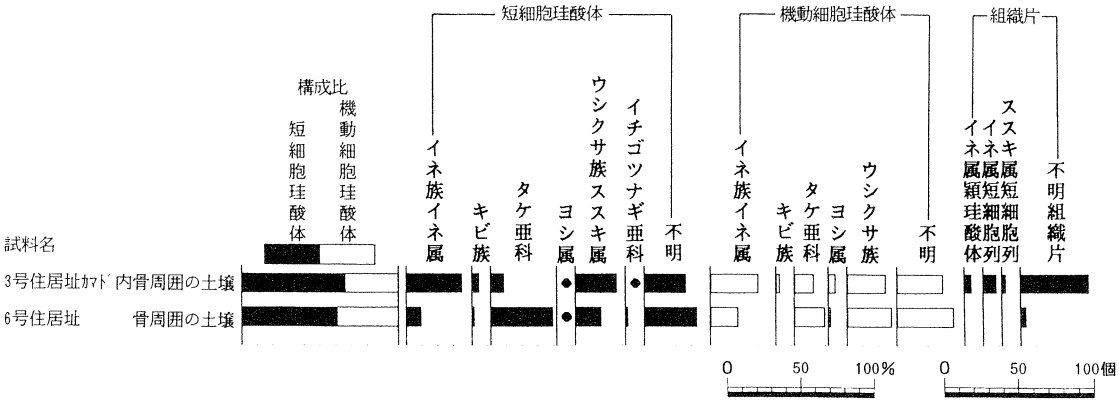


図1　各遺構の組織片の産状と植物珪酸体組成

植物珪酸体組成では、出現率は短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体それぞれの総数を基数とした百分率で算出した。なお、●○は1％未満の検出を示す。また、組織片は検出個数で示し、●は1個体の検出を示す。

（4）考　察

カマド内等でイネ科草本類が燃料材として利用されていれば、これまでの調査例(佐瀬，1982；大越，1985)から組織片が検出されると考えられる。今回の調査では、３号住居からはイネ属やススキ属の組織片が検出されたが、６号住居からは種類を同定できる組織片は得られなかった。この結果から、３号住居カマドでは少なくともイネ属やススキ属が燃料材として利用されていたことが推定される。また、不明組織片が確認されたことから、イネ属・ススキ属以外にも利用された植物があったと考えられる。

一方６号住居では、不明組織片が検出されたことから、何らかの植物が利用されていたと考えられるが、今回の調査結果からは種類を特定することはできなかった。

４．骨の種類

（1）試　料

試料は３・６・７・８号住居址より採取された骨の細片が混在した土壌である。そのうち３・７号住居址はカマドから採取された。これらの試料中から骨の細片をできる限り選別し、同定試料とした。

（2）方　法

肉眼およびルーペで観察を行った。

（3）結　果

以下、各住居址毎に述べる。

・３号住居址カマド内

強く火を受けて白色石灰化した骨の小断片であった。形態的に獣骨の種類を同定するには、余りに断片すぎて不可能であった。しかし、骨片は等しく同じ様な厚みのもので、これらはイノシシもしくはシカの四肢骨片と推定される。この断片の中に興味ある一片があった。それは焼けた獣骨片の一端に金属製の刃物で切りつけた切痕がみられるものである。骨片は一辺８mm程の方形のもので、２mmの厚みがある。大型獣の破片である。切痕は骨を斜めに切断するために４回にわたって切り込みをいれている。骨の形状から骨端部ではなく、骨幹部である。したがって、この傷は動物の解体痕というよりも、解体された骨格の一つを調理のためにカマド近くまで運び、骨を割って骨髄を摘出するか、これを利用し易くする作業があったのではないかと思われる。

・６号住居址

小骨片がかなり含まれていた。白色に石灰化している骨片もあるが、黒色あるいは褐色を呈して炭化状態にあるものも多かった。つまり蒸し焼きの状態があったと思われる。これらはすべて獣骨片のみで、大型獣のものに限られるようである。おそらく住居焼失の際に焼けたものであろう。住居の一角に獣の肉付きの骨が置かれていたのであろう。

また、より強い火で焼かれた骨で、真っ白になっていた獣骨も含まれる。これにも切断痕がみられた。

・７号住居址カマド

強い火で焼かれた骨片を含む。大型獣のものである。おそらくイノシシもしくはシカであろう。

・８号住居址

ニホンジカ　Cervus nipponの角の破片である。厚い緻密質が見えるので、成獣の個体のものであろう。焼けて灰白色を呈している。

（4）考　察

今回検出された動物遺体はすべて獣骨であって、イノシシもしくはシカと推定されるものの断片であった。それらはカマド近くで肉付きのものを調理する際あるいはその後に火中にはいったものと思われる。こうした獣骨の検出例で、平安時代の事例はまだ稀であるが、東京都の調査した落川遺跡では奈良・平安時代の住居址から獣骨を検出している。その多くはカマドの灰とともに埋存していた。動物はイノシシあるいはシカであった(未公表)。

＜引用文献＞

堀田　満 (1980)モモ・ビワ. 「植物の生活誌」, p.136－142, 平凡社.

金原正明・粉川昭平・太田三喜 (1992)モモ核を中心とする古代有用植物の変遷. 日本文化財科学会第９回大会研究発表要旨集 , p.76－77.

粉川昭平 (1988)穀物以外の植物食. 金関　怒・佐原　眞編「弥生文化の研究２　生業」, p.112－115, 雄山閣.

近藤錬三・佐瀬　隆(1986)植物珪酸体分析, その特性と応用. 第四紀研究, 25,p.31－64.

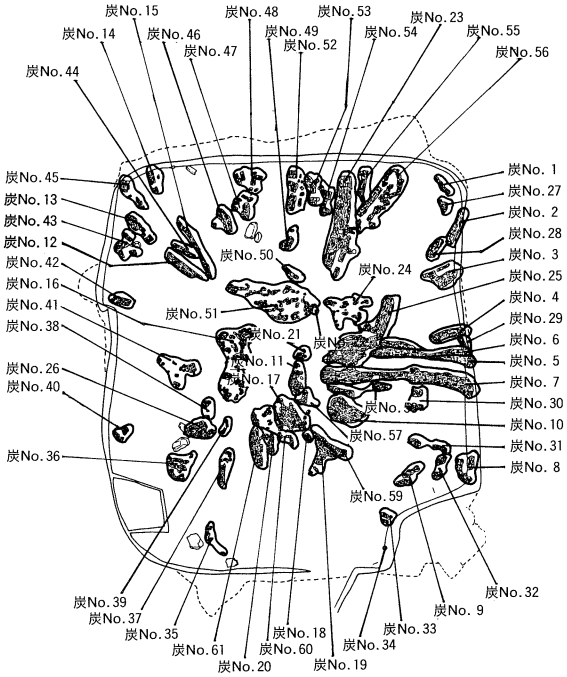
大越昌子 (1985)プラント・オパール分析. 「平賀遺跡群発掘調査報告書」, p.803－815, 平賀遺跡調査会.

パリノ・サーヴェイ株式会社 (1994)健康村遺跡自然科学分析調査報告. 「山梨県北巨摩郡長坂町健康村遺跡－(仮称)東京都新宿区立区民健康村建設事業に伴う発掘調査報告書－」, p.116－128, 新宿区区民健康村遺跡調査団.

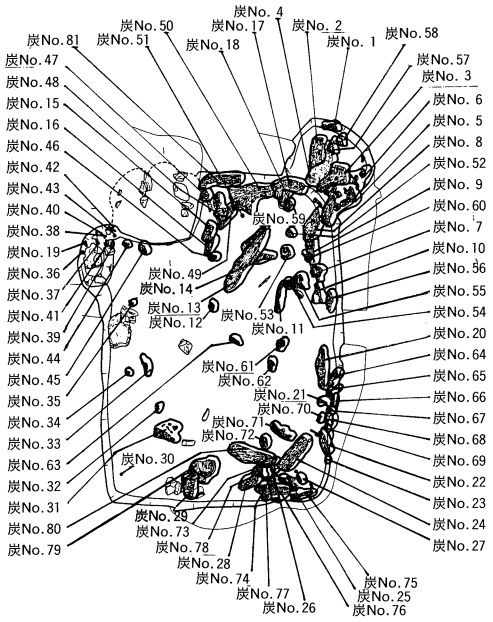
佐瀬　隆 (1982) 古墳時代住居址の炉に関する焼土について, －植物起源粒子の植物珪酸体から見て－. 東京都埋蔵文化財センター調査報告書第２集「多摩ニュータウン遺跡」, p.303－308.

高橋利彦 (1987) 炭化材について. 「山梨県韮崎市　中本田遺跡・堂の前遺跡　県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」, p.56－59,韮崎市教育委員会・峡北土地改良事務所.

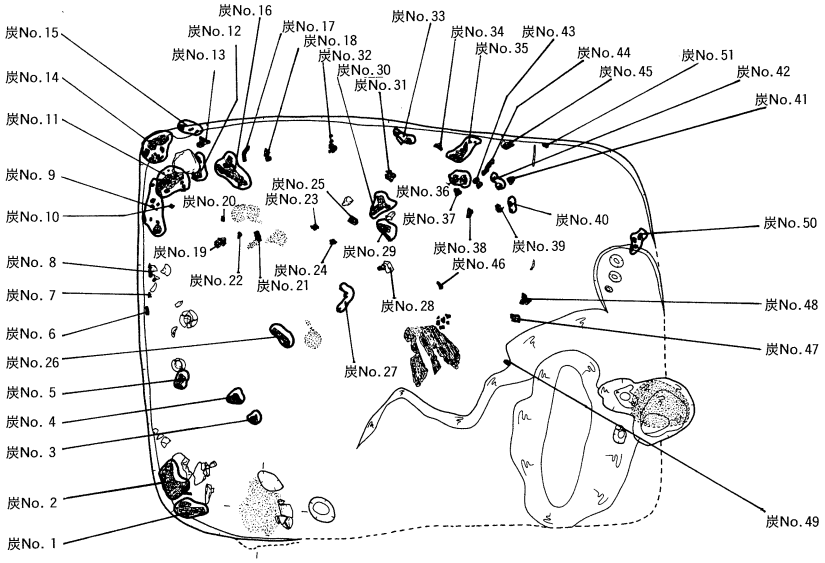
高橋　敦・植木真吾 (1994)樹種堂手からみた住居構築材の用材選択. PALYNO,2,P.5－18.



4 号 住 居 址



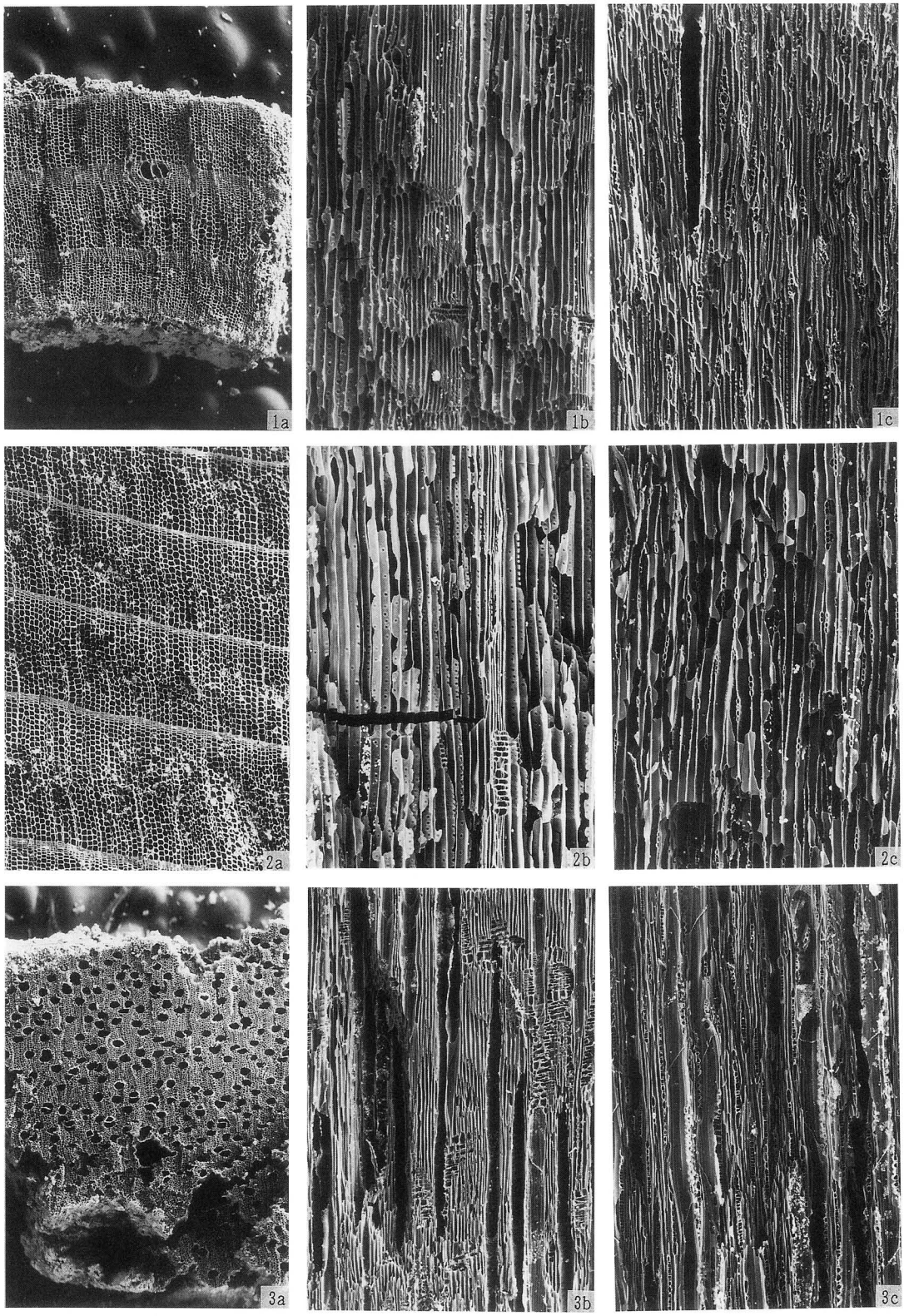
6 号 住 居 址



8 号 住 居 址

図２　４号・６号・８号住居址炭化材出土位置

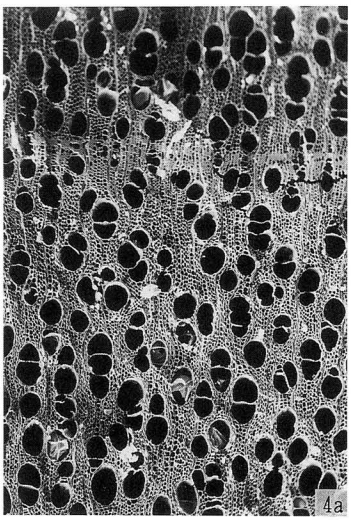
図版１　炭化材（１）

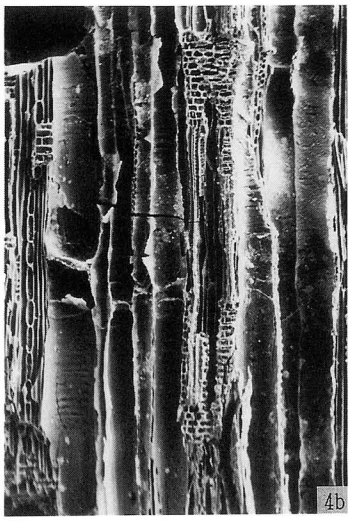


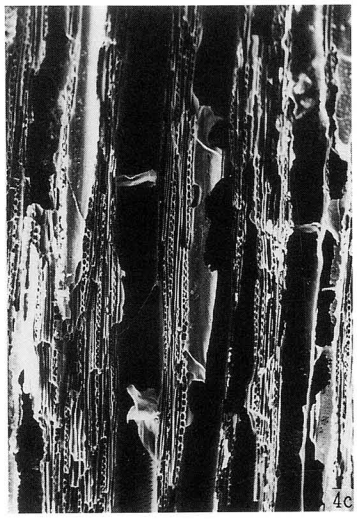
1. マツ属複維管束亜属（３号住居址炭-8）
2. ヒノキ属（８号住居址炭No. 5）
3. ヤナギ属（６号住居址炭No. 33）
　a：木口，b：柾目，c：板目

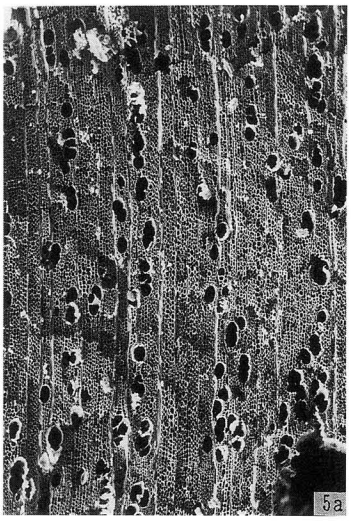
200μm：a
200μm：b, c

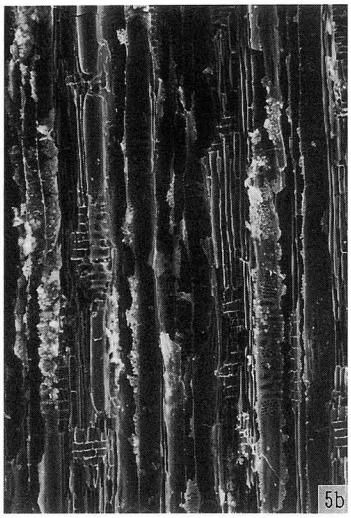
図版２　炭化材（２）

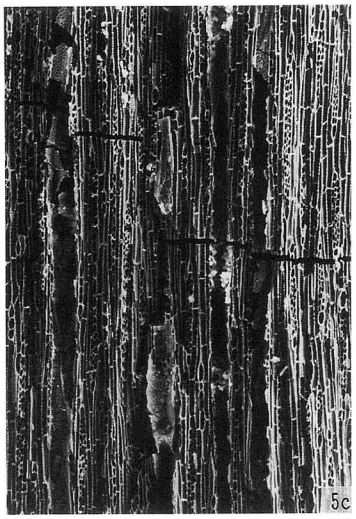


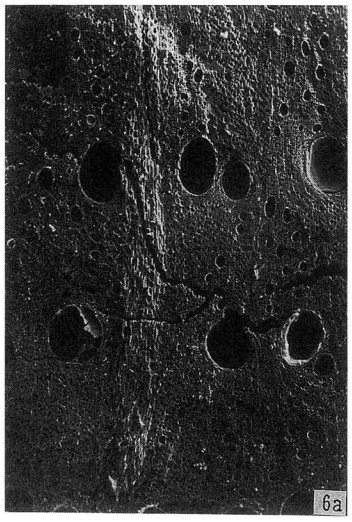


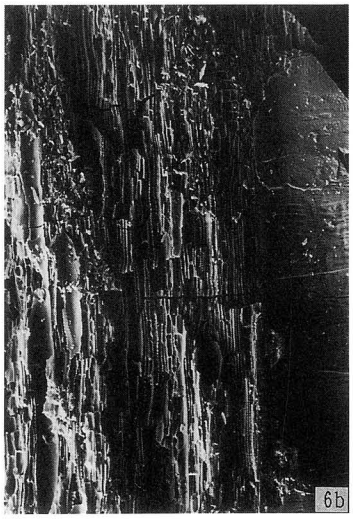


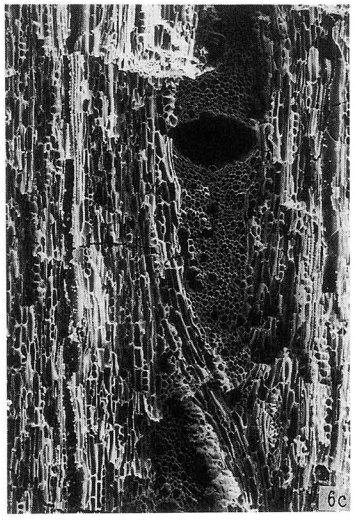








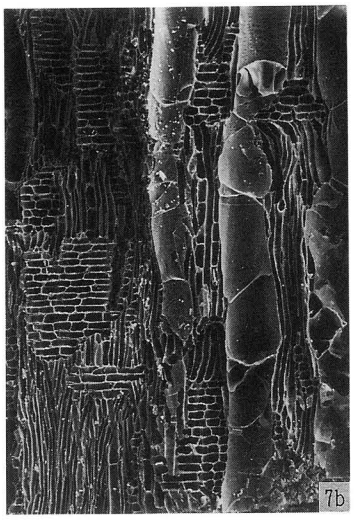


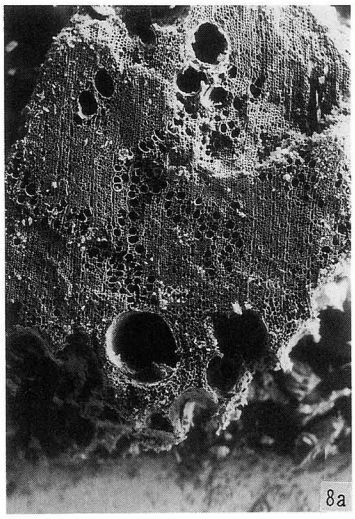


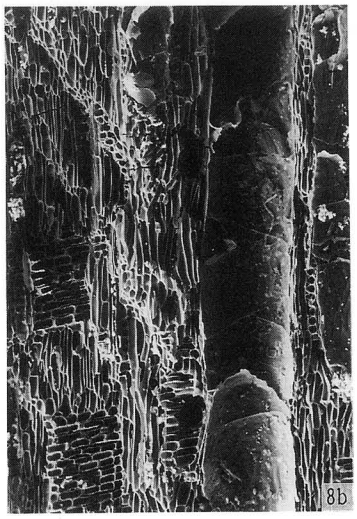
4. アサダ（１号住居址炭-4）
5. クマシデ属（１号住居址はつみ穴）
6. コナラ属コナラ亜属クヌギ節（６号住居址炭No. 32）
　a：木口，b：柾目，c：板目

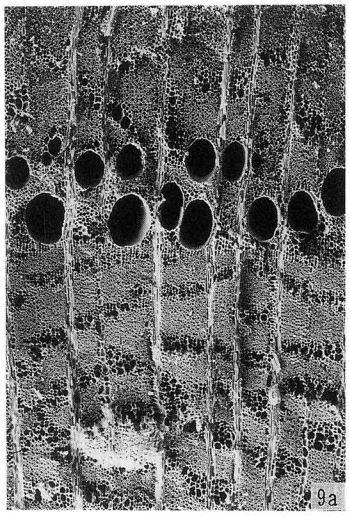
200μm：a
200μm：b, c

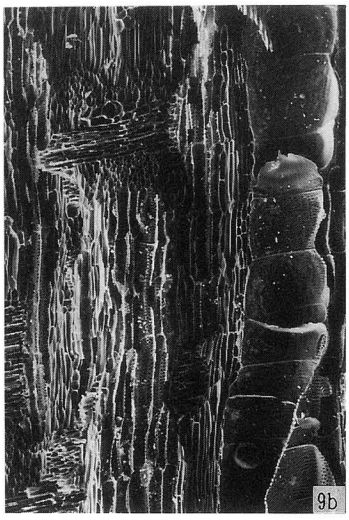
図版３　炭化材（３）

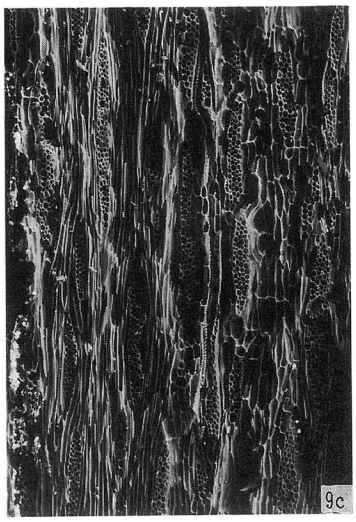








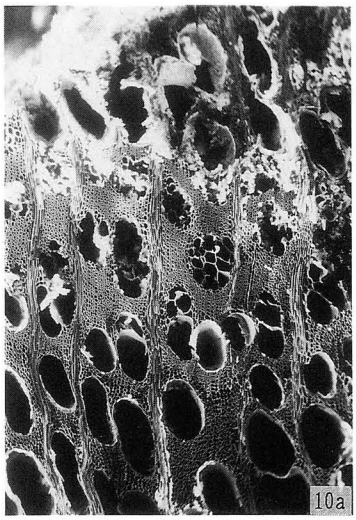


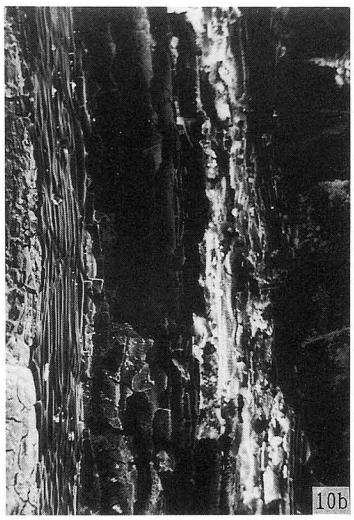


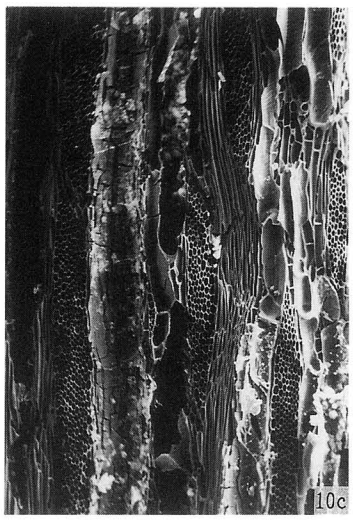
7. コナラ属コナラ亜属コナラ節（３号住居址炭-2）
8. クリ（６号住居址炭No. 21）
9. ニレ属（６号住居址炭No. 46）
　a：木口，b：柾目，c：板目

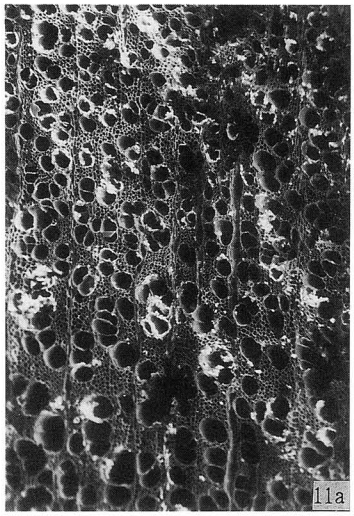
200μm：a
200μm：b, c

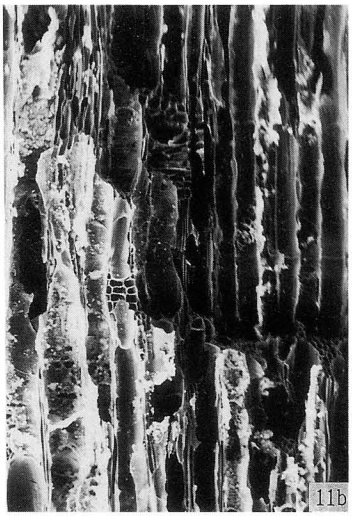
図版４　炭化材（４）

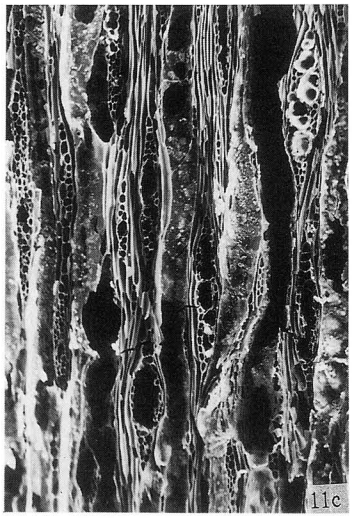


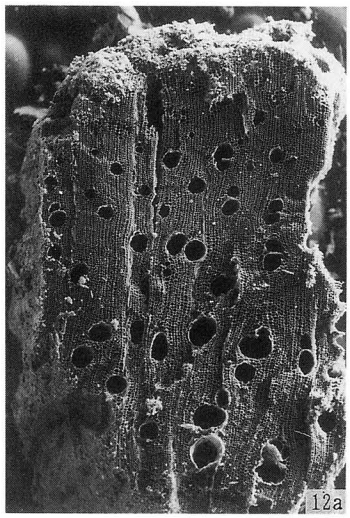


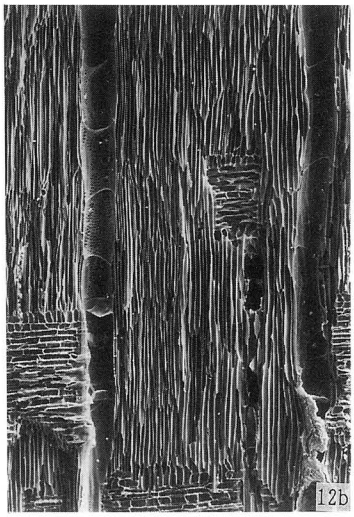


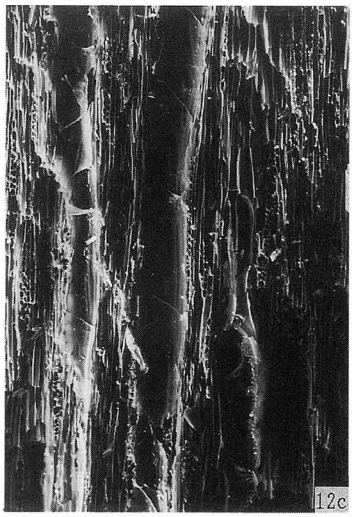








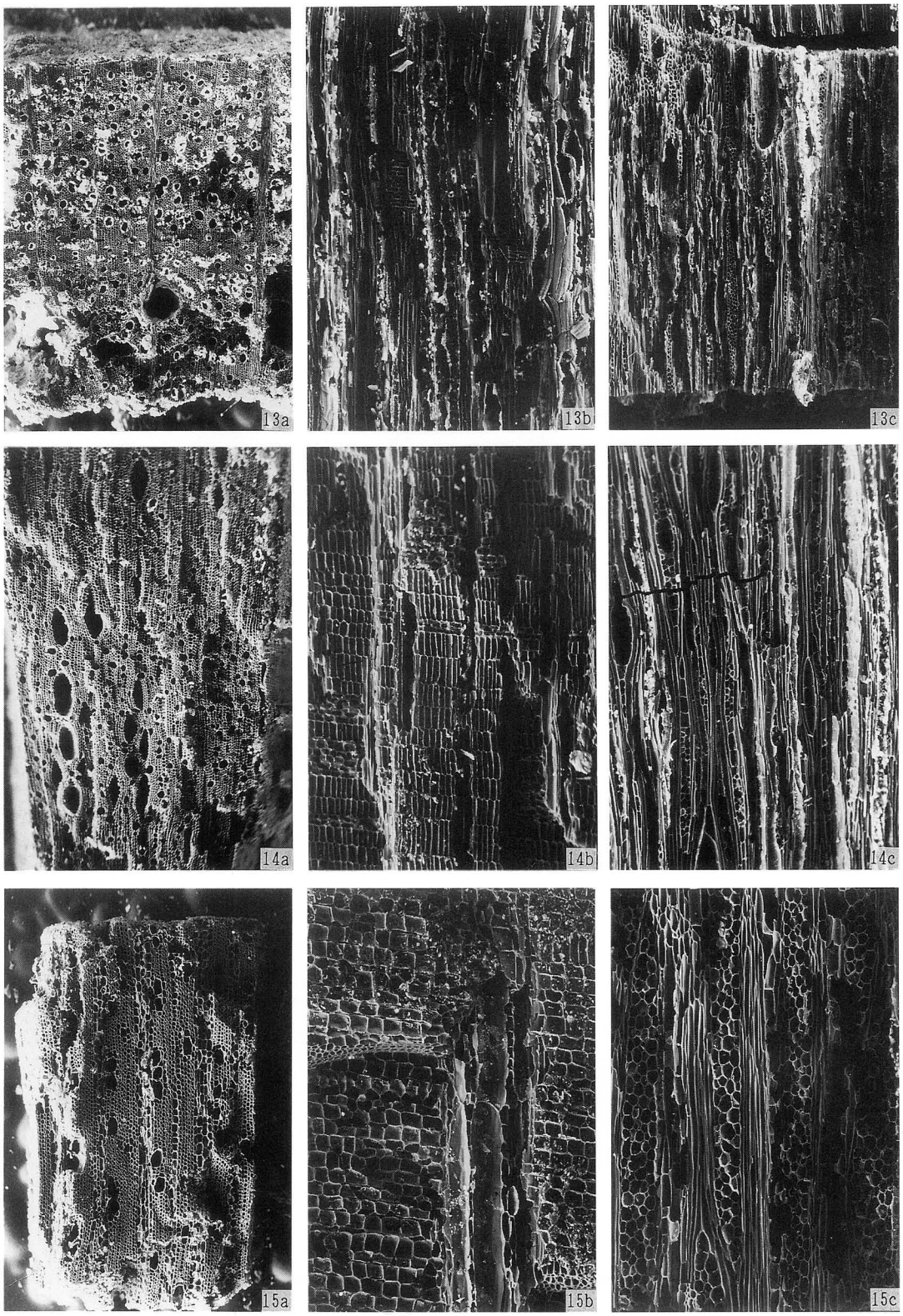




10. ヤマグワ（１号住居址炭-4）
11. サクラ属（１号住居址炭-2）
12. ヌルデ（６号住居址炭No. 71）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b, c

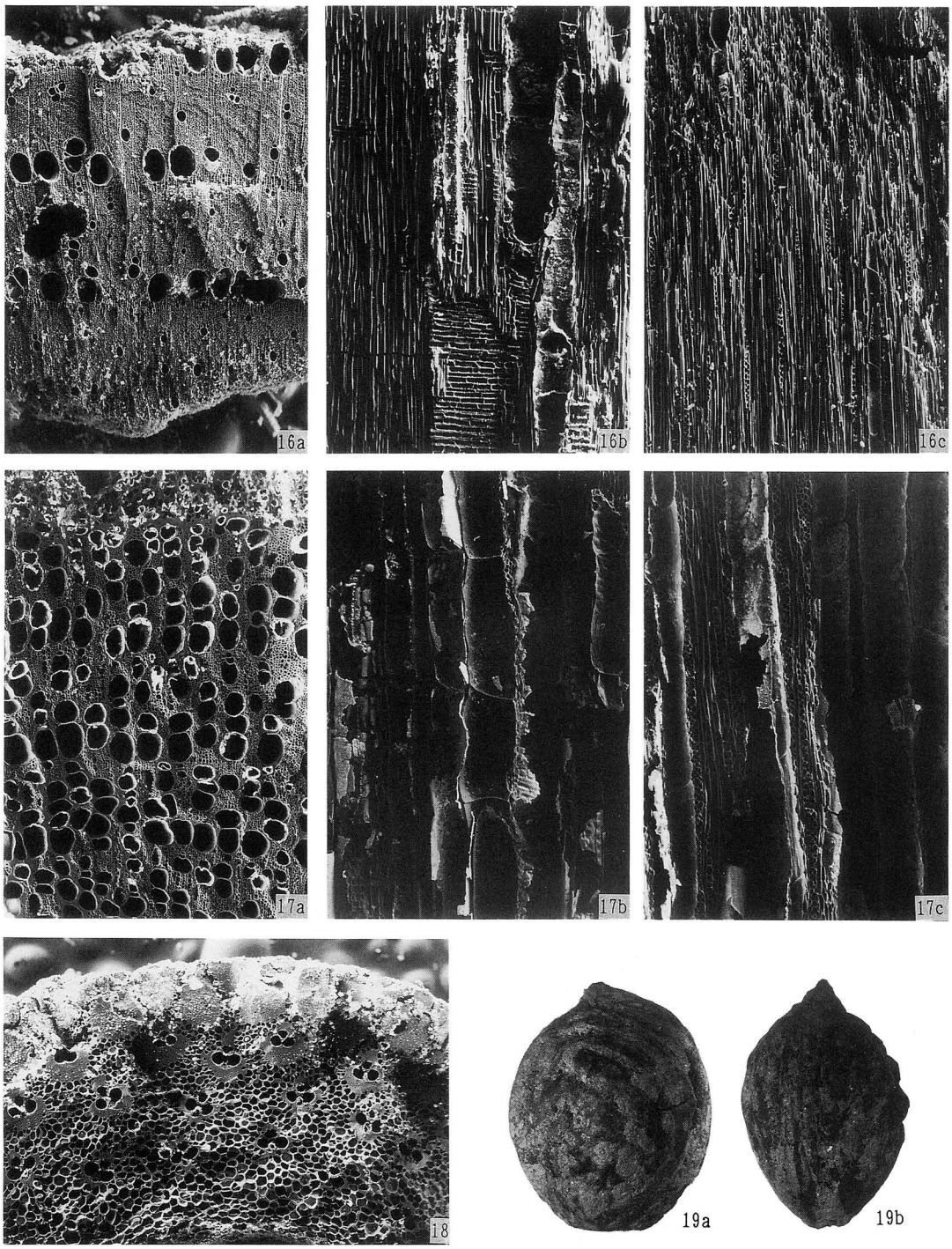
図版５　炭化材（５）



13. カエデ属（A-9グリッド）
14. キブシ（４号住居址土坑炭No. 10）
15. アワブキ属（３号住居址炭-8）
　a：木口，b：柾目，c：板目

200μm：a
200μm：b, c

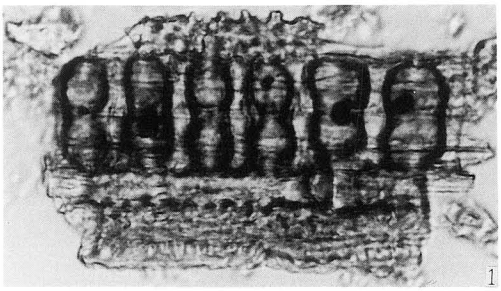
図版６　炭化材（６）・種実

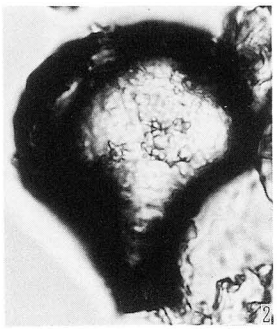


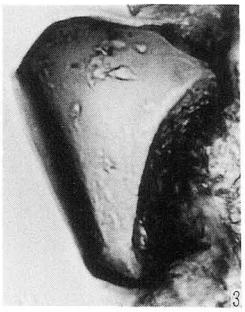
16. トネリコ属（３号住居址炭-7）　a：木口，b：柾目，c：板目
17. 広葉樹 つる性（１号住居址炭-5）　a：木口，b：柾目，c：板目
18. イネ科タケ亜科（１号住居址炭-3）　横断面
19. モモ（１号住居址　得）　a：正面，b：側面

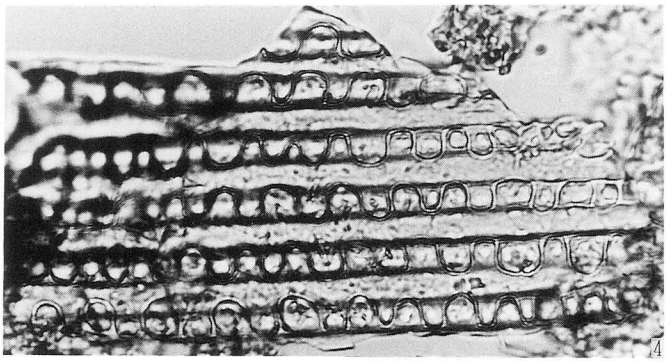
200μm：a, 18
200μm：b, c
5mm：19

図版７　組織片・植物珪酸体









50μm

1. イネ属短細胞列(3号住;ｶﾏﾄﾞ内)
2. イネ属機動細胞珪酸体(3号住;ｶﾏﾄﾞ内)
3. ウシクサ族機動細胞珪酸体(3号住;ｶﾏﾄﾞ内)
4. 不明組織片(3号住;ｶﾏﾄﾞ内)

半 縄 田 遺 跡

1995年　３月23日印刷
1995年　３月31日発行

発　行　韮崎市教育委員会
〒407　山梨県韮崎市水神一丁目３番１号
ＴＥＬ　0551－22－1111(代)

印刷　有限会社　タクト／印刷・デザイン